緑と水の森林ファンド

# 緑と水の森林ファンド公募事業報告集

Vol. 11

「～森のめぐみ・子どもたちへのメッセージ～
「どんぐりからうつわまで」出前講座開設事業（仙台市：仙台保育園出前教室）
大野木工生産グループ（岩手県洋野町）

公益社団法人　国土緑化推進機構

# はじめに

昭和63年に3月に「緑と水の森林基金」が創設されてから、32年余の歳月が経過しました。平成23年7月には、機構の組織が社団法人から公益社団法人に変更となったことに伴い「緑と水の森林基金」は「緑の水の森林ファンド」に名称を変更し、ファンドの運用収入を活用して森林資源の整備や水源かん養等の課題を中心に、「国民参加の森林づくり運動」推進のため幅広い事業を展開してまいりました。

平成24年12月「国際森林デー」の制定、平成25年11月「国連持続可能な開発のための教育10年（ESD）」世界会議等の意義を念頭に、森林の重要性に対する理解の推進を図るとともに、森の幼稚園など新たな森林の利用や森林環境教育の推進を具体的に図っていくことが重要となっています。さらに、東日本大震災では海岸林が多大な被害を受け、森林復興への支援が引き続き求められています。

このような中で、当事業は、「国民参加の森林づくり」の一層の推進のための普及啓発、森林ボランティア活動への支援、森林環境教育を通じた次世代の育成などの課題を重点に、実施主体により中央事業、都道府県事業、公募事業の3つに区分し実施してまいりました。

本報告書は、このうち公共事業（令和元年度）の成果を報告集として取りまとめたもので、事業内容は多種多様な課題にわたっております。ご高覧いただき皆様の活動の一助としてご活用いただければ幸いです。

終わりに、本冊子のとりまとめに当たりまして、ご協力いただきました皆様方に心から御礼申しあげます。

令和3年2月
公益社団法人　国土緑化推進機構

# 緑と水の森林基金・ファンド　刊行物一覧

「緑と水の森林基金」事業事例集　２１世紀へ引き継ぐ森林づくり　平成２年版　（１９９２.４）
「緑と水の森林基金」事業事例集　２１世紀へ引き継ぐ森林づくり　平成３・４年版（１９９４.８）
「緑と水の森林基金」事業事例集　２１世紀へ引き継ぐ森林づくり　平成５・６年版（１９９６.３）

緑と水の森林基金　公募事業　調査研究成果選集　ＶＯＬ１　緑と水のサイエンス　（１９９６.８）
緑と水の森林基金　公募事業　調査研究成果選集　ＶＯＬ２　緑と水のサイエンス　（２００１.７）
緑と水の森林基金　公募事業　調査研究成果選集　ＶＯＬ３　緑と水のサイエンス　（２００４.６）
緑と水の森林基金　公募事業　調査研究成果選集　ＶＯＬ４　緑と水のサイエンス　（２００７.８）
緑と水の森林基金　公募事業　調査研究成果選集　ＶＯＬ５　緑と水のサイエンス　（２００９.５）
緑と水の森林基金　公募事業　調査研究成果選集　ＶＯＬ６　緑と水のサイエンス　（２０１０.４）

緑と水の森林基金　緑と水の森林基金公募事業報告集　ＶＯＬ１　（２０１１.　３）
緑と水の森林基金　緑と水の森林基金公募事業報告集　ＶＯＬ２　（２０１２.　３）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ３　（２０１２.１２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ４　（２０１３.１２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ５　（２０１５.　３）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ６　（２０１６.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ７　（２０１７.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ８　（２０１８.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ９　（２０１９.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ10　（２０２０.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド公募事業報告集　ＶＯＬ11　（２０２１.　２）

緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ１　（２０１３.　３）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ２　（２０１３.１２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ３　（２０１４.１２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ４　（２０１６.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ５　（２０１７.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ６　（２０１８.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ７　（２０１９.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ８　（２０２０.　２）
緑と水の森林ファンド　緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集　ＶＯＬ９　（２０２１.　２）

# 目　次

## 普及啓発


全国育樹祭に向けた、「森のようちえん」を生かした森林整備手法の確立と発信
／苫東・和みの森運営協議会……8
釧路森林資源活用円卓会議 10 周年記念くしろ「木づな」フェスティバル
／くしろ「木づな」フェスティバル実行委員会……9
少年・少女グループへの緑を通じた環境教育推進事業／青森県緑の少幼年団連盟……10
眺望山自然休養林を活用した健康増進活動／沖館地域緑の募金推進協力会……11
里山整備に若い力を～きのこプロジェクト～／岩手県立大野高等学校……12
～森のめぐみ・子どもたちへのメッセージ～「どんぐりからうつわまで」出前講座開設事業
／大野木工生産グループ……13
体感しよう「SDGs」！～森づくりは未来づくり～／特定非営利活動法人 水守の郷・七ヶ宿……14
自然にふれよう（山のがっこう）／特定非営利活動法人 SCR……15
森のようちえん・野外教育までの流れをつくる！ 木に触れる感じからはじまる！森の子たちの根っこ育み事業
／特定非営利活動法人　Akita コドモの森……16
秋田杉桶樽サミット～生活の中の秋田杉の桶と樽～／秋田杉桶樽サミット実行委員会……18
フォレストサポート・2019 ／ガールスカウト山形県連盟……19
地域材による木工技術の普及と木材利用の拡大事業／特定非営利活動法人 やみぞの森……20
1500 年の歴史ある埴輪の里で SDGS ／ NPO 環～ WA……21
静・古徳古道をめぐる散策路に付随した「冒険の森」整備事業／なか自然の会……23
サシバの里の「野遊びようちえん」／特定非営利活動法人 オオタカ保護基金……24
森に親しむ啓発活動／ぐんま山と森林推進協議会……25
森はともだち 楽しくまなぼう 森友 楽校／ぐんま森林インストラクター会……26
森の勉強と清掃とお楽しみ会／倉渕ヤマアジサイの会……27
環境の未来と夢を子供たちとともに／特定非営利活動法人 ジョイライフさやま……28
第４回子どもと森をつなぐためのリーダー養成講座／特定非営利活動法人 観照ボランティア協会……29
森林整備の推進に向けた効果的な普及啓発促進事業／一般社団法人 全国林業改良普及協会……30
森林認証材の普及・拡大と持続可能な森林経営の実現／一般社団法人 緑の循環認証会議……31
気候変動による自然資本への影響と対策に関する普及啓発活動／一般社団法人 産業環境管理協会……32
森林社会学会創設のための連続講座／「森づくり政策」市民研究会……33
「つくる」行為を通して、木の魅力発見プログラム／一般社団法人 TOBUSA……34
森づくり体験プログラム「森林の楽校（もりのがっこう）」2019・2020
／ JUON NETWORK（樹恩ネットワーク）……35
都市部における若者による森林環境教育の実践　／特定非営利活動法人 こがねい環境ネットワーク……36
小さな森で食べて遊んで森づくり／特定非営利活動法人 くにたち農園の会……37
都市と森林 新時代―木の都市を考える―／「森林・林業・山村問題を考える」シンポジウム実行委員会……38
身近にあるエネルギーとしてみる森林資源の活用と森林環境教育
／特定非営利活動法人　自然文化誌研究会……39
「水が繋ぐ地域と世代」促進事業／一般社団法人 全国森の循環推進協議会……41
木造文化遺産補修用材の持続的な確保について／一般社団法人 文化遺産を未来につなぐ森づくり会議……42

まちの中の森づくり活動／特定非営利活動法人　こどもりクラブ……43
野外活動教育者のための『木と森のものづくり研修プログラム』の検討と試行実践
／木育全国生産者協議会……44
地域資源の森林と堰の利活用ー世界かんがい施設遺産大河原堰、滝乃湯堰から学ぶー
／NPO 法人 調和の響きエコツーリズムネットワーク……45
森のようちえん全国交流フォーラム in ぎふ／森のようちえん全国交流フォーラム in ぎふ実行委員会……46
梨の木の森を楽しみ学ぶ森林環境教育／梨の木里山づくりの会……47
小学校授業での森林体験学習／特定非営利活動法人 水とみどりを愛する会……48
猿投の森音楽祭 2019「猿投の森を体験しよう」／公益社団法人 日本山岳会東海支部……49
地域材の有効活用による循環型社会の形成
／チェンソーアートクラブ　マスターズ・オブ・ザ・チェンソー東栄……50
日本の森林・木材利用セミナー／一般社団法人 日本木工機械工業会……51
「子どもたちと森を育て、そして遊ぼう」／一般社団法人 森の風……52
ユネスコエコパークの森　林道ウォーキング／一般社団法人 三重県森林協会……53
みんなで作ろう！森のアニメーション／NPO 法人 大杉谷自然学校……54
「三重の木の椅子展」開催事業／三重の木の椅子展実行委員会……55
地域産木材利用促進啓発事業／特定非営利活動法人 京都森林・木材塾……57
森を楽しもう！森で学ぼう！／一般社団法人 森のようちえん どろんこ園……58
いい音みつけよう！リュールシロフォン選手権！／一般社団法人　ガールスカウト大阪府連盟……59
地域の森と地域産木材の魅力を伝える「木材コーディネーター」養成事業／NPO 法人 サウンドウッズ……60
森林研修ツアー「兵庫の森づくり & 地形・地質と森林の成り立ち」／森林インストラクター兵庫……62
日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取／日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取実行委員会……63
森林を活用したプレーパーク活動／特定非営利活動法人 隠岐しぜんむら……64
森とともに SDGs ／特定非営利活動法人 コアラッチ……65
里山保全の普及啓発事業／NPO 法人 倭文（しとり）の郷……66
薪作り・炭焼きを通じての五感教育事業／NPO 法人 百華倶楽部……67
少年少女里山マイスター養成講座／特定非営利活動法人 徳島県森の案内人ネットワーク……68
「とくしま木づかいフェア 2019」の開催／とくしま木づかい県民会議……69
地域で育てる緑の少年団～森の学校の開催～／緑の少年団愛媛県連盟 ……70
森の育ち場 幼児の部 いっぽいっぽ／特定非営利活動法人 森の育ち場……71
森林と都市を繋ぐ「新・木造の家」設計コンペ／特定非営利活動法人 森林をつくろう……72
森と水を学ぶ面白塾／九州森林インストラクター会……74
森の有難さを知り森林ボランティアを学ぼう／スマイリー……76
女性目線の森林体験メニュー事業／特定非営利活動法人 鹿児島ボランティアバンク……77
森の恵みを実感する体験／特定非営利活動法人　みどりの風かんかん……78
R 元年度森林ボランティアの日活動 in「蒲生」／鹿児島県森林ボランティア連絡会……79
母子家庭の親子の森林体験／特定非営利活動法人 ひばり倶楽部……80
里山の暮らしから森林を考える体験事業／特定非営利活動法人 もりびと……81
森を身近に感じる体験プログラム／おやゆび姫……82

## 調査研究

幼小連携に役立つ森林体験プログラムに関する調査研究／一般社団法人 全国森林レクリエーション協会…84
林業用苗木の裸苗からコンテナ苗への移行における苗木生産経営の変化と課題の把握ー栃木県を事例にー
／一般財団法人 林業経済研究所……86
竹材のエネルギーの社会的枠組み構築に関する調査／一般社団法人 協同総合研究所……88
中学生から大学生まで連携して学校林を活用するための現地予備調査／慶応義塾 普通部 谷口真也……90
阿賀町三川地域における天然スギの樹幹解析を通じた森の成り立ちや森の構造の調査研究
／特定非営利活動法人　小山の森の木の学校……91
森林環境教育におけるインタープリター（環境教育指導者）トレーニングに関する研究
／公益財団法人 キープ協会 / 都留文科大学 増田直広……93
森林環境教育プログラムの開発に係る調査研究（第 3 年度）／公益社団法人 島根県緑化推進委員会……96

## 活動基盤整備

森でコミュニケーションしよう「里山再生プロジェクト」 ／学校法人 尚絅学院……100
大学生と留学生を対象とした森林環境教育プログラム／特定非営利活動法人 Peace Field Japan……101
「子ども樹木博士」実施団体の拡大・ネットワーク化の推進／子ども樹木博士認定活動推進協議会……103
「森から学ぶ」森林を活用した環境教育（森林 ESD）の推進／公益財団法人 Save Earth Foundation……104
学生と地域住民の両方を対象とした総合的な環境学習・ＥＳＤのフィールドとしての「ソフィアの森」の整備及び森林資源の活用の学びの場の創設／上智大学大学院 地球環境研究科……105
能登半島の中山間地域における地域住民と交流住民との連携による活性化
／早稲田大学　地域・地域間研究機構……106
安全で楽しい森林づくり活動を指導できるリーダー養成事業／モリダス……107
森のようちえんボランティアリーダー養成事業／のいちご会……108
「緑と水の森林ファンド」／ TNG 繋……109
妙法寺の宝“自教園”リニューアルプロジェクト／妙法寺ふれあいのまちづくり協議会……110
世界遺産の吉野山で森林環境整備活動／奈良県森林ボランティア連絡協議会……112
徳島県森林づくりリーダー養成講座／とくしま森林づくり県民会議……113
2019 年度　森林ボランティアリーダー養成講座／情報交流館ネットワーク……114
宮崎県みどりの少年団総合研究大会／宮崎県みどりの少年団連盟……115
座学と体験を通じた子どもリーダー養成事業パートⅡ／特定非営利活動法人 たんぽぽ……116
憩いの森づくり in 南城／あかゆらぬ花会……117

## 国際交流

気候変動対応と生物多様性保全と貧困対策に貢献する熱帯林での住民土地権尊重支援による森林保全の意義を伝えるセミナー実施／熱帯林行動ネットワーク……120

# 普　及　啓　発

# 全国育樹祭に向けた、「森のようちえん」を生かした森林整備手法の確立と発信

苫東・和みの森運営協議会
〒053-0047　北海道苫小牧市泉町1-5-6

## 1．活動の概要

まず、全国植樹祭開催跡地における森のようちえんの効果検証として、週末型森のようちえんの実施（年間10回）における幼児および保護者に向けた活動提供を行なった。合わせて、緑地管理専門家、森のようちえん実践者など有識者による現場視察を通して、先進事例の紹介および効果の検証と専門家による新たな手法の開発と提案を創造するワークショップを開催した。

次に、専門家の協力を経て、森のようちえんを通した森づくりの手法を提案するテキストを作成し、HPなどを活用した頒布を行なった。https://tomato-nagominomori.jimdofree.com/

育樹祭が延期されたため、全国育樹祭の機会を活用した普及啓発（実行委員会と協働）については、育樹祭の延期に伴い、「全国育樹祭1年前イベント」にて普及啓発を行なった。

## 2．活動の成果

これまで和みの森で実施してきたことが、有識者によって検証され、教育的な根拠を持ちそれを発信するツールにまで昇華させることができたことにより、「全国の植樹祭跡地は、森のようちえんによって手入れされる」というミッション達成に向けた大きな一歩を刻むことができたと考えている。また、育樹祭そのものは延期されたが、1年前記念イベントを通して、その有用性を当初想定していなかったメディアを駆使し、「木育」「森林サービス産業」という文脈とともに全国に波及させることができた。今後は、このデータをさらに磨き上げ、全国の「森のようちえんによる森林整備」という新たな手法とその理念を広げていけるようなアクションを起こしていきたいと考える。

## 3．参加者の声

・普段とは違う活動（歌、遊び、おやつ）を体験できて、新鮮であった（保護者）
・幼児の学びや育ちだけで森のようちえんを見ていたが、森の整備に幼児がここまで寄与できるという視点はなかった。このモデルを自分の地域でも広げていきたい。（専門家）

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | R元 5/16-R2 10/18 | 11月7日 | 11月8日 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | 森のようちえん<br>森の手入れ（植樹祭会場での間伐及び搬出） | スタッフ及び近隣の森のようちえん実施者によるワークショップ | 専門家による報告書の監修 | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 453人<br>10人<br>463人 | 25人<br>1人<br>26人 | 2人<br>1人<br>3人 | |
| 実　施　場　所 | | 北海道苫小牧市静内　第58回全国植樹祭会場跡地「苫東・和みの森」 | | | |

# 釧路森林資源活用円卓会議10周年記念
# くしろ「木づな」フェスティバル

くしろ「木づな」フェスティバル実行委員会
〒085-8505　北海道釧路市黒金町7-5

## 1．活動の概要

釧路森林資源活用円卓会議による木材利用推進の取組「くしろ木づなプロジェクト」を広くPRし、地域の木材の需要拡大と森林資源の循環利用の推進を通じて、林業・木材産業の振興を図る。

## 2．活動の成果

「くしろ木づなプロジェクト」を釧路地域の地域住民などに広くPRし、釧路の森林と木材のこれまでを地域住民に知っていただくため、次の内容を実施した。

・木製遊具の木育ひろば
・木育マイスターによるワークショップ
・「くしろ木づなプロジェクト」の取組紹介及び開発製品の展示
・高性能林業機械やチェンソーアートの実演・展示
・ペレットストーブ燃焼展示、薪割り・焚火体験
・「地産地消探検隊 in くしろ木づなフェスティバル2019」の実施
・釧路森林資源活用円卓会議10年間の活動紹介パネル展示
・その他、企業出展ブースなど

実施により森林の大切さや木材の良さを広くPRでき、森林整備に対する理解が一定程度得られたものと考えられる。今後も森林資源の循環利用が進むよう、くしろ木づなプロジェクト及び釧路森林資源活用円卓会議の取組を進めていく。

## 3．参加者の声

・木にふれあえる良いイベントでした。また開催してほしい。
・体験型イベントが多いのが良い
・木材を活用している会社などが多いのに感心した。
・地域木材を積極的に活用しようとする取組が素晴らしい

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 11月 9日 | 11月10日 | 計 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | くしろ木づなフェスティバルの開催 | くしろ木づなフェスティバルの開催 | | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 1,850人<br>3人<br>1,853人 | 2,267人<br>0人<br>2,267人 | 4,117人<br>3人<br>4,120人 | |
| 実　施　場　所 | | 北海道釧路市幸町３－３　　釧路市観光国際交流センター | | | |

# 少年・少女グループへの緑を通じた環境教育推進事業

青森県緑の少幼年団連盟
〒030-0813　青森市松原 1-16-25

## 1．活動の概要

県内 6 地区の緑の少幼年団育成強化を図るため、生態系・森林活用機能等の野外教室や交流会を実施し、次代を担う青少年達に環境教育の場として森林公園や地域の里山を活用し、森林・緑に対する理解を深め、生物多様性の保全や地球温暖化防止の意識を育む。

## 2．活動の成果

県内 6 地区 7 箇所で緑の少年団交流集会を開催した。

子供たちに森林の役割について地域の森林公園等を活用し、地球温暖化防止や県土の保全、水資源のかん養、木材生産等について体験学習しながら啓発する事が出来た。

## 3．参加者の声

・森林の重要性について知った。・自然観察が面白かった。
・丸太をノコギリで切る競争をして楽しかった。
・鹿の被害が多いことを学んだ。
・木登り体験が楽しかった。
・木の種類や葉っぱの形を学習した。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 7 月 26 日～<br>7 月 30 日 | 8 月 18 日～<br>8 月 20 日 | 9 月 29 日～<br>10 月 18 日 | 計 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業量 | 箇　所 | 3 箇所 | 2 箇所 | 2 箇所 | 7 箇所 | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 260 人<br>0 人<br>260 人 | 39 人<br>0 人<br>39 人 | 55 人<br>0 人<br>55 人 | 354 人<br>0 人<br>354 人 | |
| 実　施　場　所 | | 青森県　佐井村・新郷村・鰺ヶ沢町・西目屋村・七戸町・青森市・おいらせ町 | | | | |

# 眺望山自然休養林を活用した健康増進活動

沖館地域緑の募金推進協力会
〒038-0002　青森市沖館 3-2-17

## 1．活動の概要

青森市郊外にある眺望山自然休養林を活用して、森林が持つ心理的なリラクゼーション効果について地域市民、小学校児童を対象に森林セラピー体験活動を実施し、ストレスからくる病気やいじめの予防につなげて市民生活の健康や明るい街づくりに役立てることを目的に実施した。当日は、森林セラピストを総括指導者とし、ヨーガ講師、森林インストラクターを配置して、はじめに青森市森林博物館においてオリエンテーションを実施した。また、森林セラピストによる「森林の健康保養効果について」の講話並びに血圧測定、ストレス度チェックを行った。

その後、バスで眺望山自然休養林西口コース一入り口に移動し、森林セラピストの指導の下、ストレッチで体をほぐし出発。山頂までの 1.5 時間、途中、せせらぎでマイナスイオンを浴びながら水の流れに耳を澄まし、青森ヒバに囲まれてマットに寝ころび瞑想をするなどでリラックスしながら山頂着。山頂広場ではヨーガ講師による指導でしばしの間深呼吸や心身のリフレッシュ。昼食休憩後、東口コースを森林インストラクターによる青森ヒバや眺望山にまつわる歴史などの解説を挟みながら下山。また上下山の途中では、オオバクロモジ、山椒の葉で香りを楽しみ、山菜ミズ（ウワバミソウ）をかじって味を楽しんだ。

バスで森林博物館に戻った後、黒文字茶を飲み、森林浴後の血圧測定、ストレス度チェックを実施するとともに森林セラピストの終了面接、意見交換、そしてアンケートを行った。

## 2．活動の成果

ストレス度チェックを取り入れた森林浴体験会の企画は２回目であるが、当協力会会員、ヒノキアスナロ緑の少年団、同育成会及び一般市民の参加を得て実行することが出来た。今回の実施に当たっては、青森県内在住の森林セラピスト、ヨーガ講師及び青森森林インストラクター会の協力を得たほか、当協力会会員もスタッフに配置して実施した。また、実施準備としてスタッフ、森林セラピストによるコース状況、安全点検等事前調査を行い事故もなく実施できた。

さらに、オリエンテーションにおいて、「緑と水の森林ファンド助成事業であること、当協力会はヒノキアスナロ緑の少年団とタイアップした街頭募金や当会独自に町会家庭募金を主事業にしている」旨を説明して参加者の理解を深めた。

参加者からは「心身とも癒された。」等の感想が多く寄せられた。

## 3．参加者の声

参加者からは「・気持ちがすっきりした。（少年団員）・もっといろんなことを習いたい。（少年団員）・ヨーガ教室が楽しかった。・森の中で横になることで新たな発見がある。・涼しくて良い体験でした。・気分転換になった。・五感を意識してとてもリラックスできた。・今まで経験したことのないようなゆったりした時間でした。」等の感想が寄せられた。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 月　　日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 事業内容 | ストレス度チェックを取り入れた森林浴 | 9 月 8 日 | | 1 日のみの実施 |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 32 人<br>0 人<br>32 人 | 32 人<br>0 人<br>32 人 | |
| 実　施　場　所 | | 青森県青森市　青森市森林博物館、眺望山自然休養林 | | |

# 里山整備に若い力を～きのこプロジェクト～

岩手県立大野高等学校
〒028-8802　岩手県九戸郡洋野町大野 58-12-55

## 1．活動の概要

自然環境の復活や保全をとおして、青少年を対象に森林環境教育を促進することを目的としている。全校生徒で地域の里山を整備することにより、マツタケが発生しやすい里山の環境づくりを進め、秋の収穫を目指しながら、持続可能な環境保全の重要性を学ぶ。

学校の北方約 15 ㎞に位置する久慈平岳（標高 706.3m）の山麓に広がる約 1 ha の里山を地元の方から借り受け、外部の指導者の方々から助言・指導をいただきながら、適度に枝打ちをし、堆積した落ち葉を除去するなどの整備を進めて 16 年目（準備段階 1 年を含む）となる。

また、整備で生じた間伐材を活用して栽培したシイタケ・ナメコの栽培・収穫をとおして、持続可能な環境教育を実施する。

## 2．活動の成果

６月の里山整備は、前年度の台風被害による山道崩落修復工事中のため中止となったが、夏季休業中に自然科学部の生徒を中心に、里山整備を実施した。その後、９月末の収穫祭をとおして、先人が守ってきた豊かな自然とその恵みについて見つめ直し、自然と共生する人間の生活を考える機会となった。

また、里山の間伐材等を活用したホダ木に植菌したシイタケやナメコを収穫し、環境整備で生じた廃材を有効活用する新たな取組が軌道に乗り始めてきている。

これらの経験をとおして、地域社会の一員としての自覚が高まり、郷土愛が喚起されるとともに、自己肯定感や自己有用感が醸成できた。

## 3．参加者の声

・マツタケが収穫できず残念だったが、整備を続けて来年の収穫につなげたい
・マツタケの生育のために切った間伐材を植菌して、有効活用する活動は続けたい
・自然に任せながらも、人が手入れすることで里山が維持されていくことが分かった

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 9 月 26 日 | 10 月 28 日 | 11 月 14 日 | 計 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | 収穫祭<br>（マツタケ狩り） | シイタケ収穫 | ナメコ収穫 | | 予定されていた 6/26 の里山整備は山道工事により中止 |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 105 人<br>人<br>105 人 | 14 人<br>人<br>14 人 | 14 人<br>人<br>14 人 | 133 人<br>人<br>133 人 | |
| 実　施　場　所 | | 岩手県九戸郡洋野町 | | | | |

# ～森のめぐみ・子どもたちへのメッセージ～
# 「どんぐりからうつわまで」出前講座開催事業

大野木工生産グループ
〒028-8802　岩手県洋野町大町 58-12-33

## 1．活動の概要

全国の子どもたちに地域の山林資源を活かした木工食器をとおした、自然資源とモノづくりへの関心を高める森林環境教育や情操教育の活動を推進した。

## 2．活動の成果

これまで関連性が注目されなかった、「森づくり」と「モノづくり」を融合した　総合的な教育の実効性や役割が全国的な幼児教育関係者や保護者等の共通認識で実現されたことは大な成果である。本講座を通じて、こどもたちの森林環境とモノづくりへの関心が高まっており、地元小学校では大野木工の歴史や理念をテーマとした学習が始まった。また、全国的には木工給食器の導入による木育、食育木教育を取り入れる保育園等の意識の高まりがみられ、木工食器導入の拡大も出前講座活動が始まった 2009　年約 150 施設から現在（2019 年）300 を超える保育園等の導入となっている。

## 3．参加者の声

・出前教室は初めて開催。作り手自ら子どもたちに手作りで木の器を仕上げたり、森の樹木とモノづくりの関係をよくわかるように説明する姿にただただ感動した。子どもたちも毎日給食で使っている木の器により一層の親しみを感じている様子だ。出来れば毎年続けたい。（東京都　保育園長）

・子どもの保育園の「かえでの木」をモチーフの絵本は、大きな驚きだった。木工の職人さんたちが切り倒された「かえでの木」を器として新し命を吹き込み毎日給食器として使っている、私たちの子どもはなんて幸せなことか・・。　子どもたちもお椀をより一層大切に扱うことと思います。（仙台市　保護者）

実績報告とりまとめ表

| 実施時期 | 元年８月２日<br>～２年２月 16 日 | 元年 11 月２日<br>～11 月３日 | ２年２月１日<br>～２月５日 | 計 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量 | ～どんぐりからうつわまで～出前教室等<br>森のこども園　他 10 回 | 「大野木工と活動パネル展」<br>・パネル展示　２日<br>・ワークショップ １日 | 「大野木工」研究発表会<br>・パネル展示　５日<br>・ワークショップ ２日 | | |
| 参加者数 | 県内　249 人<br>県外　1,049 人<br>計　1,298 人 | 県内　1,013 人<br>県外　0 人<br>計　1.013 人 | 県内　人<br>県外　445 人<br>計　445 人 | 県内　1,262 人<br>県外　1,494 人<br>計　2,756 人 | |
| 実施場所 | ○岩手県県内<br>・岩手県立大学<br>・大野キャンパス<br>○宮城県仙台市<br>・新田こばと園<br>・八幡こばと園<br>・仙台保育園<br>・高森サーラ保育園<br>○東京都目黒区　他<br>・しいのき保育園<br>・しんあい保育園 | 岩手県洋野町<br>・大野体育館特設会場 | 東京都小金井市<br>・東京学芸大学芸術・スポーツ研究棟１階 | | |

# 体感しよう「SDGs」！～森づくりは未来づくり～

特定非営利活動法人　水守の郷・七ヶ宿
〒989-0532　宮城県刈田郡七ヶ宿町字根添 26-1

## 1．活動の概要

宮城県民 183 万人の水瓶七ヶ宿湖を有する七ヶ宿町の当法人が管理する山林 1.6ha 並びに七ヶ宿湖をフィールドに地域の四季の素材を活かし、森林・林業体験プログラムを毎月第 3 日曜日通年定例で実施した。森は持続可能な資源であり多様なサービスを私たちに提供してくれる。今年度も四季の森を生かしたプログラムに、地域の旬と食文化を交えながら参加者自ら野外炊飯を行い森のエネルギーを利用した。昨年は豪雨災害により 10 月の事業が中止となり、年末から感染が広がり始めた COVID19 の感染拡大を受けて 4 月の活動を自粛した。予定していた回数を実施することが出来なかったが、With コロナを見据えディスタンスが確保できる方法を模索し 6 月より新しい形で活動の展開を図ることとなった。

## 2．活動の成果

常連の子供たちが中学校進学に伴い「山がっこ」を卒業していく中、ホームページやパンフレットの広報により新しいメンバーが参加し知名度が広がってきているようだ。新型コロナウィルス対策に向けて、新しい様式の「山がっこ」を模索し 6 月には森に新しくかまどを 4 カ所設け参加者各自が自炊出来るようにした。更に定員を 4 家族限定とし、密を避けたメニュー作りに徹したことでメンバーの目が参加者一人一人に届きやすくなった。参加者は家族ごとに自立して行動しなければならない為、スタッフに頼らずに子供たちも家族を助けた行動をとるようになった。

## 3．参加者の声

・川は石ころがいっぱいあるのが普通だと思っていたのに沢を歩くときむき出しの岩になっていた。
・煮だしたときは茶色い色に染まったのに焙煎液につけたら紫色に変わったのでびっくりした。
・キノコの植菌の時に昨年植えたなめこが木からたくさん生えていて興奮した。
・キノコが木から生えているのが不思議だった。
・森はふかふかしていていつも濡れているということは水を蓄えていてくれるんだと感心した。
・ツリークライミングで木のてっぺんに上ったときに湖が見えてとてもきれいだった。
・夏秋冬と参加したが季節ごとに作る食べ物や体験が違っていたのでいつも新鮮に参加できた。

実績報告とりまとめ表

| 月日 | 事業内容 | 参加者 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 7 月 21 日 | 竹割りと樋づくり、植林地の下草刈り | 22 人 | 28 人 | SDGs 6,15 |
| 8 月 18 日 | カヌー体験、沢登り、水生生物観察他 | 27 人 | 32 人 | SDGs 6,12,15 |
| 9 月 15 日 | 森林セラピー、山羊とのふれあい他 | 169 人 | 186 人 | 森の音楽祭 |
| 10 月 20 日 | 中止 | 0 人 | 0 人 | 台風 9 号直撃 |
| 11 月 17 日 | ツリークライミング、キノコの植菌他 | 14 人 | 25 人 | SDGs 2,3,11,15 |
| 12 月 15 日 | 火起こし、草木染め、干し柿づくり他 | 8 人 | 20 人 | SDGs 2,3,8,11,15 |
| 1 月 19 日 | 火起こし、餅つき、陶芸体験 | 12 人 | 20 人 | SDGs 2,3,8,11,12,15 ・ |
| 2 月 16 日 | 火起こし、味噌づくり、野焼き体験他 | 16 人 | 24 人 | SDGs 2,3,8,11,12,15 |
| 3 月 15 日 | 火起こし、山菜探し、薪拾い、ワカメ | 7 人 | 15 人 | SDGs 2,3,7,14,15 |
| 4 月 19 日 | 中止 | 0 人 | 0 人 | コロナ自粛 |
| 5 月 17 日 | 火起こし、竹の加工、凧作り他 | 8 人 | 11 人 | SDGs 2,8,12,15 |
| 6 月 21 日 | 火起こし、熊笹探し、笹巻きづくり他 | 22 人 | 26 人 | SDGs 2,3,7,8,11,12,15 |
| 参加者数 | 県　内　計 | 305 人 | 387 人 | |

# 自然にふれよう（山のがっこう）

特定非営利活動法人 SCR
〒 981-3341　宮城県富谷市成田 7-23-21

## 1．活動の概要

・目的

市民参加の森林づくり運動（8 月 11 日の「山の日」に、地域の森林・林業について理解を深め、山の恵みに感謝する）

①森林や環境について学ぶ

②地域資源の有効活用

③自然環境と人とのふれあいの場を提供し、自然への配慮や仲間との連帯感や協調性の育成をはかる

・内容…森林教室、森づくり体験（植樹）、竹製作（流しそうめん設置、竹器･竹箸･竹トンボ製作）、記念の餅まき

## 2．活動の成果

地域の自然豊かな環境を維持、活用するとともに、家族で山の恵みに感謝する活動につながった。

地域資源の竹を使った手づくり体験は、森林資源有効利用と、地球環境に負荷をかけない「持続可能な再生資源活動」になった

## 3．参加者の声

・家族とのコミュニケーションの場となり、親子の良い思い出になった

・竹流しそうめんが、とても楽しかった（児童）

・植樹は初めてだったので、貴重な体験ができた

・「山の日」に森林や山への恩恵に更に感謝することができて良かった。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 8 月 11 日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 事業量又は事業内容 | 自然にふれよう | 流しそうめん竹設置と竹器製作<br>竹箸と竹とんぼ製作 | | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 74 人<br>0 人<br>74 人 | 74 人<br>0 人<br>74 人 | |
| 実　施　場　所 | | 宮城県　富谷市 | | |

# 森のようちえん・野外教育までの流れをつくる！
# 木に触れる感じからはじまる！森の子たちの根っこ育み事業

特定非営利活動法人 Akita コドモの森
〒010-0812　秋田市濁川字菅場 6-64

## 1．活動の概要

＜目的＞

当団体は 13 年に渡り、秋田市内を中心に乳幼児を対象とした森のようちえん事業を展開してきた。子どもたちの心と体の成長発達を考えての幼児教育保育としての自然体験活動を行ってきたが、子どもから大人まで人に笑顔と元気を与えてくれる大切なフィールドとなるこの森林環境を守っていかなければいけないということに気付いた。森林が身近でないこの時代、親御さんも含めてどのように自然環境の維持保全の重要性を伝えていくかは大きな課題である。　そこで私たちが出来るリアクションのひとつとして、地域子育て支援である子育てこどもひろばを定期開催する。この機会を通し、多くの子育て世帯の方々に、癒されながら樹木に触れ、「木」に親しんで頂く。それがきっかけとなり、今度は「秋田の自然の中で、本当の自然環境に親子で触れる」という実体験にまで繋げていきたい。

＜実施期間＞

2019 年６月～ 2020 年６月まで実質 13 回開催

＜場所＞

認定こども園あきたこどもの森園舎

＜概要＞

０～３歳くらいの未就園児とそのご家族を対象とし、当団体園舎（2019 年２月設置、同 10 月より認定こども園へ移行）にて、沢山の国産材県産材を使用した木育ひろばを開放。秋田市との協働事業「キンダーカウンセリング事業」を併設し、専門の臨床心理士や保育士、子育て支援員が常駐することで、子育て等にまつわる悩みや相談対応を行うことが出来た。

## 2．活動の成果

全 13 回のこどもひろば開放に伴い、秋田市内全域より延べ 300 名の子育て世帯のご家族にご参加を頂いた（別紙資料参照）。

開園時には、子ども達が木の玩具に触れ楽しむ姿が見受けられたばかりでなく、優しい木の温もりの空間にありご父兄からも「癒される」との声を頂いていた。

お天気に恵まれた際には、園庭や近くの河原までの散策を楽しんだり、身近な昆虫や自然物に触れるなど、少しずつ自然体験活動をご体験頂くことも出来た。

更には、こどもひろば参加者が、当団体が主催する各種自然体験活動イベント（在宅子育て支援事業「わんぱくキッズのおでかけプラン（親子向け遠足企画や木製品製作等木育企画）」や、幼児～学童期のご家庭向け自然体験活動等）に興味を持って下さったり、実際にご参加頂く等の発展もあった。

本事業は、秋田市との委託事業「キンダーカウンセリング事業」としての連携もあり、３か年計画として残り２年間継続を予定。今回、貴団体よりご支援頂きこどもひろばの整備を行うことが出来、来園者の満足度が格段に向上したことを実感している。これまで当団体は、元来「自然体験活動」や「木育」への意識がある方々が集う場であったが、こどもひろばを通して広く子育て世帯への発信力を得ることが出来た。これからは、まだ興味や関心の薄い世帯に向けても、広く森林環境教育への意識向上を図っていきたい。

## 3．参加者の声

・木の温かみのあるおもちゃに沢山ふれられて、いつも娘も楽しそう。

・ぬくもりある木のおもちゃと、温かいスタッフの方々にかこまれ母子共に癒された。
・木のおもちゃがたくさんでよかった。みつろうねんどがはまっていた。など、環境や空間に対する満足度が高くなった。
・また、「毎回利用させて頂いています。等、リピーター率も高く、満足度の高さを感じることが出来た。

実績報告とりまとめ表

<table>
<tr><td colspan="2">実　施　時　期</td><td>令和 1 年 6 月 24 日<br>～令和 2 年 2 月 15 日</td><td>計</td><td>備考</td></tr>
<tr><td>事業量<br>又は<br>事業内容</td><td></td><td>未就園児を対象としたこどもひろばの開放及びキンダーカウンセリング</td><td>計 13 回実施</td><td rowspan="2">新型コロナウイルス　感染拡大の状況を鑑み 2 回分自粛</td></tr>
<tr><td>参加者数</td><td>県　内<br>県　外<br>計</td><td>300 人<br>0 人<br>200 人</td><td>300 人<br>0 人<br>300 人</td></tr>
<tr><td colspan="2">実　施　場　所</td><td colspan="3">秋田市濁川字家ノ前 113　　認定こども園　あきたこどもの森園舎</td></tr>
</table>

# 秋田杉桶樽サミット～生活の中の秋田杉の桶と樽～

秋田杉桶樽サミット実行委員会
〒010-0941　秋田市川尻町字大川反 170-1699

## 1．活動の概要

秋田県は、古くから杉の産地であり、杉材を活用した木製品の産業が発展してきた。特に秋田杉の特性を活かした桶・樽づくりは盛んでしたが、経済成長が進み、生活様式の変化などにより、工業製品や安価なものが好まれるようになった。反面、地球環境問題や地方創生が大きな社会問題として提起されている。

こうした中、本事業は豊かで暮らしやすい社会構想が求められている現状を見つめ直し、秋田杉桶樽サミットを通じて、気候・風土に根差した生活様式、木の文化を発展させてきた日本人の知恵を確認し、工業製品にない人にやさしい木材製品の良さを再評価し、桶や樽、木材産業の裾野を広げることを目的としており、秋田杉桶樽サミットでは、基調講演、パネルディスカッションを実施、展示・実演ブース等を設置した。

## 2．活動の成果

秋田杉桶樽サミットでは、秋田杉と桶・樽づくりを見直すきっかけと、秋田杉がもたらす様々な効果を再認識することができた。

今後の活動は、秋田杉桶樽の「木の文化」・「伝統的なものづくり」を発展させてきた先人の知恵を再考し、今まで以上に秋田杉の良さをアピール、発信し、食文化への関り、暮らしの道具としての回帰、地域材を活用した地元プロジェクト等、消費拡大、産業振興、観光資源等に繋げていく努力と木材の優先的な利活用の可能性に取り組んで参りたい。

## 3．参加者の声

アンケートと直接対話による参加者の感想は、講演･パネルディスカッションは非常に良かった。

秋田の木の文化・秋田杉を食料の容器材料として使うことの健康の効果を改めて知り、ほーっとうなずいていた。桶や樽への興味で来場した方が多く、60 代以上は持っている・懐かしいが大半を占めた。

20 代～ 30 代の方は新しい発見と受け止め、手入れを心配する女性の声も聞こえた。秋田杉のおひつで蒸らしたご飯の試食・秋田杉の樽酒の試飲は、評判がよく、秋田杉の効果を味覚で知る良い体験であった。

実績報告とりまとめ表

| 実施時期 | 10 月 20 日（日） | 計 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | 基調講演・パネルディスカッション、秋田杉のおひつで蒸らしたご飯の試食、大桶で醸造した日本酒の試飲、秋田杉で樽の製作実演、桶樽の製品展示や製造工程等をパネルで紹介、木のおもちゃ・桶の組み立て・鏡開き等の体験、等。 | | |
| 参加者数 | 500 人超 | 500 人超 | |
| 実　施　場　所 | 秋田県秋田市、拠点センターアルヴェ | | |

# フォレストサポート・2019

ガールスカウト山形県連盟
〒990-0031　山形市十日町 1-6-6
山形県保健福祉センター 4F

## 1．活動の概要

目的：2015 年に植樹をした「ガールスカウトの森」の下刈りなどの手入れをし、森をささえてそだてる森づくりに取組む。また、森や木にふれる森林体験学習を通じ、より森林を理解し環境問題への理解を深める

内容：育樹活動（葛の根駆除・下刈り・補植・くるみの木の枝打ち）
森林体験学習（きのこの菌打ち・森のクラフト）

## 2．活動の成果

・森づくり活動（下刈り・葛の駆除）により地域の里山保全に寄与出来た。
・育樹活動を通して「育樹」の大切さを学び、「美しい豊な自然」を守るために、地球規模での環境問題に関心を持つともに、環境保全に寄与する態度を養うことができた。
・初めてふれる鍬、ノコギリ、電動ドリルを使っての活動で、技術の習得ができた。
・森林体験学習では「森･木･自然物」に“触れる”ことで五感が養われた。“きのこの収穫”や“森のクラフト”製作では森の恵みに触れ、自然を大切にする気持ちが一層育まれ、子どもたちの健全な成長に寄与できた。
・一般参加者と協働した事によって、会員はもとより一般参加者の皆様にも、自然体験の意義・大切さを理解していただいたと共に「森づくり」への関心を促すことに寄与できた。
・育樹活動、森林体験学習ともに成果を上げているので、木が育つまで継続していきたい。

## 3．参加者の声

・前に植えた木が私の背より大きくなっていたのでびっくりした。（小低学年）
・カエルがさわれなかったけど、今回はさわれて良かった。（小低学年）
・森のクラフトでは、沢山の木の実の種類からどんなものを作るか考えるのが大変だったけど、面白いものができた（小高学年）
・鍬を上手に使えなかったけど頑張った。部活等で成績を上げるより達成感を味わえた（中学）
・たった４年で大きくなった木、まだ小さい木。人間と同じように木や植物にも多様な個性があるんだなと感じた（中学生）
・自然の中では心も開放されて“イキイキできるな”と改めて実感した。（成人）
・作業をしたことによって、なめこの成長や森の恵みに感謝する気持ちが芽生えた。（成人）
・日頃より食が細い子が、なめこの菌打ち後親近感を感じたのか、なめこ汁をパクパク美味しく食べていたのには驚いた。（一般参加者）
・どの活動も、子ども達がすごく集中して楽しそうだった。是非この活動は続けるけるべきと思った（成人）

実績報告とりまとめ表

| 実施時期 | | 9/17　10/1<br>10/31 | 10/15<br>11/ 1 | 11月　10日 | | 令和２年<br>1/26 | 計 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | 事前準備 | 現地踏査 | ＜育樹活動＞<br>・葛の根駆除<br>・下刈り<br>・補植活動<br>(11 本植え付け) | ＜森林体験学＞<br>・きのこの菌打ち<br>・森のクラフト | 報告書<br>整理 | | |
| 参加者数 | 県内<br>県外<br>計 | 6 人<br>0 人<br>6 人 | 6 人<br>0 人<br>6 人 | 75 人<br>0 人<br>75 人 | | 6 人<br>0 人<br>6 人 | 93 人<br>0 人<br>93 人 | |
| 実施場所 | | 山形市市有地蔵王みはらしの丘地内（ガールスカウトの森）<br>山形市立みはらしの丘小学校　多目的ホール | | | | | | |

# 地域材による木工技術の普及と木材利用の拡大事業

特定非営利活動法人 やみぞの森
〒310-0011　茨城県水戸市三の丸 1-3-2
茨城県林業会館 4F

## 1．活動の概要

(1) 木工技術の普及を目的として、地域材を活用した DIY 塾を毎月 1 回、年間 12 回開催した。初心者のため各種道具の説明から始め、刃の砥ぎ方、道具の使い方、手入れの仕方、電動工具の使い方、製材の仕方、仕口の加工と調整方法などを、専門技術者が指導した。
(2) エコプロ 2019 へ出展し、森林整備や環境教育など自然環境保全のため実施している様々な活動を情報発信し、森の自然素材によるオーナメント作りのワークショップも実施した。
(3) 森林環境保全のため実施している活動の情報発信を目的とした活動紹介およびニュースペーパーを発行し、イベント会場等や DM で配付した。
(4) 森林整備安全研修会を 5 月に予定していたが新型コロナの緊急事態宣言により中止した

## 2．活動の成果

(1) 木工技術の習得のため、専門技術者より基本から順序を踏んで指導を受けた結果、参加者全員が自身でテーブル、小椅子、棚などを作れるまでになった。このような木工技術の普及は、地域を活性化し、地域材の利用拡大も期待でき、継続する意義は大きいと考えられる。
(2) パネル展示だけでは分からない実物見本を見て触ってもらう実体験と共に、木の実など自然素材によるワークショップを行い、森林を身近に感じてもらう効果が認められた。
(3) 環境教育、環境保全などの活動状況を、ニュースペーパーやパネル展示で情報発信した。

## 3．参加者の声

・DIY 塾ではデザインから自分で考えるので、完成した時の達成感が大きい。
・DIY 塾では専門技術者の指導で刃の研ぎ方から始まり、徐々に腕が上がるのを実感できる。
・エコプロで作ったオーナメントは、クリスマスが終わってもインテリアとして使う予定。
・昨年もオーナメント作りに参加し、今回もパンフレットにあったので楽しみにしてきた。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 7/4 ～ 6/14 | 10/20 | 12/5 ～ 12/7 | 5/14 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業量 | | | | | | |
| 参加者数 | 県　内 | 121 人 | 105 人 | 約 3,000 人 | 中止 | 3,226 人 |
| | 県　外 | 12 人 | 0 人 | 144,653 人 | | 144,665 人 |
| | 計 | 133 人 | 105 人 | 147,653 人 | | 147,891 人 |
| 実　施　場　所 | | 茨城県：笠間市、つくば市、水戸市　東京都：江東区 | | | | |

# 1500年の歴史ある埴輪の里でSDGS

NPO 環～WA
〒311-3155　茨城県東茨城郡茨城町下土師1821

## 1．活動の概要

(1) 目的

古墳時代より 1500年続く土と森の文化を継承してきた里山を舞台に、持続可能な里山資源の利活用と里山で暮らす次世代の育成を目指す。

(2) 担い手を失い荒れ果てた山林や農地をキャンプサイトや体験農園として再生し、子どもからシニアまでを対象とした体験プログラムを実施することで、次世代の里山担い手を育てることを目的に多様なプログラムを企画した。当団体の40代から60代メンバが、設立以降の里山保全で培ってきた経験と技術、ネットワークを駆使して、20代から30代の若手を発掘するための取組みに着手。保全整備のみの取組では若手の継続的参画が難題だったことをふまえ、「森遊び」と「食」で人々を集めた。半世紀も放置された山林、8年間放置され篠が密生した栗林、宿根草で覆われた最遠を整備し、キャンプサイトと体験農場として利用。里山の季節の巡りに合わせて、未就学児からシニア世代までが参加できる体験プログラムを企画、実施することができた。森のようちえん事業では指導者の子どもたちがキッズスタッフとなり参加した子供たちの森遊び案内係となって栗拾いや火おこし、泥んこ遊びのリーダーとなった。イベント内容は「夏休み～駆除竹で巨大流しそうめん」「夏から秋 SATOYOMA CAMP for Girl ～ママトコキャンプと栗拾い」「秋冬 プッシュクラフト体験」「冬雑木林から原木を切り出して椎茸栽培」。

## 2．活動の成果

(1) 成果

ア　若手（20代～30代）が指導や運営に参画。森のようちえん企画には熟練キャンパーの子育て中の30代女性が講師として参画、企画・広報・指導に関わることとなったほか、古納屋をセルフリノベーションし薪窯と薪ストーブ､ペレットストーブを備えたシェアキッチン「納屋カフェ」の利用者を募集したところ、30代男性と20代女性が曜日ごとにカフェ営業を開始。彼らを本事業の運営に巻き込みながら、里山資源と空間利用への関心を引き寄せた。

イ　若手と共に週末キャンプ場をスタート。里山保全に賛同してくださる方のみが利用できる会員制とし、利用料によって自己資金を稼ぐこともできた。

ウ　半世紀ほども放置され山主さえも立ち入らずにいたスギ林の整備を実施、倒木処理、除伐間伐をし、安全に空間利用できるようになったエリアを「林間サイト」として利用したことで継続的保全が可能になった。

エ　8年間耕作放棄され篠が密生、壊滅状態だった栗林を7月から8月にかけて整備したところ、山桜に囲まれていることが判明、「山桜サイト」と命名、今年の4月には見事な山桜の下でキャンプを楽しむことができた。

オ　本事業により、人影のなかった里の森がにぎわい始め、当初はNPO活動に懐疑的だった周辺住民が徐々に理解してくださるようになり、民家の塀への看板設置やカフェ利用などで協力してくれるようになった。

カ　納屋カフェを開始したことで、ファミリー層の参加が格段に増えた。ママトコ（母と子）で参加した後にパパを連れてリピート参加となる家族多数、街中で暮らすファミリーが休日に子どもを田舎へ連れて行くような場所になりつつある。

＊メディア露出：ラジオ地方局ぱるるん、水戸経済新聞

＊茨城県／茨城大学ホームページ掲載：
https://koukai.scc.ibaraki.ac.jp/professional_courses/eco_college/fieldwork_06

(2) これからの取り組み

ア　スギ林の整備を進めるためのキャンパー向けイベント「自分サイトづくり」。

イ　里山事業の経済的自立を目指し、営利事業体制を整える。

ウ　コロナで中止が相次いだ保全活動の継続。

## 3．参加者の声

・「近くにこのような取り組みをしている場所があると知り、今後も子連れで参加したい」（夏休み企画参加者）

・「県内で大人数の初心者を受け入れ実践的な森林プログラムを体験させてくれるところは少ない。準備段階で安全管理を含めた運営サイドの苦労を知りえたこともあり勉強になった」（夏休み企画連携の県職員）

・「焚き火の際には、薪を使うことが次の世代の木々のためになる「森の循環」のお話を聞くことができました。焚き火や栗拾いなど里山の恩恵を受けながら、親子で森の循環も学び、キャンプを楽しむことができました。」（SATOYAMACAMP for Gii·ls 参加者）

・「早速ソロキャンプに行きます！」「木々を見る目が変わり、帰り道や公園などの散策が楽しみになった」（ブッシュクラフト参加者）

・「椎茸を育てるために森で木を切るところから体験した子どもが、家に帰ってから図鑑を開いていました。植菌も体験させてもらって、椎茸の収穫が楽しみです。」（原木椎茸栽培参加者）

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 8 月 11 日 | 10 月 5 日 | 10 月 19 日 | 11 月 9 日−10 日 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | 里山整備＆駆除竹で巨大流しそうめん | 第 1 回 SATOYAMA CAMP for Girls ～ママトコキャンプと栗拾い | 第 2 回 SATOYAMA CAMP for Girls は雨天中止となり、第 3 回目に内容を盛り込んだ | 第 3 回 SATOYAMA CAMP for Girls ～宿泊キ ャンプ |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 60 人<br>0 人<br>60 人 | 13 人<br>0 人<br>13 人 | | 16 人<br>0 人<br>16 人 |

| 実　施　時　期 | | 12 月 28 日 | 1 月 18 日 | 2 月 15 日 | 12 月 28 日＆<br>2 月 22 日 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | Bushcraft Park ～プッシュクラフト体験展示会<br>※予定の 11 月 24 日が雨天で順延 | Bushcraft School ① | Bushcraft School ② | 原木椎茸栽培<br>12 月：落ち葉掻きと原木切り出し<br>2 月：椎茸植菌 | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 35 人<br>18 人<br>53 人 | 5 人<br>4 人<br>9 人 | 5 人<br>4 人<br>9 人 | 36 人<br>0 人<br>36 人 | 170 人<br>36 人<br>206 人 |
| 実　施　場　所 | | 茨城県　茨城町 | | | | |

# 静・古徳古道をめぐる散策路に付随した「冒険の森」整備事業

なか自然の会
〒319-2104　茨城県那珂市平野 1800-395

## 1．活動の概要

・静・古徳古道を巡る散策路とそれに付随した「冒険の森」（里山林）の整備事業
・白鳥飛来地の古徳沼と里山の約 7km の静・古徳古道の整備をすすめ、古道に隣接する冒険の森（約 5ha の内 2ha）を合わせて整備してきた。今回子供達（地域住民を含む）が森林の中で大いに遊び・学べる場の提供と拡大整備を目指す。

## 2．活動の成果

・冒険の森については 20 枚の案内看板の設置が完了しより安心して歩けるようになった
・並行して作業をしているツリーテラスは 10 月完成を目指す（コロナの影響で遅れている）
・森林体験会は例年 10 名前後の参加者が今年度 50 名の参加があった。理由はこの数年の活動が地域の方に認知されて来たと考えられる。次年度は高校生の参加者を更に増やしたい。
・地域住民との協働作業も参加者が 80 名を超え大きな塊となって前進している

## 3．参加者の声

・森林体験会は作業内容も好評であったが森の中で食べるカレーライスが大好評でしたほとんどの参加者がお代わりをし、来年も参加したいと言っていました。
・自然観察会は PR 不足で参加者が少なかったが半面先生の説明がじっくり聞けたとの声あり
・毎月 2 回の定例活動は伐採・下草刈り以外にツリーテラスの設置やハイキングロードの造成等地域に貢献できているとの達成感があり会員の参加率は高い

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 8 月 4 日 | 9 月 8 日 | 計 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | 那珂市有林（ヒノキ林）での森林活動体験 | カワウの被害防止と白鳥飛来地の古徳沼の環境整備 | | 冒険の森やヒノキ林の整備活動は含まず（延べ 300 人）<br>年間 30 回× 10 人 |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 52 人<br>人<br>52 人 | 80 人<br>人<br>80 人 | 132 人<br>人<br>132 人 | 計 430 名 |
| 実　施　場　所 | | 茨城県　那珂市・町　静・古徳地区 | | | |

# サシバの里の「野遊びようちえん」

特定非営利活動法人　オオタカ保護基金
〒320-0027　栃木県宇都宮市塙田 2-5-1
共生ビル 2 階

## 1．活動の概要

活動の目的は、絶滅危惧種のタカ・サシバが生息する栃木県市貝町の自然豊かな里山で、都市近郊の未就学児の親子が野遊びや里の暮らしを通して、楽しく森林や生態系を学ぶことである。

令和元年 7 月～ 12 月までの間に、「サシバの里自然学校」において、日帰りの「野遊びようちえん」を 5 回開催した。合計で延べ 53 人（大人 21 人、子ども 32 人）が参加した。各回の内容は、以下の通りである。9 月 11 日（水）焚き火でバームクーヘンつくり、9 月 25 日（水）秋の里山で稲刈りしよう、10 月 23 日（水）ワイルドなアンデス料理 ?! を作ろう、11 月 6 日（水）ぺったんぺったん新米おもちつき、12 月 4 日（水）森のクリスマスかざりを作ろう。なお、予定していた令和 2 年 1 月～ 6 月の 5 回については、新型コロナウイルス感染防止のために、残念ながら中止した。

## 2．活動の成果

参加した未就学児の親子は、田んぼや雑木林で泥だらけになって生きものを捕まえたり、クリスマスかざりを作ったり、楽しそうだった。また、稲刈りやもちつきなどの里の暮らし体験では、一生懸命取り組んでいた姿が印象に残った。これらを通して、里山の自然の豊かさや楽しさを実感できたと思う。このような体験は日常ではなかなかできないので、今後も「野遊びほいくえん」を継続的に行って行きたい。

## 3．参加者の声

・ワイルドなアンデス料理（穴を掘って、熱した石で料理する）がとてもおいしくて、びっくりした。
・子どもと一緒に遊べて、親もリフレッシュできました。
・子どもののびのび遊ぶ姿を見たり、他のお母さんたちと子育ての話などできてゆったりした時間過ごせました。
・初めておもちつきをしました。小さな杵で子どもたちが楽しそうにもちをついているのが印象的でした。

実績報告とりまとめ表

| 実施時期 | | 9 月 11 日 | 9 月 25 日 | 10 月 23 日 | 11 月 6 日 | 12 月 4 日 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 参加者数 | 県内 | 10 人 | 9 人 | 8 人 | 15 人 | 11 人 | 53 人 |
| | 県外 | 0 人 | 0 人 | 0 人 | 0 人 | 0 人 | 0 人 |
| | 計 | 10 人 | 9 人 | 8 人 | 15 人 | 11 人 | 53 人 |
| 実施場所 | | すべて　栃木県市貝町「サシバの里自然学校」 | | | | | |

# 森に親しむ啓発活動

ぐんま山と森林推進協議会
〒379-2153　群馬県前橋市上大島町 182-20
事務局　〒371-8570　群馬県前橋市大手町 1-1-1

## 1．活動の概要

ぐんま山と森林推進協議会では、山や森林に親しみ、学び、その恵みに感謝し、それらを守る取組を推進している。今年度は、森林に親しむ機会を増やすため森林林業関係イベントを一覧にした「ぐんま山と森林イベント一覧チラシ秋冬号」を２万部作成し県内各地で配布した。また、群馬の森林・林業や「やま」との関わりについての写真を募集する「第 10 回美しいぐんまの山と森林フォトコンテスト」を開催した。

## 2．活動の成果

「ぐんま山と森林イベント一覧チラシ秋冬号」については 28 団体から掲載の応募があり、56 のイベントを掲載した。県民からは配布場所等の問合せや、毎回このチラシの発行を楽しみにしているとの声もあり、広く県民に山や森林に親しむ機会を提供することができた。

「第 10 回美しいぐんまの山と森林フォトコンテスト」では、347 作品、83 名から応募があった。群馬県庁にて開催する写真展では例年約 2,500 名の来場が見込まれ、群馬の森林・林業や山についての PR に繋がった。

## 3．参加者の声

・ぐんま山と森林イベント一覧チラシ秋冬号
　チラシに掲載されている自然観察会へ参加し、楽しく登山をしながら植物の勉強ができた。
　群馬の山や森林に関するイベントが集約されたチラシはあまりないので、ぜひ続けてほしい。
・第 10 回美しいぐんまの山と森林フォトコンテスト
　自然の姿が楽しめた。ぜひ森林公園へ出かけ、四季を通じての移り変わりを観察してみたい。
　群馬の美しい森林の写真に感動した。自分の目でも見てみたい。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | R1.8 | 募集期限：R1.11.29<br>表彰式：R2.2.6<br>写真展：R.2.6 ～ 12 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | イベント一覧チラシ秋冬号の発行<br>チラシ発行部数：２万部 | フォトコンテストの開催<br>チラシ発行部数：６千部 | | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 応募団体数：28 団体<br>掲載イベント数 56 | 県内応募者　：　75 人<br>県外応募者　：　8 人<br>応募者計　：　83 人<br>写真展来場者：2,500 人<br>合計　：2,583 人 | 2,583 人 | |
| 実　施　場　所 | | 群馬県前橋市大手町 | | | |

# 森はともだち　楽しくまなぼう　森友　楽校

ぐんま森林インストラクター会
〒378-0415　群馬県利根郡片品村鎌田 4090

## 1．活動の概要

森林教室・自然観察会、森づくり体験、ゲーム等を通じて、自然と親しみ、環境保全や人格形成に理解を深めてもらうと共に、普及啓発や森林環境教育を行なう。

## 2．活動の成果

自然観察等をすることにより自然のすばらしさを実感し、その維持、保全の必要性を認識した。森林整備などの実作業を取り入れ、幅広い森林環境教育を行なう。

## 3．参加者の声

・樹木や草花などの名前や特徴を分かりやすく説明していただき、たいへん勉強になりました。普段なにげなく歩いていましたが、地形の成立ちや自然保護など知らなかったことをたくさん教えて頂きました。

実績報告とりまとめ表

| 実施時期 | | 元年<br>7月20日 | 8月31日 | 9月21日 | 10月5日 | 2年<br>2月1日 | 2月15日 | 5月23日 | 計 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業量 | | | | | | | | | | |
| 参加者数 | 県内<br>県外<br>計 | 28 人<br>4 人<br>32 人 | 21 人<br>1 人<br>17 人 | 27 人<br>0 人<br>28 人 | 14 人<br>4 人<br>18 人 | 47 人<br>3 人<br>50 人 | 27 人<br>2 人<br>36 人 | 新型コロナのため中止 | 164 人<br>14 人<br>178 人 | |
| 実施場所<br>群馬県 | | 尾瀬・尾瀬沼 | 榛名富士・沼の原 | 谷川岳山麓・湯檜曽川沿い | 沼田市玉原高原 | 前橋市嶺公園 | 草津町天狗山 | サンデンフォレスト | | |

# 森の勉強と清掃とお楽しみ会

倉渕ヤマアジサイの会
〒370-0886　群馬県高崎市浜尻町 751-17

## 1．活動の概要

目的

森の作業を通しての仲間づくりと後継者づくりを兼ねて、森で過ごすことの楽しさを体験することを目的とします。

内容

森が環境にどのように役立っているかを学び、私たちが活動している森の様子見てもらい、森をきれいにする体験をします。さらに、キャンプ場に移動して、バーベキューや釜で炊いたご飯、焼き芋などで、森の枯れ枝を利用して煮炊きを経験します。その他、ボッチャというゲームを体験しました。

## 2．活動の成果

山に興味を持っているたくさんの人が活動に参加してくれたことが一番の成果です。

今回は家族単位で参加してくれた人が多く、親子のコミュニケーションを図ることにも役立ったたように思います。森の大切さについて親子で時間空間を共有することができました。

環境アドバイザーによる現況の山の状態も知ることができ学びの場となり後継者となる子供たちに伝えられたと思います。このような場を今後も提供できたらと思います。

## 3．参加者の声

・山がこれほど深刻な問題を抱えていることを感じ取れました。これから親子で話し合っていきたいと思います。
・今日は一日親子で癒されました。また、参加させてください。
・森にヤマアジサイが咲いたのをぜひ見たいので、咲いたら連絡をください。
・次回は作業の時間をもっとお手伝いをしたいです。
・楽しかったよ。また来るね。
・このような勉強会に参加しなければ森の問題に目を向けることがなかったと思います。このような勉強会を今後も続けてください。また、参加したいです。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 10 月 19 日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | 森の勉強と清掃とお楽しみ会 | | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 51 人<br>人<br>51 人 | | |
| 実　施　場　所 | | 群馬県　高崎市 | | |

# 環境の未来と夢を子供たちとともに

特定非営利活動法人　ジョイライフさやま
〒350-1308　埼玉県狭山市中央1-43-11

## 1．活動の概要

狭山市に於ける河川敷環境は自然環境整備保全により樹林や河川の維持保全を目指し活動を続けてきました。従来の川底生物による水質調査、プラごみ収集を図るカヤック体験と並び、新規事業となる漁業協同組合との協働による地曳網による生態系調査など昨年の活動はほぼ終了しましたが、19号の台風その後の大雨による災害により10月以降活動が休止状態となり2020の活動を心配しておりました所へ3月よりのコロナ感染症による自粛による活動が停止になり、川辺樹林の整備活動や4月予定の新たに企画した自然の森遊びプレイパークが中止と成り更に6月以降の事業も見通しが立たない状況となっています。ご報告の方も夏休みに行いました地曳網、カヤック、水質調査の活動を報告させて頂くことでお許しを頂きたいと存じます。

## 2．活動の成果

1、樹林整備は劣化した樹林の回復と持続可能な樹林の保全を目指してきましたが、台風被害で振り出しになり、さらに業者を依頼しなければ手が付けられない状況と成ってしまいました。

2、環境への意識向上を緑化を通し自然体験を交え行った漁業協同組合との地曳網による生態系の回復のための取り組みは行政を交え大勢の市民子供たちが参加してくれて有意義に終了出来ました。

3、様々な場所で社会的課題となる問題解決へ向け活動することが市民、行政に評価されたと感じています。

## 3．参加者の声

今まで見たことのない子供たちの表情を垣間見ることが出来、参加して良かったと思います。

入間川より海へ流失するプラごみが5万本と聞きカヤックでプラごみを回収することが素晴らしい活動との意見を多く頂いた。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 月　　日 | 月　　日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | 樹林整備 | 7月から | 12月まで | 10回 | 10月台風被害ガレキ流木撤去作業 |
| | | 3月から | 6月まで | 7回 | |
| | 生物カヤック体験 | 8月18日 | 8月18日 | 1回 | |
| | 稲刈体験 | 9月22日 | 9月22日 | 1回 | |
| | 田植体験 | 6月7日 | 6月7日 | 1回 | コロナにより中止 |
| 参加者数 | 定例整備 | | 136人 | 136人 | |
| | 生物カヤック体験 | | 121人 | 121人 | |
| | 稲刈体験 | | 16人 | 16人 | 雨天のため少人数 |
| | 田植体験 | | 0人 | 0人 | コロナにより中止 |
| | 計 | | | 281人 | |
| 実　施　場　所 | | 埼玉県　狭山市 | | | |

# 第４回子どもと森をつなぐためのリーダー養成講座

特定非営利活動法人　観照ボランティア協会
〒270-1132　千葉県我孫子市湖北台 6-10-2

## １．活動の概要

12 月 14 日（土曜日）、15 日（日曜日）に環境先進国北欧で開発されたメソッドにより、子どもたちに森林及び持続可能な環境の重要性をわかりやすく伝えられる人材養成を目的とした環境教育「リーダー養成講座」を開催。開催場所は東京都の中心にある新宿御苑で、講師は森のムッレ教室リーダーであり、サステナブル・アカデミー・ジャパン代表の２人が担当。

講座は「森のためのアクションと SDGs 」テーマに林野庁経営企画課国有林野生態系保全室五関一博室長の特別講演で開始。

リーダー養成講座は１日目に新宿御苑でのフィールドワーク、２日目は受講生によるワークショップ、またレクチャールームでエコシステムの基礎、自然活動と子どもの成長、自然体験活動を持続可能な未来につなぐにはについての講義を２日間に渡って実施した。

## ２．活動の成果

開催場所の新宿御苑は、自然豊かで環境教育として最適なフィールドで、特に今回は紅葉に彩られた樹木の観察、落ち葉の上での子どもたちへの伝え方の講義を行い、２日目のフィールドでのワークショップは、４つのチームに分かれ、それぞれのテーマを子どもへ伝えようとする意欲とアイディアにあふれていた。

## ３．参加者の声

SDGs に対しては、政府の取り組みなどは今まで考えたことがなかったので、森林というアプローチでどういった取組みをしているのか知る良い機会だった。SDGs の子どもへのわかりやすい伝え方を学びたいとの声もあった。

講座への評価も全員から「良かった」との評価を得たが、明日からの保育で今回学んだことを実践的な活動に取り入れていきたい、参加者が皆環境問題に関心がある方なので、話していても勉強になることが多く、学ぶことが多くあったとの感想もあり、環境への関心が高くなり、子どもたちへ伝えることも十分に期待できると考えている。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 12 月 14 日 | 12 月 15 日 | 計 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | レクチャールームでの SDGs をテーマに特別講演を実施。<br>講座は新宿御苑での自然観察及びレクチャールームでエコシステム基礎講義 | 新宿御苑での受講生によるワークショップを実施。<br>レクチャールームでは自然体験活動と子どもの成長をテーマに講義 | | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 16 人<br>10 人<br>26 人 | 15 人<br>9 人<br>24 人 | 31 人<br>19 人<br>50 人 | |
| 実　施　場　所 | | 東京都新宿区内藤町 11 | | | |

# 森林整備の推進に向けた効果的な普及啓発促進事業

一般社団法人　全国林業改良普及協会
〒107-0052　東京都港区赤坂 1-9-13 三会堂ビル

## 1．活動の概要

林業関係者を含む国民各層による森林整備の推進に向けて、森林所有者、市民等に対する普及啓発活動の効果的な実施を促進する研修を行い、森林整備等の重要性など、広く国民の理解が得られるようにする。

## 2．活動の成果

新たな森林経営管理制度を中心に据えた森林施業も「地域」ごとに独自性があるため、森林所有者のみならず、地域の理解を得られることが、必要であることが理解された。

「スマート林業」の技術を確立することで、低コスト高生産性を実現するなど林業業界を取り巻く課題の解決に繋がることが大いに期待できた。

普及活動事例として、林業災害防止のために地域の協力体制づくりの取組事例の発表があり、これは、全国各地で実施可能であり、労働災害の減少が担い手労働人口の確保につながり、森林整備の推進に大きく貢献すると期待できた。

オープンプログラムを拡充、実施したことで、これまで以上に森林、林業並びに森林整備の推進に対して、広く国民の理解が得られることが期待される。

## 3．参加者の声

・特別講演のスマート林業の役立て方の中にあった、発想の転換はまさに林業業界に必要だと感じた。
・林業災害の協力体制は、全国各地で同様の取り組みが必要だと痛感した。
・森林環境譲与税で都市部でも森林整備に貢献できると感じた。
・女性の活躍が地域林業経済の活力に繋がっている。
・新商品開発において、こだわりや地域の特性を如何に活かすのかがどの地域でも取り入れることがわかり、今後の参考にしたい。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 月　日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | 全国から林業関係者及び一般市民を募り学識経験者などの活動事例発表など | 11 月 21 日 | 1 回 | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 15　人<br>208　人<br>223　人 | 人<br>人<br>人 | |
| 実　施　場　所 | | 東京都　千代田区 | | |

# 森林認証材の普及・拡大と持続可能な森林経営の実現

一般社団法人　緑の循環認証会議
〒100-0014　東京都千代田区永田町 2-4-3
永田町ビル 4 階

## 1．活動の概要

東京オリンピック、パラリンピックは新型コロナの影響があり、来年に延期されることとなったが、競技会場の建設等にも認証材が使用されたことにより、認証材に対する市民・消費者の関心はこれまで以上に高まった。引き続き森林認証セミナー等を開催して、普及・啓発のためのパンフレットや認証取得のための展示会等を活用し、森林認証制度の普及・定着をより確かなものとなるよう努めた。

また、国際認証制度として出発した SGEC/PEFC ジャパンの認証制度の国際化が円滑に進められるよう資するとともに、市民・消費者や認証関係者に認証制度についての世界の動きを説明し、森林認証制度への理解を深めその普及に努めるため、次に大阪で開催が予定されているビッグイベントの世界万国博覧会に向けて協会関係者に対し要望、及び意見交換を行った。

## 2．活動の成果

今年度の活動を通じて、全国各地において森林認証制度に対する関心も高まり、認証森林や認証 CoC 企業が増加し、昨年度にも増して SGEC/PEFC ジャパンの森林認証制度の普及・定着に資することができた。

一方で FM 認証の増加に対して CoC 認証企業の伸び悩みがあることから、「国産材の紙」を売りに SGEC/PEFC 認証制度の普及率をさらに高め、認証材のサプライチェーンの構築による認証材市場の振興を目指すとともに、2025 年に開催が決定した大阪万博を足がかりとして CoC 認証企業の増加に向けて新たな取り組みを行う考えである。

また、世界における森林認証制度の動向を的確に把握し、国際制度としての SGEC/PREFC 森林認証制度の完成度を高め、アジア各国との連係を図りつつネットワークを活用し幅広く運用される制度を目指した活動を展開していくこととする。

## 3．参加者の声

「森林認証」の文字がマスコミ等で取り上げられ、その効果もあって教育現場での SGDs への関心も高まりとともに SGEC/PEFC の森林認証が広まり、全国各地で森林や CoC の認証取得に向けた取り組みが活発化してきた。戦後造成された 1 千万ヘクタールの人工林の持続可能な森林経営の実現が喫緊の課題として認識される中で、これを推進する有効な手段として国内人工林から生産された紙類等 CoC 認証品の開発、普及、広報が必要との声が聞かれた。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 2019 年<br>7 月 23 日 | 2019 年<br>12 月 5 ～ 7 日 | 2019 年<br>10 月 3 ～ 6 日 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | 森林認証セミナー | 100 名 | | | （一社）緑の循環認証会議主催 |
| | エコプロ 2019 | | 147,000 名<br>（主宰者発表） | | ・日本経済新聞社主催 |
| | ウッドワンダーランド展 | | | 24,527 名<br>（主宰者発表） | ・日本木工機械工業会主催 |
| 参加者数 | 都　内<br>都　外<br>計 | 95 名<br>5 名<br>100 名 | 100,000 名<br>47,000 名<br>147,000 名 | 1 名<br>24,526 名<br>24,527 名 | |
| 実　施　場　所 | | 東京都港区 | 東京都江東区 | 名古屋市中区 | |

# 気候変動による自然資本への影響と対策に関する普及啓発活動

一般社団法人　産業環境管理協会
〒101-0044　東京都千代田区鍛冶町 2-2-1

## 1．活動の概要

SDGs の目標達成とともに、自然資本の保全・対策の重要性についての理解を促進するため、森林資源及び水資源の気候変動対策で果たしている役割や、期待される機能（吸収）に焦点をあて、シンポジウムを開催しました。

開催に際し、有益な情報発信の場となるよう各界（林野庁、企業及び研究所）から有識者を招へいし、森林や水資源について、温暖化対策のための機能（吸収源）や、企業の自然資本の保全等や SDGs の目標達成への取り組みについて講演頂きました。また、会場（参加者）からの質問もあり、意見交換も活発に行われました。

## 2．活動の成果

アンケート結果より、参加者の９割以上の方が、シンポジウムの資料や概要を関係者間で情報共有すると回答しており、より多くの方々に森林の吸収源等の機能や、企業の取り組みを周知することにつながり、普及面での効果が期待できる結果となりました。

今後、森林や水資源についてのシンポジウムで取りあげてほしいテーマ・内容（複数回答あり）では「温暖化による影響と適応策」､「吸収源関連」が過半数の方が希望するとしていました。また、「海洋プラスチックごみ」、「生物多様性」、「SDGs」についても希望するという意見は多く、森林及び水については、多岐に渡る分野に関心があることが分かりました。

## 3．参加者の声

参加者へのアンケートを行い、講演内容について「大変よかった・よかった」という回答が約８割に達し、参加者にとって有益なシンポジウムであったことがうかがえます。

また、SDGs の目標（６：水、14：海洋、15：生態系・森林）の達成のためには、１社ではなく各企業や地域と連携して取り組むこと、次世代への教育、企業・個人の意識改革などの意見がありました。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 11 月 14 日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | シンポジウム開催 | | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 77　人<br>15　人<br>92　人 | 77　人<br>15　人<br>92　人 | |
| 実　施　場　所 | | 東京都千代田区 | | |

# 森林社会学会創設のための連続講座

「森づくり政策」市民研究会
〒113-0033　東京都文京区本郷 2-25-14
第 1 ライトビル 405 号
特定非営利活動法人　森づくりフォーラム内

## 1．活動の概要

「森づくり政策」市民研究会では、森林社会学創設を目的として 2015 年から実施している連続講座を継続的に開催している。2019 年度は通常の講座を 2 回、オンライン配信による講座を 1 回、コロナウイルスと森づくりをテーマにした特別回を 1 回開催した。

（1）連続講座シンポジウム「所有者 / 境界不明の森は今」
　　講演：高橋 啓　　聞き手：相川 高信
（2）連続講座シンポジウム「I ターン移住者が林業経営者になるまで」
　　講演：原 薫　　聞き手：相川 高信
（3）特別シンポジウム　「コロナウイルス以降の森づくり」
　　講演：内山 節　発表：森林 NPO ボランティア団体：7 団体
（4）連続講座シンポジウム「森の人に聞く！これからの森の楽しみ方・ふれあい方」

## 2．活動の成果

森林社会学創設に向けた講座を 3 回、コロナウイルスと森づくりをテーマにしたシンポジウムを 1 回行い、その間に検討会議も行った。今年度よりオンラインライン配信型を導入し、全国各地からの参加を可能にした。2 回実施したオンライン配信当日の視聴参加者は 2,000 人を超え、300 件近いコメントがあった。動画アーカイブを作成して現在も視聴できるようにしている。シリーズ講座「森から人へ、人から森へ」は様々な形式で計 18 回を開催し、延べ 863 名に参加いただいている。森林・林業の研究者・実践者をはじめ、一般の関心層や異分野で活躍する人同士のネットワーク構築に寄与している。

## 3．参加者の声

・長年放置されてきたのは森林以前に土地そのものだと思っています。その難しい問題に正面から取り組んでこられた経験に基づくとても貴重なお話でした。
・林業をやっている者として、とても共感でき、勉強になった。女性の視点で林業がうまく機能しているように感じた。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 11 月 10 日 | 2 月 1 日 | 5 月 25 日 | 6 月 12 日 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業量 | 4 回 | 1 回 | 1 回 | 1 回 | 1 回 | 4 回 |
| 参加者数 | 都　内<br>都　外<br>計 | 20 人<br>10 人<br>30 人 | 30 人<br>20 人<br>53 人 | 視聴のみ<br>（全国対応）<br>700 人 | 視聴のみ<br>（全国対応）<br>1300 人 | 50 人<br>32 人<br>2082 人 |
| 実　施　場　所 | | | 東京都文京区　シビックセンター　区民会議室ほか | | | |

# 「つくる」行為を通して、木の魅力発見プログラム

一般社団法人 TOBUSA
〒123-0862 東京都足立区皿沼二丁目 23-7
フォルティーヌ皿沼 505

## 1．活動の概要

普及活動の次のステージとして「場の醸成と指導者の育成」へ進むことを選択しました、多くの施設管理者、賛同者、参加者が彼らなりにできうる「森林育成」ワークショップ（以下 WS と表記）作成のサポートを行い、彼らが様々な活動を実施できるよう助けます。

普及活動の展開の中には、人を育成する、育て見守る部分が今後重要な役割を持っていくと考えています。多くの大人が子供の思いを育てられるような基盤を作ること。その土地、その時代の人間とっての「森林・木づかい」への取り組みができるようになることを願っています。「保育・教育の中で自然と緑とふれあい、利用することのできる生活」作りをサポートすることが私どもの挑戦です。

## 2．活動の成果

(1) 図書館司書・地域センター WS 運営との新しい授業のコラボレーション

図書館でできうる「森林を思い・木を使う」WS と、私たちの持つ WS の技術とで新しい形の授業を作り出しました。

(2) 幼稚園の若手教師との授業コラボレーション

私たちが企画していた「森林・木づかい・木工」の WS から一歩進み、若い教育者の問題意識のもと、彼らの子供達への関わりを大切にした新しい授業を作る企画です。

(3) 学校林活用状況調査と、今後の学校生活への新たな関わり方の創出

都内の小学校において、学校林（校舎内樹木）の利用のあり方とそこにある問題。そして、活用授業例の創出について話し合いました。

(4) 教育機関で利用できる技法動画の作成・並びに、樹木紹介の動画作成

木を材料として使うための手道具の使い方を、教育現場で利用できるよう撮影編集を行いました。

今後、学校林を活用した授業作成や、木を使った授業をサポートする教則動画、また、今回のように様々な職業の方と関わり、「森林・木」を育て使う新しいシーンを作り出したいと考えています。

## 3．参加者の声

・木を使ってみたくても、何を使ったら良いのかわからなかったり刃物の使い方や種類もわからなかったけれど、制作をとおして生活の中で木を使うことを意識できるようになった。ライフスタイルも変わった。
・学校で学校林をどのように利用していくのか、木を扱う授業を積極的に考える機会ができた。
・樹木や刃物の動画を通して、この業界について考えるようになりました。
・刃物の使い方の動画が安全でわかりやすく、刃物との距離が変わりました。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 2019 年<br>10 月 5 日 | 2020 年<br>2 月 20 日 | 2020 年<br>2 月 8 日、<br>2 月 22 日 | 2020 年<br>12 月 13 日 | 2020 年<br>9 月 2 日 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | 鹿浜地域学習<br>センター WS | 学校林<br>活用調査 | 幼稚園教師<br>向け WS | 古式木工轆轤<br>実演 | 道具教則動画・<br>樹種対談動画 | |
| 参加者数 | 都　内<br>都　外<br>計 | 20 人<br>人<br>20 人 | 5 人<br>人<br>5 人 | 256 人<br>人<br>256 人 | 35 人<br>人<br>35 人 | 再生数<br>200 回 | |
| 実　施　場　所 | | 東京都、埼玉県 | | | | | |

# 森づくり体験プログラム「森林の楽校（もりのがっこう）」2019・2020

JUON NETWORK（樹恩ネットワーク）
〒166-8532　東京都杉並区和田３－30－22
大学生協杉並会館

## １．活動の概要

「森林の楽校（もりのがっこう）」は、森林ボランティア活動の入門編で、2018年７月～19年６月に12ヶ所17回（秋田１、福島１、群馬みなかみ１、群馬昭和１、埼玉２、新潟１、富山２、岐阜４、京都１、兵庫１、徳島１、佐賀長崎１）で行った。なお、台風、コロナなどの影響で、９ヶ所11回が中止となっている。また、上級編「森林ボランティア青年リーダー養成講座」は、東京、関西、四国で行った。

## ２．活動の成果

今年度は、合計347名の方にご参加いただくことができた。各地域によって状況は異なるが、全体のおよそ半分弱が、学生や20代の若者であり、若者を含めたより多くの方々に、森林や農山村の現状について考えていただくとともに､保全活動を手伝っていただくことができた。なお､「青年リーダー講座」は東京が第21期、関西が第13期、四国が第３期の開催であり、参加者は「森林の楽校」等でリーダーを担うことのできる人材として成長している。

## ３．参加者の声

参加者の感想としては、「林業とはどういったものなのか実際に体験することで、深く学べることができてよかった。」「自然と触れ合う機会や現地の方と交流させていただく経験ができ、改めて自然に関わる楽しさを感じた。」等があった。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 2019年7月～2020年6月 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | 下刈面積<br>除伐面積<br>間伐面積<br>歩道整備 | | 2.2 ha<br>1.8 ha<br>3.0 ha<br>0.1 ha | |
| 参加者数 | 都　内<br>都　外<br>計 | | 111人<br>236人<br>347人 | |
| 実　施　場　所 | | 秋田、福島、群馬、埼玉、新潟、富山、岐阜、京都、兵庫、徳島、佐賀、長崎 | | |

# 都市部における若者による森林環境教育の実践

特定非営利活動法人　こがねい環境ネットワーク
〒184-0011 東京都小金井市東町 2-28-8

## 1．活動の概要

都市部住民などに向けた森林環境教育を、大学生を中心とする若者が実践することにより、森林環境教育を担う人材育成と普及啓発を同時に推進することを目的とし、活動を展開した。

教育を学ぶ大学生や森林保全活動に携わる中学生や高校生などの若者が社会教育実践の一環として、間伐材から生まれた積み木などを用いた講座やワークショップを企画運営したほか、今期は実際の間伐体験を行う講座も実施した。（ただし後半はコロナ禍により全く活動が実施できなかった。）

## 2．活動の成果

引き続き、イベント参加者の主なターゲットを親子や子どもに設定し、次世代に向けてより高い環境意識を持つ子育て世代を中心に好評であった。間伐材によって作られた積み木は企画に携わった若者にとっても目新しい素材で、自らが森林環境教育実践の有効性やその手法を学ぶことができた。また新たな団体や施設との連携、企画する若者も新しいメンバーが加わり、より拡がりのある実践を行うことができた。

今後は、引き続きこれらの素材を使った企画を進めながら、コロナ禍でも対応できるような既存の手法に捉われない実践を探求する。そのうえで若者の教育実践のスキルを向上させる機会を増やし、森林環境教育として地域住民への啓発の拡大を図る。

## 3．参加者の声

・たくさんの積み木で遊べて楽しかった。（積み木イベント）
・最後の太い木を切り倒したとき、達成感がすごく、楽しかった。（間伐体験）
・誰でも教えたり教えられたりする学び合いの場になっていることを実感した（若者スタッフ）

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | | 月　日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | イベント4回を実施した | イベント (1)「こがねいの若者の森と居場所づくり～人を育む森の魅力～」(2) 子どもの権利条例 10 周年記念「じどうかんフェスティバル 2019」「20000 個の積み木と遊ぼう」(3) こがねい環境フォーラム 2019「間伐材の積み木で遊ぼう＆ペン立てづくり」(4) 東児童館「10000 個のつみきで遊ぼう」<br>（以降、コロナ対策のため中止）「第 56 回クリーン野川作戦 in 小金井」、「こまエコまつり」 | (1)8/2, 4<br>(2)11/17<br>(3)11/23<br>(4)1/11 | 5 日間 | |
| 参加者数 | 計 | (1)40 人 (2)60 人 (3)10 人 (4)70 人 | | 180 人 | |
| 実　施　場　所 | | 東京都小金井市 (1) (2) (3) (4)、神奈川県相模原市 (1) | | | |

# 小さな森で食べて遊んで森づくり

特定非営利活動法人　くにたち農園の会
〒186-0003　東京都国立市谷保 5119

## 1．活動の概要

乳幼児の森林環境教育の普及を目的とし、身近な森や公園で、森づくりの活動を行い、生きる力、森のための４つのアクションを意識した活動を行いました。

焚き火の薪を森から運び、収穫野菜を調理していただき、森の木に触れ、クラフトでは、木の実リース、木のカメラづくり、木の実のアクセサリー、森の生き物さがし、散策等を行いました。

自然の大きさ、美しさ、不思議さ等に直接触れる体験を通して、自然に対する豊かな感性を養うこと、環境を大切に思う心を育てることができました。

「森にふれよう」「木をつかおう」「森をささえよう」「森と暮らそう」を実感できる親子の自然体験・環境教育につながりました。

## 2．活動の成果

今回の活動を通して、小さなお友だち、お母さんたちのやわらかな笑い声が溢れる関係性を作り、子育てを支え合う、協力し合う楽しさを知るきっかけにつなげることができました。

自然の中で、田植えの時の足の感触、種から育てたほうれん草のお味噌汁の味、さつまいも掘りで出会った大きな幼虫、ひんやりとした土管の秘密基地といった感覚を体感し、子どもに良い影響を与えていることを実感することが出来たと思います。

小さな実体験を積み重ねる子どもたちを見守り合うことで、自分から挑戦する力、楽しいを生み出す力を育くむことができました。

お散歩コースの谷保天満宮梅林では、四季を感じ、生き物に出会い、都会の小さな森林内でのさまざまな活動等を通じて、環境と森林との関係に興味を持ち、理解を深めることが出来ました。

子ども達が楽しみながら学ぶ世界を人と自然のかかわりの中で、深く広く作り出していく事をこれからの取り組みの一つにしていきたいと思います。

## 3．参加者の声

・食事になかなか興味を持ってくれない娘ですが、かまどで作る野菜のお味噌汁はガブガブ飲みます。おうちでも飲んでくれるようになりました。
・子どもがのびのび遊べるところ、親自身も心地よいところ、子どもとの暮らしが楽しみになったところです。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 月　日 | 月　日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量又は事業内容 | 小さな森で食べて遊んで森づくり | 9/5・12・19・21・26<br>10/3・10・17・24・26<br>11/7・14・21・23・28 | 12/5・12・19・28<br>1/16・23・25・30<br>2/6・13・20・22・27 | 9 月　大人 39 名・子ども 47 名<br>10 月　大人 45 名・子ども 55 名<br>11 月　大人 48 名・子ども 58 名<br>12 月　大人 46 名・子ども 67 名<br>1 月　大人 29 名・子ども 34 名<br>2 月　大人 20 名・子ども 21 名 | |
| 参加者数 | 都　内<br>都　外<br>計 | 287 人<br>人<br>287 人 | 217 人<br>人<br>217 人 | 504 人<br>人<br>504 人 | |
| 実　施　場　所 | | 東京都国立市　くにたちはたけんぼ・谷保天満宮梅林 | | | |

# 都市と森林　新時代―木の都市を考える―

「森林・林業・山村問題を考える」シンポジウム実行委員会
〒113-0034 東京都文京区湯島1-12-6　高関ビル３階

## １．活動の概要

豊かな都市空間を実現するための森林資源の利活用、木材産地と消費地（都市）との連携、産官学民連携のあり方などを考えることを目的に、「都市と森林 新時代―木の都市を考える―」をテーマとしたシンポジウムを開催し、木材を使用することの本質を指摘した３つの報告と同報告をめぐる活発な討論が行われた。

## ２．活動の成果

３報告ののち、(1) 木を使うことの奥深さ、(2) 森林の意義と木材使用について国民的な理解と支持を広げることの重要性、(3) 都市域と林業地域の人的つながりの３点に分けて、フロアーからの発言者も交えてパネルディスカッションが行われた。その議論のなかで当日の全参加者は、木材の使用が人間生活の本質に通じるとの価値観を持つ必要があること、その価値観を実現するには木材の産地と消費地の連携が不可欠であることを共有した。こうして共有された視点は、今後、「都市と森林」の「新時代」を考えていくうえで重要な論点として社会的に位置づけられていくと思われる。

## ３．参加者の声

都市域での木材利用の必要性を認識できた、各報告者の木材利用に対する思い入れを聞くことができた、都市と木材利用との関係をさらに継続して考えるシンポジウムを企画してほしいなど、シンポジウムの企画と実施内容に肯定的な評価がほとんどだった。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 9月28日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | シンポジウム | | |
| 参加者数 | 都　内<br>都　外<br>計 | 20人<br>54人<br>74人 | 人<br>人<br>人 | |
| 実　施　場　所 | | 東京都文京区弥生　東京大学農学部１号館２階８番教室 | | |

# 身近にあるエネルギーとしてみる森林資源の活用と森林環境教育

特定非営利活動法人　自然文化誌研究会
〒191-0053　東京都日野市豊田三丁目 28-2

## 1．活動の概要

震災等の災害が予想される中、燃料の入手、火の利用、安全性の確保等の能力が必要とされる。日常的に森林と遠く生活する都市住民が、森林資源を活用する機会を生み出す。

多摩川の水源である山梨県北都留郡小菅村は、面積の 95% が森林である。森林の維持と管理、森林資源の有効利用は継承されてきている。青少年を対象とした植栽活動や間伐体験事業、森の幼稚園など多くの事業を展開してきた。森林保全の机上の教育のみではなく、ここでは森林現場での直接体験を重視する。森林をエネルギーとして見る目を養い、燃料の入手・加工・活用・保存等を積極的に学ぶ環境学習プログラムを行う。森林の有効性や森林資源とエネルギーに囲まれる山村の豊かさを学ぶ森林環境教育・体験学習の場の充実を図る。

・参加者が森林に入り、材の調達、加工、活用を行う。
・地元住民を講師に、青少年を指導できる人材を養成する。

## 2．活動の成果

8/4-10 こすげ冒険学校
8/13-15 冒険学校「やまめ・いわなキャンプ」
12/26-28 冒険学校「まふゆのキャンプ」

と称し、宿泊しながらの野外キャンプを多摩川源流部の山梨県小菅村にて開催した。小菅村は面積の 95% が森林でありその多くが東京都の水源林となっている。

安全面に配慮しながら、参加者の火の使用に対して自由度を高くした。その燃料となる「材」の準備と調達についても参加者が自ら行うことで、「何が燃料であるのか」「貴重なものであるか」を体験し、森林資源の有用性について肌で感じてもらった。

参加した子どもたちのみならず、安全確保の立場にある運営側の社会人・大学生・高校生スタッフにも実体験となり、震災などの未曽有の災害が起きた場合は主体的に燃料の調達などの必要性を理解してもらえただろう。

参加者及びスタッフは、火を自主的に使用したことにより、「何のために」「何が必要か」を理解してもらえただろう。有事の際は主体的に動ける契機になったと思う。

地元住民にもこのような活動の意図を知ってもらう機会になったので、今後はできるようでできない地元の子供たちを対象としたプログラムを検討しようという方向性もでている。

## 3．参加者の声

・実際に子供が自分で火をつけて焚火したという話を聞き、良い機会だと思います（保護者）
・(杉の葉を着火剤として使うことを理解した子どもが)「俺はもう、新聞紙も段ボールが無くても火がつけられるよ～」
・あったけぇ・・・(12 月のまふゆのキャンプにて)
・流木は濡れているけどよく燃えるね。
・切ったばかりの木は燃えないの？

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 8/4 ～ 8/10 | 8/13 ～ 8/15 | 12/26 ～ 12/28 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | こすげ冒険学校 | 冒険学校<br>「やまめキャンプ」<br>「いわなキャンプ」 | 冒険学校<br>「まふゆのキャンプ」 | | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 人<br>50 人<br>50 人 | 人<br>35 人<br>35 人 | 人<br>30 人<br>30 人 | 人<br>115 人<br>15 人 | |
| 実　施　場　所 | | 山梨県北都留郡小菅村 | | | | |

# 「水が繋ぐ地域と世代」促進事業

（一社）全国森の循環推進協議会
〒221-0056 神奈川県横浜市神奈川区金港町 6-18
アーバンスクウェアⅡ１階

## １．活動の概要

国連が提唱する SDGs のテーマに沿った事業内容を考案し都市部ｽﾎﾟｰﾂ大会会場等にて学童や保護者を対象に流域の水源森林保全、木材資源利用、森林生態系保全の重要性を学習する訪問型啓発事業である。

## ２．活動の成果

間伐材を利用した木材で作る木工体験では子供たちが自ら木材を選び、組み立て釘を打つ体験を通して木材利用の大切さ、その横でジオラマを使った水源涵養学習を学ぶ体験学習を実施することが出来た。また、親子で体験学習に参加してくれた方も多く、体験学習絵を通して興味を持ち、実際に山へ行き間伐体験をしてみたいという声も聞くことが出来た。川下での流域交流から次の展開へ進みたいという要望もいただき、川下での啓発活動が川上地域との交流へのきっかけとなり、水源地保全・木材利用促進活動の幅を広げていく取り組みへと繋げていくことへ今後の展開として取り組みたい。

## ３．参加者の声

・木が生えている山と木が生えていない山では雨が降った時流れてくる水の様子が全然違うことに驚いた（ジオラマ学習）
・木の種類によって釘が打ちづらいものがあることや、節があると難しいということが分かった。山にも行ってみたい。（木工体験）

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 月　日 | 月　日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量又は事業内容 | 水泳大会及びイベント会場での体験学習型啓発活動 | 2019/7/27<br>2019/9/7<br>2019/10/20<br>2019/10/27 | 2019/11/4<br>2019/12/21<br>2020/1/5<br>2020/2/2 | 8 回 | 横浜国際プール<br>多摩スポーツセンター<br>KSS 横須賀スイミングスクール<br>スポーツプラザ報徳左近山<br>アカデミー新城<br>横須賀市北体育館 |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 2,330 人<br>人<br>2,330 人 | 610 人<br>人<br>610 人 | 2,940 人<br>人<br>2,940 人 | |
| 実　施　場　所 | | 神奈川県横浜市・川崎市・横須賀市・茅ヶ崎市 | | | |

# 木造文化遺産補修用材の持続的な確保について

（一社）文化遺産を未来につなぐ森づくり会議
〒214-0005　神奈川県川崎市多摩区寺尾台 1-9-11

## 1．活動の概要

現存する木造文化財を維持保全する為の補修用材の確保を目的とする。

2020.2.16、京都にて世界遺産を保全する文化財所有者や伝統構法の建築に関わる方々と共に木造文化財の維持保全に必要な超長伐期林業の公益的機能、重要性を訴え今後の対策を考える二回目の会議が開かれた。文化財補修のピークが 200 年先に来ると言われている。

会議は、世界遺産の文化財を維持保存されている寺社城の方々、当会の円卓会議委員、オブザーバーもいれて 70 名近い方々が参加した。

基調講演を山本博一氏（東京大学名誉教授）「文化財補修用材を取り巻く現況について」、と鳥羽瀬公二氏（堂宮大工）「大径材と大工技術の継承」、という中味の濃い内容の講演後、意見交換を行った。

「大変勉強になった」と何人もの方からコメントをいただいた。寺社側からの発言に、苗木を植え、山づくりを始められたところもあることを知り驚いた。台風や暴風雨、地震、獣害等、山で樹木を育成することのご苦労を理解していただけると思うし、森や林への愛着やその精神性も感じてもらえるのではないか、何よりも木造で建てたいと思われることが、大変好ましいことと感じた。

今は、山の存続意義も経済性や維持保全費用に損失が出ないか等の視点で見られてしまうが、「時間」というどんなに頑張っても作り出すことの出来ない「価値」を再認識して欲しいと思う。次に続けたいと思った。

## 2．活動の成果

寺社側の方々とこうして集まり議論する場があること、情報交換ができることが大事，と言う意見も多く有り、同様なことを感じた方も多かった。

伝統構法の建物で木を扱う堂宮大工は、山で伐り出す木の長さや太さに関して情報のやり取りが大事と言っていた。

その為に、200 年 300 年生の山林の見学会を、寺社の担当者の方々を対象に実施する予定であったが、今年は出来なかった。吉野の 300 年の山等是非お見せしたかった。山で実際に霊気を醸し出す大木の林を歩くことで、その雰囲気を感じ取ってもらいたいと切に願っている。今回の第二回円卓会議の修了後、新型コロナ感染症の蔓延で、それ以降の活動ができなくなった。残念であった。

## 3．参加者の声

・被害の大きかった台風の後なども、倒木の処分について等、情報交換が大事と言う意見もあった。（京都市内の神社、倒木の処理等で法外な経費がかかった。）
・基本的には集まることに意義あり、という会議なのだと思います。自分にとっても有意義だった。（文化庁行政関係者）
・こうした議論する場があることは大事なこと、と思った。もっといろんな議論をしたい。（複数）
・「なぜそれ（文化財）を残さないといけないのかと分かっているのに、文化財を守るという意味が、なぜ社会的な議論として盛り上がらないのだろうか。取り巻く社会の問題なのか、」と、話された。（お寺の方）
・他にも、山に木を植え育てようとしている、と言われたお寺が三ヶ寺ありました。
・集成材も有りかと思う、と高額の補修用材に疑問を呈した方もいらした。（寺社）

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 9 月 9 日 | 10 月 25 日 | 2 月 16 日 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | 実行委員会<br>東京 | 実行委員会<br>京都 | 円卓会議<br>京都 | |
| 参加者数 | 京都　内<br>京都　外<br>計 | 0 人<br>9 人<br>9 人 | 5 人<br>4 人<br>9 人 | 48 人<br>42 人<br>70 人 | 53 人<br>35 人<br>88 人 |
| 実　施　場　所 | | 東京 | 京都府京都市内実施 | | |

# まちの中の森づくり活動

特定非営利活動法人　こどもりクラブ
〒235-0035 横浜市磯子区田中 2-1-2 KK ビル 103

## 1．活動の概要

工作教室を開催し、「木を使っていくことの大切さ」を伝えながら木材の利活用を通した環境保全活動を行うことで、森林の新陳代謝を促し $CO_2$ 削減に貢献する。

## 2．活動の成果

いつも活動している地域から少し離れた場所での開催だったので、新規の方々にこどもりクラブの活動を認知してもらうことができた。

新たな活動拠点として、また工作教室の開催を計画したい。

## 3．参加者の声

・色々な形の木片がたくさんあって楽しかった。
・手作りのおもちゃは思い出になって、とても良いと思います。木でできていると丈夫で、ずっととっておけて嬉しい。
・材料がたくさんあり自由に作らせてくれたのが、とても楽しかったです。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 月　日 | 月　日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | 9 月 16 日（祝･月）<br>ウッドカー・カスタマイズ工作 | 12 月 14 日（土）<br>木っ端でリース作り | | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 46 人<br>人<br>46 人 | 17 人<br>人<br>17 人 | 63 人<br>人<br>63 人 | |
| 実　施　場　所 | | 神奈川県横浜市磯子区田中 2-1-2 kkビル 103 | | | |

# 野外活動教育者のための『木と森のものづくり研修プログラム』の検討と試行実践

木育全国生産者協議会
〒399-6301　長野県塩尻市木曽長瀬 2307-2

## 1．活動の概要

青少年向けの野外活動教育、森林教育の実践者に対し、森林、木材についての理解と木材加工技術の習得を目的とした研修プログラムを、試行実践を通して検討、開発する。

策定されたプログラムに従って、野外活動、森林教育の指導者、実践者に対する『木と森のものづくり研修会』を試行実践し、実践、普及において課題となりうる木材加工に関する知識、技術、安全管理についての適切なプログラム開発を進めた。

## 2．活動の成果

成果：指導者・実践者との自然体験キットの意見共有から得たフィードバックで、
利用者に向けた製品開発・わかりやすいチラシ・WEB 媒体を作成できた。

今後の取組：開発した製品をチラシや WEB 媒体を通して、学校関係者・施設関係者に普及を進める

## 3．参加者の声

講師　：体験プログラムとして体系的なキット、指導要領はとても画期的です。

指導者：子供・環境にとって木育を学んでもらうきっかけになった。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 9 月 19 日 | 12 月 5 日 | 2 月 27 日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | 木と森のものづくり研修プログラム<br>第 1 回委員会 | 木と森のものづくり研修プログラム<br>第 2 回委員会 | 木と森のものづくり研修プログラム<br>第 3 回委員会 | | 第 3 回は<br>WEB 会議 |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 2 人<br>5 人<br>7 人 | 2 人<br>6 人<br>8 人 | 2 人<br>6 人<br>8 人 | 6 人<br>17 人<br>23 人 | |
| 実　施　場　所 | | 埼玉県　　浦和市・児玉郡 | | | | |

# 地域資源の森林と堰の利活用
## ―世界かんがい施設遺産大河原堰、滝之湯堰から学ぶ―

NPO 法人　調和の響きエコツーリズムネットワーク
〒 391-0211 長野県茅野市湖東 1844-71
三井の森いずみ平 10-14-8

### 1．活動の概要

地域資源としての農業用水（堰）と、堰の水源として重要な役目を持っている森林（財産区有林）に愛着をもち、未来に残す方法を考え実践する道筋を導き出すことを目的とする。

学習会を 5 回と、地域の堰が世界かんがい施設遺産に登録された 11 月 8 日に堰沿いを歩く野外学習会を開催した。まとめとしてシンポジウムを開催し、学習会の内容をまとめた小冊子を配布。土屋俊幸氏による基調講演「地域の協働による自然資源管理のあり方」のあとパネルディスカッション、質疑応答を行った

小冊子は図書館、市民活動センター「ゆいわーく茅野」などに寄贈。

### 2．活動の成果

地域資源の堰や財産区有林を管理する人、一般市民、移住者、別荘定住者、と立場の異なる参加者が、堰や財産区有林の利活用は関係者以外の人も一緒に考えるべきだという共通認識を持つことができた。今後の取り組みとして、移住者及び別荘定住者に地域の特徴を正しく理解してもらう意見交換会を重ねると同時に、地縁組織の人たちとの信頼関係をさらに深め、多様な市民による協議、熟談による協働作業へと進めたい。

### 3．参加者の声

・身近に世界かんがい施設遺産があることに驚いた
・堰を後世に残す義務があると思った
・財産区の歴史を知ることができた
・これからは堰や財産区有林について関係者以外の人も一緒に考えるべきだ
・今回学んだことを今後に活かしたい
・いろいろな立場の人が集まる場として、とても良かった
・これからもこの議論の場を続けてほしい

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 9 月 11 日、9 月 25 日、10 月 9 日、10 月 23 日、11 月 8 日、11 月 13 日、11 月 15 日～ 12 月 13 日 | 2 月 2 日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量又は事業内容 | | 学習会 5 回<br>野外学習会 1 回<br>小冊子制作の準備 4 回 | シンポジウム<br>・基調講演<br>・パネルディスカッション<br>・質疑応答 | | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 106 人<br>26 人<br>132 人 | 50 人<br>8 人<br>58 人 | 156 人<br>34 人<br>190 人 | |
| 実　施　場　所 | | 長野県　茅野市 | | | |

# 森のようちえん全国交流フォーラム in ぎふ

森のようちえん全国交流フォーラム in ぎふ実行委員会
〒501-3700 岐阜県美濃市 2973-1
特定非営利活動法人グリーンウッドワーク協会　内

## 1．活動の概要

幼児期の森林環境教育の推進や、新たな里山林の利活用を促進、保護者等の参加を得た国民参加の森林づくりの推進、さらには過疎化・高齢化が進む農山村地域への移住・交流の促進への寄与など全国の先進地において注目されている「森のようちえん」に関する全国交流フォーラムを開催した。当フォーラムでは、有識者による講演や 51 の分科会等を行うことで、これからの森林・自然を舞台にした幼児教育・保育・子育て支援の実践のあり方から制度・政策などについて議論を深めた。

## 2．活動の成果

「森のようちえん」をキーワードに全国の森林・自然を舞台にした幼児教育・保育・子育て支援等に携わる実践者や行政関係者・学識経験者など延べ 1,200 人以上が交流を深め、多様な主体がそれぞれの活動における知識・経験・ノウハウを共有することができた。また、地元の公立保育園の保育士や自治体関係者が多く出席したこと、参加者の多くが SNS でフォーラムについて発信したことなどから、今後こうした活動の社会的認知の向上につながることが期待される。

## 3．参加者の声

・森や自然での自由な体験を通して、子どもたちは自分で考え、選択をし、行動する力を身につけていくのだと感じた。
・森のようちえんが、子どもたちのためだけでなく、大人にとっても心地よい学びの空間だとわかった。
・産官民学がそれぞれの立場や役割をもって共通の目的達成に向けたパートナーとしてタッグを組む機運が、このフォーラムを通して感じられた。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 11 月 2 日 | 11 月 3 日 | 11 月 4 日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | ・開会式<br>・基調講演<br>・特別講演<br>・ポスターセッション、分科会 | ・分科会<br>・交流会 | ・分科会<br>・トークセッション<br>・閉会式 | | (3 日間とも)<br>・51 の分科会<br>・幼児～小学生向けプログラム |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 149 人<br>252 人<br>401 人 | 178 人<br>348 人<br>526 人 | 100 人<br>258 人<br>358 人 | 427 人<br>858 人<br>1,285 人 | |
| 実　施　場　所 | | 岐阜県美濃市　岐阜県立森林文化アカデミー | | | | |

# 梨の木の森を楽しみ学ぶ森林環境教育

梨の木里山づくりの会
〒470-0113　愛知県日進市栄 4-1702　メイツ日進 605

## 1．活動の概要

梨の木小学校の学習林において、森の役割や生き物の営み、里山文化を通して見えてくる森と人との関わりを学び、体験することにより、森林や環境に対する認識を深める。

## 2．活動の成果

里山体験会では、森の中に入って小さな生き物の観察や竹ポックリづくり、落ち葉の滑り台遊びなど､このプログラムに参加した多様な経験を通して自然への理解を深めることができた。また、毎年一定数のリピーターがおり、自然に触れる活動の輪が広がり、自然への理解が深まっている。

定例活動では、枯死枝撤去や階段補修等により、安全に自然体験ができる場を整備することができた。

## 3．参加者の声

「森の中は涼しいね」、「この葉っぱいいにおいがする」、「カエデの種が回りながら落ちてくる、おもしろい！」など、自然の中での体験を通して森への関心が高まり、森の素晴らしさ、自然の不思議さへの理解が深まった。また、新型コロナの影響で、代替イベントとして開催した、三密を避けた分散出発型の自然観察ウォーキングでは、外出自粛が要請される中で、わが子に屋外で自然体験させたい複数の保護者から、企画と開催に対して感謝の言葉をいただいた。

実績報告とりまとめ表

| 実施時期 | | 7/28<br>体験会 | 12/1<br>体験会 | 6/21<br>自然観察 | 6/28<br>自然観察 | 定例会<br>月１回 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業量 | | 梨の木小学校学習林　約 1ha（森林整備、体験会等）<br>体験会　　2 回× 2.5hr ＝ 5.0hr<br>自然観察　2 回× 1.0hr ＝ 1.0hr　　計 6hr | | | | 2hr × 12 回<br>＝ 24hr | 30.0hr |
| 参加者数 | 県内 | 45 人 | 41 人 | 28 人 | 28 人 | 約 5 名× 12 回 | 202 人 |
| | 県外 | 0 人 | 0 人 | 0 人 | 0 人 | ＝ 60 名 | 0 人 |
| | 計 | 45 人 | 41 人 | 28 人 | 28 人 | 県外 0 名 | 202 人 |
| 実施場所 | | 日進市立梨の木小学校（愛知県日進市折戸町梨子ノ木 28-31）、<br>愛知用水の小路（愛知県日進市折戸町梨子ノ木、愛知用水日東支線） | | | | | |

# 小学校授業での森林体験学習

特定非営利活動法人　水とみどりを愛する会
〒461-8680　名古屋市東区東新町１
（中部電力㈱環境・地域共生室内）

## １．活動の概要

次世代層に対する効果的な環境教育支援として、学校授業での森林体験学習を実施し、自然と人と暮らしとの関わりへの理解を深めてもらうことで、持続可能な社会の実現に寄与する。

## ２．活動の成果

次世代を担う子どもたちに、森を楽しみ、森を守り、森をつくる大切さを伝えることができた。今後も森林保全を中心としたボランティア団体として活動していく。

## ３．参加者の声

・山の役割について知ることができた。
・森の楽しみの他、間伐など山や森を守っていく必要性を教えてもらった。
・地域の山や森を大切に守っていきたい。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 8月31日 | 9月6日 | 10月3日 | 10月10日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業量 | | 事前研修 | 山岡小 | 大井小 | 神坂小 | | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | ―人<br><br>―人 | 26人<br>人<br>26人 | 38人<br>人<br>38人 | 9人<br>人<br>9人 | 73人<br>人<br>73人 | 岐阜県を「県内」とし、参加小学生の数を記載。 |
| 実　施　場　所 | | 岐阜県　中津川市　「根の上高原」 | | | | | |

# 猿投の森音楽祭 2019「猿投の森を体験しよう」

公益社団法人　日本山岳会東海支部
〒460-0014　名古屋市中区富士見町 8-8　OMC ビル B1

## 1．活動の概要

目的：

自然保護活動の一つとして取り組んでいる猿投の森（県有林やまじの森）づくりにおける日本山岳会東海支部の森づくり活動をさらに発展進化させるための事業として広く一般の方に森を公開し森の自然環境の保全・保護の大切さおよび都市近郊林の豊かさと有効利用への理解を深めるべく「森の音楽祭」を開催するものです。

内容：

森の入り口から音楽祭会場まで森の中の林道を約２ｋｍ歩いて頂くことにより、自然と森の保全活動の実態を体験、会場付近では「森づくりの会」のメンバーにより、「猿投山の変遷」「森づくりの会員による整備作業の実態を」パネルで展示された写真を使って説明を受けた後、音楽祭会場に到着。会場では、トヨタ自動車合唱部に演奏と東海学園交響楽団によるベートーベン作曲交響曲 5 番「運命」の演奏楽しんだ後、参加者全員で「雪山讃歌」を合唱して第 1 部終了、午後からは自然観察会と猿投山山頂を目指したハイキングに分かれて自然とのふれあいを堪能して頂いた。

## 2．活動の成果

山林資源の維持管理に関わる人材の高齢化が進んでいる中、引きつぐ担い手の育成が喫緊の課題となっている現状がある中で、 音楽祭への参加をきっかけに森の中に入ってきた頂いた一般の方に森の自然環境の保全・保護活動を実感しその大切さを実感して頂いた。　これを機会に、猿投の森づくりの活動に賛同し、ひいては新たに森づくりの会員になって頂く方を少しでも確保すべく、努力をつづけていきたいと思います。

## 3．参加者の声

音学祭終了後のアンケートには下記の答えを頂いた

①森の入り口から会場まで歩いた感想として‘気持ちよかった’、‘森の体験が出来てよかった’が 90%

②音楽祭に参加した感想として‘非常によかった’、‘良かった’が 83%、
また、次回も是非参加したいとの感想も 95.1%聞くことができた。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 10 月 26 日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 事業量 | 1 か所 | | | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 380 人<br>34 人<br>414 人 | 人<br>人<br>人 | |
| 実　施　場　所 | | 愛知県瀬戸市　上山路町１１９－２ | | |

# 地域材の有効活用による循環型社会の形成

チェンソーアートクラブ　マスターズ・オブ・ザ・チェンソー東栄
〒449-0215　愛知県北設楽郡東栄町奈根字加久保 56-2

## 1．活動の概要

チェンソーアートを通じて地域材の有効活用を図り、森林資源をリサイクルすることでサステナブルな社会の普及啓発活動を行なった。

地域材でチェンソーアート作品を作り、その木っ端でウッドチップを作る作業を地域住民と行った。

## 2．活動の成果

間伐材の有効活用のための作業を町民やイベント来場者に体験作業してもらうことにより、森林の持つ可能性や重要性を PR することができた。

間伐材にとどまらず、庭木をウッドチップにして畑にまく人もいたり、それぞれの人が工夫して活動していた。

今後も活動を続けていき、森林資源を有効に活用することで SDGs の目標達成につながるようにこの活動を広めていきたい。

## 3．参加者の声

・チェンソーを初めて使って、少し怖かった。
・木っ端をチッパーで砕くことで、ガーデニングやドッグランにも使えるのはいいことだと思った。
・庭木の枝の処分に困っていたが、チップにすることでいろいろ活用できることがわかりよかった。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 9 月 15 日 | 10 月～ 5 月 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | ウッドチップ作り<br>チェンソー体験<br>おが粉のたい肥作り教室 | ウッドチップ作り<br>チェンソー体験 | | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 23 人<br>人<br>23 人 | 43 人<br>人<br>43 人 | 66 人<br>人<br>66 人 | 新型コロナウイルス感染拡大予防のため 5 月のイベントは中止 |
| 実　施　場　所 | | 愛知県北設楽郡東栄町　東栄町林業センター | | | |

# 日本の森林・木材利用セミナー

一般社団法人　日本木工機械工業会
〒460-0011　名古屋市中区大須 4-11-39

## 1．活動の概要

日本の森林が国民生活に大きく寄与していることを明らかにし、日本の森林の重要性に関する認識を深めることを目的として、学識者、木材産業事業者を講師に講演会を開催すると共に日本の森林・木材加工に関する説明パネル及び木材加工製品を展示し、聴講者、来場者の認識を深めていただくことに努めた。活動は 2019 年 10 月 3 日から 6 日まで開催されたウッドワンダーランド 2019 において行い、講演会 5 回と広報ブースを設置し日本の森林・木材利用について広く紹介すると共に日本の森林・木材利用に関するアンケート調査を行った。

## 2．活動の成果

会場アンケートでは 243 名から回答いただき、森林の機能、現状について過半数の方が理解されていたが、SDGs については内容を理解されている方が 20％程で「知らない」、「わからない」が過半数を占めた。SDGs に関する説明では木材産業関係者からは内容は理解しているがどう取り組むべきか分からないとの声も多くあった。木材利用についてサンプルを基に説明したところ、興味深くお聞きいただくことが出来、無料サンプルは最終日には全て配布済となった。

今後もこのような広報活動の継続希望も多くあったことから、工業会としても今後の課題として検討する予定である。

## 3．参加者の声

一般消費者の方は日本の森林、木材利用の現状等について初めて見聞きする方が過半数で、漠然と理解していたことについて理解が深まったとの声が多くあった。

木材産業関係者からは SDGs 及び木材サンプルへの質問が多くあり、特に前者については勉強している、取り組みを検討しているとの声も多くあったが、理解不足で対応に苦慮しているとのことであった。

実績報告とりまとめ表

| 実施時期 | | 月　日 | 月　日 | 月　日 | 月　日 | 月　日 | 月　日 | 月　日 | 計 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業内容 | 講演会 | 10月3日 | 10月4日 | 10月4日 | 10月4日 | 10月5日 | | | | |
| | 展示 | | | | | | 10月3日<br>～6日 | | | |
| | アンケート調査 | | | | | | | 10月3日<br>～6日 | | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 70 人 | 20 人 | 20 人 | 22 人 | 25 人 | 約 500 人 | 89 人<br>154 人<br>243 人 | 89 人<br>154 人<br>900 人 | |
| 実　施　場　所 | | 愛知県名古屋市港区金城ふ頭 2-2　ポートメッセなごや　交流センター及び 1 号館 | | | | | | | | |

# 「子どもたちと森を育て、そして遊ぼう」

一般社団法人　森の風
〒510-1251　三重県三重郡菰野町千草 2577

## 1．活動の概要

【森を育てる講座】野外保育のフィールドとなる森の整備の勉強会とワークショップを開催。実際に荒れた山に入り作業を行いながら整備し、子どもたちにとっての過ごしやすい環境づくりとは何かということを考える講座を開催。
【もりであ～そぼ】しぜんの中であそぶ心地よさ楽しさを、体いっぱい感じられる場を用意する。また活動をとして里山を含めた森林環境の大切さを感じてもらう。

## 2．活動の成果

森の中で心も体も開放され、親子で心地良く過ごすことができた。生き物との出会いや草木を使ったあそびを通して親子がふれあい、仲間の輪が広がる場となった。

また森を（子と共に）整備しながら“子どもたちにとって過ごしやすい環境とは”と考えたことで、森や森にすむ動物や自然に親しみ、環境保全への理解を深めるきっかけとなったことを願いたい。人と森と暮らしのつながり、また過去と現在と未来のつながりを、森や自然という視点から見つめなおすきっかけとなった。

## 3．参加者の声

・手入れをすると森は驚くほど美しくすがすがしくなるのだと感じました。
・つい我が物顔でズカズカと森へ入りがちですが、自然や動物たちの場所に私たちがお邪魔するという感覚に気づかされました。
・一緒に作業する子どもたちのイキイキとした姿を見て、この子たちに、そしてこの子たちの子どもにも、美しく豊かな自然をよりよく守って“つなげたい”と強く感じました。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 月　日 | 月　日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | 森を育てる講座<br>もりであそぼ！<br>※ | 19/9/23<br>※ 19/7/10 ～ | 20/3/20<br>※ 20/2/26 | 2 回<br>※ 11 回 | ※‘20/3 ～ 6 新型コロナウイルス感染症の影響により活動休止 |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 47 人<br>人<br>人 | 99 人<br>※ 204 人<br>人 | 人<br>※ 350 人<br>人 | |
| 実　施　場　所 | | 三重県　菰野町 | | | |

# ユネスコエコパークの森　林道ウォーキング

一般社団法人　三重県森林協会
〒514-0003　三重県津市桜橋 1-104

## 1．活動の概要

県民の方々に森林の持つ癒し効果等を体感していただき、森林に対する理解を深めていただくために、「ユネスコエコパークの森 林道ウォーキング」を開催し、一般公募した 17 名の県民の方々に参加していただきました。

ガイドの案内で約 6.2km の林道・作業道を歩くウォーキングを行いました。

当初、25 名の参加者を予定していましたが、バスで移動すること、ガイドの説明を聞きながらのウォーキングとなることから、新型コロナウィルスの感染防止のため、参加者を少なくし開催しました。

## 2．活動の成果

山岳救助隊長を務め、大台町の山を知り尽くしているガイドの話に、参加者は興味深く熱心に聞いていただき、質問なども沢山飛び交う中で、森林に対する理解をかなり深めていただいたと実感できました。

今後も一般県民の方と森や木をつなぐ取組みができればと考えています。

また、アンケートで、「もっと森林組合の仕事の実情とか知りたかった」との声もあり、林業現場の話など、一般の方に普段知ってもらいにくい情報を伝えていく必要があると感じました。

## 3．参加者の声

イベント終了後のアンケートでは、17 名中 15 名の方から「良かった」との回答があり、

・森林は個人ではなかなか来られないので良かった
・コロナ禍で出かけることが少なく、久しぶりに出かけられてよかった。楽しく歩くことができた
・自然の楽しさを感じたといった声をいただき、特に
・ガイドの経験豊かな案内が分かりやすくよかったとの感想を多くいただきました。

実績報告とりまとめ表

| 実 施 時 期 | | 11 月 28 日 | 計 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | 町全域がユネスコエコパークに認定された大台町内での林道ウォーキング（約 6.2km） | | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 17 人<br>0 人<br>17 人 | 17 人<br>0 人<br>17 人 | |
| 実 施 場 所 | | 三重県多気郡大台町真手地内 | | |

# みんなで作ろう！森のアニメーション

NPO 法人　大杉谷自然学校
〒519-2633　三重県多気郡大台町久豆 199

## 1．活動の概要

大台町内の森林に多様な人が集まり「森と水と人」の繋がりを考え学習する機会を提供するため、参加者で山林を散策し山で採取した土で土絵具を作成し、アニメーション作りを実施した。制作したアニメーションは上映会と HP を通じて公開した。アニメーションは東京の芸大関係者の方が作成したアニメーション原画を土絵具で埋めていく形で制作し、上映会は町内のユネスコエコパークシンポジウム時に実施した。本来ならば、最終回として参加者を集めて再度上映会を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の流行のため、実施ができなかった。

子どもから大人、障害のある方もみんなで参加でき楽しみながら活動できる内容であり、芸術を通した山の大切さの啓発活動として効果的だった。

## 2．活動の成果

・幅広い参加者層が参加できる活動であるため、今後も多くの方に参加してもらえる活動として続けていきたいと考えている。
・アニメーションという形で残る作品が完成するので、それを HP 上で公開などすることにより、山についての関心をもってもらえるきっかけとできる。

## 3．参加者の声

・山の散策がおもしろかった。
・空気がきれいだった。
・土から絵具ができることに驚いた。
・アニメーション作りが大変だったが、絵がアニメーションになってよかった。

実績報告とりまとめ表

| 実施時期 | | 【準備】<br>8 月 29 日 | 1 回目<br>11 月 2 日 | 2 回目<br>11 月 3 日 | 【上映会】<br>1 月 10 日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業量 | | 講師とスタッフが集まり実施日のリハーサルと土絵具を制作 | 山を散策し土を採取し土絵具づくり。子どもは土絵具で自由にお絵かき。大人はアニメーション作り | | 森のアニメーション上映 | | |
| 参加者 | 県内<br>県外<br>計 | — | 12 人<br>0 人<br>12 人 | 11 人<br>9 人<br>20 人 | 35 人<br>15 人<br>50 人 | 58 人<br>24 人<br>82 人 | |
| 実施場所 | | 三重県　菰野町 | | | | | |

# 「三重の木の椅子展」開催事業

三重の木の椅子展実行委員会
〒511-1122　三重県桑名市長島町松ヶ島 733-76

## 1．活動の概要

(事業の目的)

三重県産材を使用した椅子を幅広い方々に見て・触れて・座っていただくことで、木の持つぬくもりや質感を体感していただくとともに、展示作品や展示会の様子を記載した「Holding Report (開催報告書)」を通じて、地域材の可能性や地域材を使用することの意義や三重県の森林・林業に対する関心を高め、県産材利用の推進につなげます。

また、これまで地域材利用に関心の薄かった木工作家等に県産材を利用した家具づくりに挑戦していただくことで、県産材の家具材としての利用拡大を図ることを目的として「三重の木の椅子展２」を開催しました。

(事業の内容)

〇開催日時：令和元年 11 月 22 日（金）～ 24 日（日）の３日間

〇展示内容：三重の木の椅子（出展者数 19 名、出展数 46 脚)、パネル展示（「三重の木の椅子ができるまで」、「林業女子会が見た林業現場の風景」)、三重の木のカトラリー、三重の木のおもちゃ

〇トークショー

１）11 月 23 日（土）「飛騨産業㈱のモノづくりと人づくり」

２）11 月 23 日（土）「工房家具と地域材～ハンドメイドの魅力～」

３）11 月 24 日（日）「田舎暮らしとモノづくり」

〇ワークショップ「カンナ削り体験」

## 2．活動の成果

・展示会には３日間で７０６名の方が来場し、在廊している作家や事務局スタッフと直接話しをしながら、地元三重の木でできた椅子に直接触れ、木の質感や感触を実感するとともに、県産材でできたカトラリーやおもちゃを通じて地元の木の利活用について理解を深めていただきました。

・一方、木が伐採され、製材・乾燥・加工の工程を経て椅子になっていく姿を紹介したパネル展示「三重の木の椅子ができるまで」や主催事務局を務める林業女子会＠みえの活動の様子を紹介した写真などを通じて、身近な里山にある貴重な森林資源とそこで森林の整備をする林業家の姿、そしてそれを取り巻く課題について考える機会を創出しました。

・また、トークショーでは地域材を利用した製品の販売を手掛ける大手家具メーカーや出展者から、地域に暮らしながら地域材を使用する意義や、職人を育てる大切さについて貴重なお話をいただきました。

・ワークショップ「カンナ削り体験」では、かんなの刃の研ぎ方から、刃の設置の仕方、挽き方までレクチャーしていただき、訪れた地元の高校の工芸デザイン科の学生などが食い入るように匠の技に見入り、木を使う職業の魅力を感じていただきました。

## 3．参加者の声

来場者アンケート（回答数 110）

Q1：「三重の木の椅子展２」の感想

| | |
|---|---|
| とてもよかった | ８１．８％ |
| よかった | １７．３％ |

Q2：地元の木を生活の道具に使うことについて重要と感じましたか？

重要である　　８７．３％
重要でない　　０．９％
わからない　　１１．８％

Ｑ３：「三重の木の椅子展２」の感想（自由記載）

よかったところ

・実際に作品に触れて、座れた。
・作者と話ができた。
・出展者やスタッフの感じがよく、話しやすかった。
・林業のパネル展示やかんな削り体験があったこと。
・木を大切に使って、愛着のある椅子を作り、使うことを伝えようとしているところ。

よくなかったところ

・欲しい小物や作品の販売がなかった。（値段の表示がなかった。）
・字が小さくて見えにくかった。
・女性作家の作品がなかった。
・座りたかった椅子がいつまでも空かなくて、座れなかった。
・もう少し出展数が多い方がいい。

その他

・次回も開催して、続けてほしい。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 11 月 22 日 | 11 月 23 日 | 11 月 24 日 | 計 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業量又は事業内容 | 展示会１回<br>(3 日間)<br>出展者数 19 名<br>出展数 46 点<br>他 | ・三重の木の作品展示<br>・パネル展示 | ・三重の木の作品展示<br>・パネル展示<br>・トークショー<br>・ワークショップ | ・三重の木の作品展示<br>・パネル展示<br>・トークショー<br>・ワークショップ | ・三重の木の作品展示<br>・パネル展示<br>・トークショー<br>・ワークショップ | |
| 参加者数 | 来場者数<br>スタッフ<br>計 | 127 人<br>14 人<br>141 人 | 313 人<br>16 人<br>329 人 | 266 人<br>26 人<br>292 人 | 706 人<br>56 人<br>762 人 | |
| 実施場所 | 三重県立美術館県民ギャラリー（三重県津市） | | | | | |

# 地域産木材利用促進啓発事業

特定非営利活動法人　京都森林・木材塾
〒618-0091　京都府乙訓郡大山崎町円明寺葛原 6-25

## 1．活動の概要

地域産木材利用が「人や環境にやさしく 温かみがある」ことを実感してもらうため、現地見学会・講演会を開催。環境フェスティバルでは、環境アンケートを実施。 HP で公表。

## 2．活動の成果

①「京都大学生存圏研究所」「京都府茶業研究所」現地見学会実施

京都大学研究所では木材をふんだんに使用した木質ホール（三階建ての大型木造建築物）、材鑑調査室（木の図書館）など見学。京都府茶業研究所は本館・製茶研究棟を府内産木材で新設したもので、改めて京都の木造建築技術の高さを実感した。

②京都環境フェスティバル 2019 に出展

京都議定書発祥の地・京都の重大イベントのひとつであり、７年連続で出展している。展示した能面、オルゴールを見学してもらうとともに、スギ・ヒノキの特性を含む「森林や環境に関するアンケート」を実施。地域産木材利用の必要性を実感してもらった。

③「京のまちづくり　木質バイオマス技術」講演会＜衛藤 府建築士会顧問、矢野 京大教授＞

衛藤氏は医療・福祉建築設計を行うとともに「まちづくり」活動を行うなど、二足の草鞋を履いた日々の体験を語る。矢野教授は、木材で作ったセルロース ナノ ファイバーが自動車や航空機ボディーに活用できるよう世界に先駆け研究。先端技術を学んだ。

【まとめ】HP アクセス数が年々多くなり、学校（大学・高校）からの問い合わせが多い。

## 3．参加者の声

「京大研究所」「府茶業研究所」の木造建築見学会や「まちづくり バイオマス技術」講演会は、府民・事業者・行政関係者にとって最も関心のある内容であり、「非常に有意義」との感想があった。また、環境フェスティバルでは、「森林・環境アンケート」を実施する中で、放置された森林の現状から森林環境税創設（国）の必要性を認識した旨の意見あり。

実績報告とりまとめ表

| 事業内容 | 実施日 | 実施場所 | 参加者等 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 京大研究所、府茶業研究所見学 | 11 月 12 日 | 宇治市五ヶ庄、宇治市白川 | 25 名＜マイクロバス使用＞ | 京都の木造建築技術の高さを実感した |
| 京都環境フェスティバル出展 | 12 月 7 日<br>8 日 | 京都府総合見本市会館（京都市） | 来場者 30,000 人 | 地域産木材利用の必要性を実感してもらった |
| まちづくり、バイオマス講演会 | 1 月 28 日 | 京都木材会館（京都市中京区） | 30 名 | 先端技術を学んだ<br>取材：読売新聞など４社 |

# 森を楽しもう！森で学ぼう！

一般社団法人　森のようちえん　どろんこ園
〒601-1253 京都市左京区八瀬近衛町 723-48

## 1．活動の概要

○森のようちえん購演会「心の根っこを育てよう！森のようちえん」＆森のようちえん体験会
岐阜県多治見市森のわらべ多治見園の浅井智子さんを講師に迎え、自然への興味関心を育み森林環境教育をひろげていく現場である『森のようちえん』を深く学ぶ。

○京都自然保育オンラインシンポジウム「自然の中で育つ子どものほんものの生きるチカラ」
講師に長野県北安曇野郡池田町教育長竹内延彦さんと京都市教育委員会指導部生徒指導課の川上貴由さんにご登壇いただきオンラインにて野外活動における幼児教育の重要性を深く学び、森林環境教育の普及啓発を目指す。

## 2．活動の成果

9 月の講演会では日頃から森で活動する森のようちえんスタッフや、プレイワーカーも参加して講演会や森のようちえん体験会を開催。実体験と交流ができる機会を持つことができた。

2 月開催予定だったシンポジウムは延期となったが、コロナ対策としてオンラインシンポジウムを開催。教育関係者や保護者、自然の中で活動されている方など幅広い方に伝えることができた。活動によって繋がれたメンバーや参加者の皆さんと共に、今後も自然と子どもをキーワードにいろいろと取り組みたい。

## 3．参加者の声

・子どもたちへの教育環境、彼らの生きる環境に、自然保育が重要であると再認識できた。
・本物に触れ感じることは素晴らしく、関わる大人も楽しい森のようちえんがもっと認知され広がることを願う。

実績報告とりまとめ表

| 実施時期 | | 9 月 13 日 | 11 月 8 日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | 森のようちえん講演会<br>＆<br>森のようちえん体験会 | 森のようちえん京都シンポジウム | | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 43 人<br>3 人<br>46 人 | 90 人<br>18 人<br>108 人 | 133 人<br>21 人<br>154 人 | |
| 実施場所 | | 京都府京都市 | | | |

# いい音みつけよう！リュールシロフォン選手権！

一般社団法人　ガールスカウト大阪府連盟
〒556-0017　大阪市浪速区湊町 1-4-1　OCAT ビル 4F

## 1．活動の概要

大阪の間伐材を中心とする色々な種類の木を使って、リュールシロフォン選手権を実施し、リュールシロフォンを作成し音色の美しさを披露しあうプログラムを行う。また、100 年ほど前に製作された机の引き出しをリメイクするワークショップ。

このプログラムを通じ、日本および世界の森林の現状について学ぶ。また持続可能な方法で森林資源を利用したり、作られたものを大切に次代につないでいく責任とはどういうことか、管理するということはどういうことなのかを学ぶ機会とする。さらに、他団体や企業との協働で行うことによって森林環境教育および SDGs の推進について広く社会にアピールすることを目的とする。

## 2．活動の成果

大阪にも林業に携わっている人がいること、林業とはどのような仕事なのかということ。森にとって、人の手が入り、間伐を行うことが大切なこと。何より、その木を使うことによって持続可能になることを作成する前に紙芝居を通して学んだ。そのうえで、地元大阪の間伐材を使用したリュールシロフォンを作成することによって、遠い関係のないところで行われていることではなく、自分ごととして感じてもらえた。大切にまもらなければいけないこと、自分達ができることを体験したことども達が考えて行動してもらいたい。また、100 年ほど前に製作され、ずっと大切に使用されてきた机をリメイクし、今後も永く使っていけるようになった。木という素材だからこそこのようにリメイクできることと、その手法を学ぶ機会となった。大阪府連盟としては、今回の取組みをきっかけとして今後も森林 ESD あるいは SDGs の推進をすすめていきたい。

## 3．参加者の声

・リュールシロフォンの音色がとても心よく優しい。作れてうれしかった。
・針葉樹と広葉樹の違いがわかった。
・林業や間伐のことを紙芝居やクイズで教えてもらってよかった。
・これからは、色々なところで木を使っていきたいと思った。
・家具職人さんの色々な工具が使えてうれしかった。
・リメイクすることで新しいもののように仕上がりよかった。
・これからも永く使ってほしい。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 10 月 20 日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | ・日本の森林、世界の森林の現状についての学習<br>・色々な材木の特徴についての学習<br>・SDGs についての理解を進めるプログラムの実施<br>・リュールシロフォン作成の指導<br>・リュールシロフォン選手権の実施<br>・机引き出しリメイクの指導 | | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 90 人<br>人<br>90 人 | 90 人<br>人<br>90 人 | |
| 実　施　場　所 | | 大阪府大阪市 | | |

# 地域の森と地域産木材の魅力を伝える「木材コーディネーター」養成事業

NPO 法人　サウンドウッズ
〒669-3631 兵庫県丹波市氷上町賀茂 72-1

## 1．活動の概要

地域の森と木材に関する知識・技術をもつ人材「木材コーディネーター」を養成している。基礎講座では、森づくりと地域産木材に関する知識・技術を習得し、森林資源の有効活用により森と消費者を直接つなぐための知見を得る機会を提供している。また講座参加や講義内容についての質問を多く寄せられるようになったため、無料で参加できる公開講座講座と説明会を開催した。説明会では、木材コーディネーターへの導入機会として講座を準備していることや、受講者周辺の関心層に対して木材コーディネーターの役割や必要性を周知している。

これらを通じて、身近な森林や木材に対する理解について考える仕掛けを創出することで、消費者に「木づかいと森づくりの関係を普及する」機会を生み出すことを狙いとしている。

## 2．活動の成果

講座に関心を持たれた参加希望者に対して、説明会の開催は、講座の内容に関する理解や、具体的な木材コーディネーター像を知る機会となったと好評であった。森林資源を有効活用する取り組みをどのようなポジションで推進しているのか、またどのような課題に対して、解決策を模索する実例や、基礎講座で得た知識や情報が、どのように活動に役立っているのかについて、質疑応答を含めて意見交換できたことがよかった。また、「木材コーディネーターと共働したい」と考えている、連携対象者の受講も多くみられ、各コーディネーターの活動を広げる機会の創出という成果も期待できることが分かった。

基礎講座受講者には、森から消費者までにかかわりを持つ木材流通の全般的な基礎知識を身に付ける機会を提供した。今後は木材コーディネーターがより専門性の高い知識を習得し、地域で活躍する機会を提供することにより、受講者がそれぞれの立場で実施する木づかいと地域の持続的な森づくりの関係を意識する事業展開によって、地域の森づくりと木材利用に関わる社会的波及効果が期待できると考えている。

## 3．参加者の声

・プログラムとしてとてもよく考えられていて（知識＋実習）とても充実した内容でした。かなりのボリュームでしたが、これほど体系的に学ぶ機会はなく、とても勉強になりました。
・座学では、木材流通全体の知識について幅広く学ぶことができました。また、業界間に存在する問題点についても把握することが出来ました。コミュニケーションで実践を努めたいと思います。
・森林調査や製材、木拾いや木取りなど普段の業務では習得が難しい専門分野以外の技術についても、演習を通じて奥深さを実感しました。特に製材の実習は興味深く、もう一度受講したいです。
・ビジネスプラン・プレゼンテーション技術習得講座を通して、自分の考えを整理してまとめる時間がとれ、事務局による添削や、受講生から評価シートを受け取るなど、自分が作りこんだアウトプットに対して客観的な意見を取り込める環境が良かったと考えています。今後の企画立案やプレゼンテーションに役立てたいと思います。

実績報告とりまとめ表

■木材コーディネート基礎講座 2019 説明会

| 実 施 時 期 | | 7 月 29 日 | 8 月 3 日 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 事業 | | 「木材コーディネート基礎講座 2019 説明会」の開催 | | |
| 参加者数（人） | 兵庫県内 | 0 人 | 0 人 | |
| | 兵庫県外 | 17 人 | 18 人 | |
| | 計 | 17 人 | 18 人 | |
| 実施場所 | | 東京都 | 大阪市 | |

■木材コーディネート基礎講座

| | | 9 月 21 日 | 9 月 22 日 | 10 月 19 日 | 10 月 20 日 | 11 月 16 日 | 11 月 17 日 | 12 月 21 日 | 12 月 22 日 | 2 月 9 日 | 2 月 10 日 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業 | | 木材コーディネート基礎講座 | | | | | | | | | | |
| 参加者数（人） | 兵庫県内 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 兵庫県外 | 17 | 16 | 14 | 14 | 18 | 18 | 19 | 19 | 13 | 12 | 160 |
| 合　計（人） | | 17 | 16 | 14 | 14 | 18 | 18 | 19 | 19 | 13 | 12 | 160 |
| 過年度受講者（人） | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 | 2 | 3 | 11 |
| 実 施 場 所 | | 東京都港区、埼玉県飯能市 | | | | | | | | | | |

# 森林研修ツアー「兵庫の森づくり＆地形・地質と森林の成り立ち」

森林インストラクター兵庫
〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-2-1-1-905

## 1．活動の概要

兵庫県で取り組まれている森林整備の一端を見学し、災害に強い森づくり、野生動物と共生する森づくりに認識を高めていただく。また、「日本一低い分水界」や「丹波竜」発掘現場の見学を通して、地形・地質と森林の成り立ちの関係を知り森林保全を考える機会とする。

## 2．活動の成果

兵庫の森づくりについては、講義だけではなく実際にその現場を見ていただき、また森林動物研究センターも見ていただくことで、その効果とともに獣害による森づくりの難しさも実感していただけた。

恐竜の化石というやや森林とは異なるテーマも入れたが、同地で伝承されている檜皮葺についての講義も入れたことで、森林に関わる伝統文化・技術についても考えていただく機会にできた。

その他の研修場所等でも、それぞれ自然の仕組みや脅威、生活との関りについて理解を広げ、深めていただけた。

## 3．参加者の声

・森林動物研究センターの講師による講義と現地での施策実施状況の解説は、具体的な事例を材料にしたものでわかりやすく、大変よく理解できた。
・野生獣類と共存する森林造成手法、獣害対策、人と野生動物の共存など、日本のどこでも解決策が模索されていることを聞かせていただき良かった。
・恐竜の発見物語や１億年前の地層を実際に目にし、また日本一低い分水界や木の根橋、鐘ヶ坂の石梁など、地球の太古からのいとなみに関わる、大変スケールの大きいものが対象であり、興味深く研修できた。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 11月30日～12月1日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | 森林に関わる研修 | | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 19人<br>20人<br>39人 | 19人<br>20人<br>39人 | |
| 実　施　場　所 | | 兵庫県　丹波市・丹波篠山市 | | |

# 日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取

日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取実行委員会
〒680-0947　鳥取市湖山町西 2-41-3

## 1．活動の概要

全国から広く参加選手を募り、伐木競技大会を開催、取組を通じて林業の魅力を広く県民にPRし、森林・林業への理解を深めるとともに、林業のイメージアップ、新規就業者の拡大を図ること、また、林業従事者の技術並びに安全意識の向上を目的とし、令和元年11月9日、10日の2日間にわたり開催した。出場選手の約半数が競技初体験の選手たちで、林業事業体で普段働いている方々の他に、林業大学校の学生、林業とは別分野の職業の方々など幅広い職業の選手が参加した。

## 2．活動の成果

林業関係者以外の来場者に対して林業のかっこよさをPRすることができた。
新聞、テレビ等の報道により、多くの県民に対し、林業の良いイメージを伝えることができた。
出場選手の安全作業に対する認識を深めることができた。

## 3．参加者の声

・イメージ向上、安全意識向上に繋がる良い機会となった（参加者）
・エンターテインメントとして一般の家族や子供連れでも楽しむことができた。（来場者）
・かっこよかった。また鳥取で開催してほしい。（来場者）

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 11月9日 | 11月10日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | 日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取の開催 | 別添資料のとおり | | | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 728人<br>193人<br>921人 | 728人<br>193人<br>921人 | 1,456人<br>386人<br>1,842人 | 選手、スタッフ、来場者数の合計 |
| 実　施　場　所 | | 鳥取市福部町湯山 | | | |

# 森林を活用したプレーパーク活動

特定非営利活動法人　隠岐しぜんむら
〒684-0403　島根県隠岐郡海士町大字海士 5328-6

## 1．活動の概要

島の子どもたち全員に自然体験ができることを目指す弊団体が運営する森のようちえん『お山の教室』は、園児以外にも自然体験ができるように、4 回森林でプレーパークをおこなった。

プレーパークとは、子どもが「やってみたい」と思うことを、なるべく何でも実現できるようめざした遊び場である。 木登りやタイヤブランコや工作、焚き火など、自然の中で体を使ったり、モノづくりができる。スタッフが指示をだすのではなく見守り、場を整備することに徹することにより、子どもたちが自然の中で普段できないような思い思いの遊びができる場となった。

## 2．活動の成果

枯れ葉の山に埋もれる乳児から、焚火や木工をする小学生までを対象とし、様々な年齢層がいることで互いを刺激しながら遊んでいた。また、マッチも使ったことがない子も多く、火のつけ方などはもちろん体験したことがない。そういった実体験ができる場所となった。

離島では少子化で来場するのも数組だと考えていたが、多くの家族や子どもたちが来場しニーズがあり、プレーパークを継続しく予定である。

## 3．参加者の声

・外が気持ちよく、自由にやりたいこと好きなことができて楽しかった。
・剣や作りたいものが作れてたのしかった。
・すばらしい企画ありがとうございます。
・土日は約束しないと子ども同士で遊べない環境なので、子ども同士遊べる機会があってうれしい。また普段見ないいろいろな年齢層の子どもたちの様子が見られて楽しかった。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 11 月 9 日 | 11 月 9 日 | 1 月 18 日 | 2 月 15 日 | 5 月 30 日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業量又は事業内容 | | 森林を活用したプレーパーク活動 | 森林を活用したプレーパーク活動 | 森林を活用したプレーパーク活動 | 森林を活用したプレーパーク活動 | プレーパークスタッフ講習会 | | |
| 参加者数 | 県　内 | 65 人 | 23 人 | 45 人 | 47 人 | 11 人 | 191 人 | |
| | 県　外 | 0 人 | 0 人 | 0 人 | 0 人 | 0 人 | 0 人 | |
| | 計 | 65 人 | 23 人 | 45 人 | 47 人 | 11 人 | 191 人 | |
| 実　施　場　所 | | 島根県　隠岐郡　海士町 | | | | | | |

# 森とともにSDGs

特定非営利活動法人　コアラッチ
〒698-0003　島根県益田市乙吉町イ94－8

## 1．活動の概要

会場を森の中に設定し、地元の木を活用してSDGsのお話を交えながら、木でペンダントやストラップを製作するワークショップを実施した。材料には硬さや香りの違う数種類の地元の樹種を揃えて、木に興味を持ってもらえるようにした。形を整える・焼印を押す・木や天然素材の飾りを付ける・紐を通す等の活動も行い、木で創る楽しみも味わった。

## 2．活動の成果

参加者は森の恵みを体感し、木に触れることでSDGsの目標に近づいた。この体験でさらに周りの人たちへも森や木を通して持続可能なSDGsの目標を拡散し“誰一人取り残さない”未来へと近づいていくことに繋がった。

## 3．参加者の声

・とても癒された。
・木によって色や重さ、香りが違うことを体験することができた。
・土に還る天然素材が良かった。長く使いたい。
・緑に囲まれていてもリアルな木にはなかなか触れることができないので貴重な経験をすることができた。子どもも楽しんでいた。
・会場の雰囲気が大変良かった。落ち着く時間をもらいました。SDGsも初めてだったが理解できた。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 7月15日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | 地元の木でペンダント＆ストラップ作り | | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 35人<br>3人<br>38人 | 人<br>人<br>人 | |
| 実　施　場　所 | | 島根県　吉賀市 | | |

# 里山保全の普及啓発事業

NPO 法人　倭文（しとり）の郷
〒709-4623　岡山県津山市桑下 29-1

## 1．活動の概要

津山市を中心とする周辺地域からは、ブランド「美作ヒノキ」が産出される。国内有数の加工工場、また、隣接市では、日本を代表する CLT 企業が躍動し需要が高まっている。一方、里山では若年者の減少、高齢化、森林の荒廃が進行し、有害鳥獣の棲息地と化しその維持管理が困難となってきている。このような状況のなかで、里山の有する恩恵を情報発信するとともに、里山文化の継承や地域の活性化に資するこことを目的として取り組んだ。

## 2．活動の成果

当ファンドの支援を受けて６回目の取り組みとなった当年度は、森林が有する機能についての啓発を中心として実施した。計 13 回（うち 2 回は中止）のイベントを企画して、県内都市部から 141 名が参加した。出前授業「巣箱の製作」を初めて実施、「夕闇昆虫探検」では樹林に棲むカブトムシ、クワガタ等の夜の生物に直接触れることができ、「野鳥観察会」では渡・漂・留鳥についての継続調査、特に、絶滅危惧種のブッポウソウは人工的に架設した巣箱で 3 年目の営巣活動が始まっている。また、植物では半世紀前に生育していたキンランが出現、ササユリ、イチヤクソウなどの林床植物も再生している。「森林教室」等では、原木シイタケ植菌等の作業体験、杉玉＆蔓かご作り。３月から新型コロナウイルス感染防止緊急事態要請に伴い、若干各行事の参加者に影響が生じたが、里山森林空間での行事は「三密」とは無関係の環境にあり、ウイルスの伝播しない環境での暮らしや地域社会づくりの必要性を参加者と共有した。継続した取り組みが期待されている。

## 3．参加者の声

保護者から夕闇の中でのクワガタやカブトムシ観察会は貴重な体験となった。動植物絶滅危惧種の保護活動に感動した。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 7/22、7/27、9/29 | 1/25 3/8 6/21 | 11/23 12/1 | 1/15 | 2/22 | 5/10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業内容 | | 昆虫探検、秋に鳴く虫鑑賞会 | 野鳥観察会 | 森林教室、杉玉＆カズラ篭づくり | 小学校出前講座巣箱製作 | 原木キノコの植菌体験 | 森林ウオーキンク |
| 参加者数 | 県内 | 13 人・16 人・11 人 | 11 人・8 人・6 人 | 30 人・11 人 | 15 人 | 15 人 | 5 人 |
| | 計 | 40 人 | 25 人 | 41 人 | 15 人 | 15 人 | 5 人 |
| 実　施　場　所 | | 岡山県津山市倭文地区 | | | | | |

# 薪作り・炭焼きを通じての五感教育事業

NPO 法人　百華倶楽部
〒739-1103　広島県安芸高田市甲田町下小原 238-2

## 1．活動の概要

・活動の目的：薪作り・炭焼き体験を通じて、森林の整備・資源有効活用及び自然との共生意識を培う（五感教育）

・活動の内容：安芸高田市内の里山環境整備グループが青少年を受け入れ、薪割り・炭焼き体験会を行う。
木育シンポジウの趣旨に沿い親子やボーイスカウトなどに自分の手で森の恵みに直接触れる機会を提供した。

## 2．活動の成果

・成果：森と人々の生活との繋がりについて現地で参加者に伝えることができた。
具体的には、森の恵みのあり様、それを取り出してくる様、それを利用する方法、その結果、人々が幸せになることなどである。

・これからの取組：今まで以上に地域の人々との一体感を高めていきたい。

## 3．参加者の声

・よかった、おもしろかった、楽しかった
・知らなかった、ためになった
・またやりたいと思った

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 月　日 | 月　日 | 月　日 | 月　日 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業量又は事業内容 | 薪割り体験 | 2019年7月7日 | 2019年7月15日 | 2019年8月3日 | 2019年8月10日 | 73 人 |
| | 炭焼き体験 | 2020年1月26日 | | | | 30 人 |
| | 里山研修会 | 2019年7月30日 | 2019年8月27日 | | | 35 人 |
| | 木育シンポ | 2019年11月10日 | | | | 350 人 |
| 参加者数 | 県　内 | 370 人 | 35 人 | 20 人 | 25 人 | 450 人 |
| | 県　外 | 38 人 | 0 人 | | | 38 人 |
| | 計 | 408 人 | 35 人 | 20 人 | 25 人 | 488 人 |
| 実　施　場　所 | | 広島県　安芸高田市・広島市 | | | | |

# 少年少女里山マイスター養成講座

特定非営利活動法人　徳島県森の案内人ネットワーク
〒770-8055　徳島市山城町東浜傍示 5-226

## 1．活動の概要

里山に在る「山人（やまんど）の森」を活動拠点として、森の中での木登りやロープ渡り、秘密基地づくりやネイチャーゲームなどの遊びと、ノコギリやオノ、チェンソーやドリルなどの道具を使っての作業を通して、里山を活用してきた人々の営みや自然を身近に体感して貰い、次代を担う感性豊かな青少年の育成を活動の目的としています。

## 2．活動の成果

活動の成果としては、講座受講後の子ども達の変化が挙げられます。山や自然や植物へ興味を持ち、屋外での遊びの楽しさを知り生き生きとしている子ども達。道具を使った作業で非日常を体験し、知識が増えてたのもしくなった子ども達を、講座に送り出した保護者は感じ取っています。これからも多くの子ども達に活動に参加して貰い、成長を促せるような活動内容に努めて行きたいと思います。

## 3．参加者の声

講座終了後、受講生及び保護者にアンケートを実施致しました。アンケートの回収率は 80%と高く、第１回から第５回の各講座の評価は、５段階評価で「４．４」以上の評価でした。おおむね好評で楽しんで頂けたものと判断しています。また、「これからも森の中で遊びたいと思いますか」との問いに対して、76% の受講生から「遊びたい」との回答がありました。尚、講座の内容とアンケート結果、講座の写真及び感想文などを印刷物（概要版）としてまとめました。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 月　日 | 月　日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量又は事業内容 | 少年少女里山マイスター養成講座 | 令和元年 7 月 1 日～ | 令和 2 年 6 月 30 日 | 5 回 | 講座は令和元年 10 月～令和 2 年 2 月迄の 5 か月間／月 1 回。 |
| ＊令和 2 年 3 月予定の第 6 回は、新型コロナウイルス感染拡大防止対応のため中止としました。 | | | | | |
| 参加者数 | 県　内 | 233 人 | 人 | 233 人 | |
| | 県　外 | 1 人 | 人 | 1 人 | |
| | 計 | 234 人 | 人 | 234 人 | |
| 実　施　場　所 | | 徳島県徳島市入田町 | | | |

# 「とくしま木づかいフェア 2019」の開催

とくしま木づかい県民会議
〒770-8001　徳島県徳島市津田海岸町 5-13

## 1．活動の概要

県民の皆様に木材とふれあう機会を提供し、木材の良さを実感してもらうことを通じて、木づかい意識を一層高めるとともに､利用の拡大を目指し「とくしま木づかいフェア 2019」を開催した。

主な催しは、

①オープニングセレモニー
②木づかいアワード表彰式
③すぎの木ボーリング大会
④すぎの木の玉プール抽選会
⑤すぎ製浮づくりパットゴルフ大会
⑥スタンプラリー抽選会
⑦ＤＩＹ体験
⑧会員等による出展（18 張）
⑨木造住宅普及、耐震相談会
⑩すぎフローリング（６ｍ×８ｍ）での木製遊具にふれあうスペースの提供
⑪親子木工工作教室
⑫木のフリーマーケット（緑の募金）など

## 2．活動の成果

県内外のたくさんのお親子連れに来場いただき、子供も大人もともに木とふれあい楽しんで頂けた。このような普及啓発は継続的に実施することが重要であることから次年度以降も効果のある催しを実施し、木材のファンを増やしていきたい。

## 3．参加者の声

ＤＩＹができるスペースを大幅に拡大し多くの方々に参加いただき好評であった。

木造住宅や耐震に関心を持ちやすいよう展示の工夫や相談会を実施し、環境や人に優しい木の良さ感じていただけた。

親子で、木を使った作品の製作や遊具での遊びなど好評であった。

毎年楽しみにしているとの多くの声も聞かれた。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 10 月 19 日･20 日 | 備　考 |
|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | 「とくしま木づかいフェア 2019」<br>の開催 | |
| 参加者数 | 県内外 | 計 4,925 人 | |
| 実　施　場　所 | | 徳島県板野郡板野町　あすたむらんど徳島 | |

# 地域で育てる緑の少年団～森の学校の開催～

緑の少年団愛媛県連盟
〒790-8570　愛媛県松山市一番町4-4-2

## 1．活動の概要

愛媛県の中央に位置し、緑豊かなえひめ森林公園で緑の少年団交流集会を行い、将来のフォレスター候補を育成する。また、外部講師を招聘して、森林林業と他分野を掛け合わせた個性豊かな学習活動を行うことにより、森林林業について新しい切り口で児童と森林の接点を作るとともに、地域の緑の少年団から講師へのアプローチのきっかけを作る。

## 2．活動の成果（今回の活動で得た成果とこれからの取組などを記述してください。）

県内の緑の少年団の中でも特に活動が活発な２団と、今回が初めての参加になる１団が交流集会に参加し、森林散策や火おこし体験、竹のバウムクーヘンづくりなどの自然体験をするとともに、活動発表を行い、相互理解を深めた。学習活動では、四国EPO（えひめグローバルネットワーク）の黒河由佳氏を講師に招き、ESD、SDGsについて学習し、各団が行っている少年団活動とESDがどのように繋がるのかを知ることで、少年団活動を充実させる機会となった。

(株)武田林業の代表取締役武田惇奨氏外２名による講演・実習「木育×プログラミング教育」では、団員が２人１組となり、協力し合って木工ロボットを製作し、パソコンを使ってプログラミングを行い、ロボットを意図したとおり動かすという作業に熱中して取り組んだ。また、ロボットの４本の足を割り箸から、森林散策で集めた小枝に替えて実験を行うなど、知見を深めた。

さらに、獣害対策担当の県職員から、県内でも鹿による森林被害が深刻であることを学んだ団員たちは、昼食の鹿カレーを食べながら、森でとれたものを、命を無駄にせずおいしくいただくことの大切さを学んだ。今回の交流集会は、今後の森林林業の可能性を感じられる充実した集会となった。

## 3．参加者の声

・火おこし、バウムクーヘンづくり、ロボットプログラミングが特に良かった。
・鹿カレーは、初めて食べたが、くせがなくておいしかった。
・今後の少年団活動にも取り入れたい。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 月　　日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | 地域で育てる緑の少年団～森の学校の開催～ | ８月９日 | | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 34人<br>0人<br>34人 | 人<br>人<br>人 | |
| 実　施　場　所 | | えひめ森林公園（愛媛県伊予市上三谷） | | |

# 森の育ち場　幼児の部　いっぽいっぽ

特定非営利活動法人　森の育ち場
〒803-2075 北九州市小倉南区高野 4-5-17

## 1．活動の概要

幼児の「自主性」「豊かな感性」「自分を大切にする力」を醸成することを主目的とする。

・自然の中で毎日遊び、自然の中の多様性を体験することで自然や生き物を好きになり、大切に思う気持ちを醸成する。
・保護者に対しては子育てが楽しくなるよう働きかける。

## 2．活動の成果

自然を活用した幼児教育の一つの形を世に提示できた。

平日の利用者が極端に少ない市の自然公園の新しい使い方を提案できた。

参加者は毎日自然の中で過ごすことで、自然が日常の一部となり、休日などにも自然に足が向くようになり、活動場所以外にも市内で自然に触れられる場を探し利用するようになり、市内の自然資源の再発掘と活用につながった。

講演会などを通し､私たちのコンセプトをより深く理解していただくことができた。これにより、子育てが楽しくなったといった声をいただいた。

参加者には日常的に自然に触れる機会が増え、身近な自然への興味関心が高まり、自然を大切にする人が増えた。

私たちの活動が知られ、乳幼児の「自然遊び」や「外遊び」の活動を行う団体も増え、自然を子育てに活用する方法を提示できた。

## 3．参加者の声

・毎日子どもが元気に通う姿を見て嬉しい気持ちです。
・橋本さんのワークショップでは我が子の気持ちをちゃんと聴けて無かったことに気づかされました。これからはもっと気持ちを聞きたいです。
・川野先生のお話でまたお産がしたくなりました。
・あんなに虫嫌いだった子が今では毎日虫を捕まえてきます。
・子育てが楽しくなりました。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 7月から6月<br>月曜～金曜 | 7月15日 | 12月19日 | 4月25日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | いっぽいっぽ | 子育て講演会 | 子育てワークショップ | オンラインワークショップ | | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 1,980人<br>人<br>1,980人 | 20人<br>人<br>20人 | 15人<br>人<br>15人 | 10人<br>人<br>10人 | 2,025人<br>人<br>2,205人 | |
| 実　施　場　所 | | 山田緑地、堀越キャンプ場 | | | | | |

# 森林と都市を繋ぐ「新・木造の家」設計コンペ

特定非営利活動法人　森林をつくろう
〒842-0202　佐賀県神埼市脊振町鹿路 585-1

1．活動の概要

木造住宅の提案募集や講演会を通じて、若い学生をはじめ多くの方々に、水土保全機能を有し緑豊かな森林を継承していくためには、林業や木材利用も欠かせないことを理解してもらう

【内容】

〔「新・木造の家」設計コンペ〕

・作品募集
全国の大学などで建築を学ぶ学生を対象に、木造住宅の斬新なアイデアを募集し、優秀作品は実際に施工を前提とするプロジェクトを実施

・講演会
森林づくりや国産木材の利用につながる専門家による講演会を開催

・地域材を活用した住宅の見学
設計コンペに参加した学生が提案した作品をもとに実際に施工した住宅や、伝統的構法を用いた住宅の見学会を開催

〔林業体験事業〕

・希望者を募り、数日間の林業体験事業を開催。資格を有した指導者のもと、下草刈りや伐採の体験のほか、森林所有者との交流会を開催

2．活動の成果

水を蓄え空気を循環させる機能を有する森林を、後世に継承するためにも、森林が適正に手入れされ、木材利用が促進する環境づくりが欠かせない。今回申請した事業では、木造について学ぶ機会の少ない大学等で建築分野に所属する学生に対し、昨年も実施した林業体験や森林に触れる場の提供だけではなく、過年度の設計コンペで提案されたアイデアをもとに施工した住宅や、伝統的構法用いた住宅の見学会を実施することができた。この事業では、木材利用や林業の活性が森林保全にとって重要だということに気づいてもらい、参加した学生が将来、設計活動を通じて、広く一般の方に対し、木材利用の重要性を投げかけてくれると期待している。このことが、森林の手入れを促し、水土保全機能を有する緑豊かな森林形成や山村の活性につながり、都市と山村の人的物的交流を育むのではないかと感じることができた。

3．参加者の声

【設計コンペ・住宅見学会】

・模型まで作られていて、熱心に取り組んでいると感じた。（一般参加者）
・伝統構法で建てられた住宅を見学できたこと、他の学生の発表を聞けたことが勉強になった。（学生）
・講師の話では、伝統的構法と林業の関わりがよく理解できた。

【林業体験】

・加工された木材は見たことがあるが、森林に立っている木と繋がりを感じると、とても感動する。
・林業と建築をつなげる役割を担える設計士になりたい。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 月　日 | 月　日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | 設計コンペ<br>住宅見学会 | 林業体験 | | |
| | | 9 月 21 日<br>10 月 26 日<br>10 月 27 日 | 11 月 30 日 | | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 100 人<br>70 人<br>170 人 | 20 人<br>10 人<br>30 人 | 人<br>人<br>人 | |
| 実　施　場　所 | | 佐賀県神埼市、佐賀県佐賀市、福岡県那珂川市 | | | |

# 森と水を学ぶ面白塾

九州森林インストラクター会
〒860-0071　熊本市池亀町 19-13

## 1．活動の概要

平成 31 年４月から令和２年３月まで毎月１回、12 回のプログラムを計画したが、大雨やコロナウイルスの関係で中止や例会場所変更を行い実施した。（添付　例会実施予定表）

一般市民を募集し、毎月葉書の連絡をして実施した。プログラムの内容は、植物観察、絵手紙、リース作りなど市民に親しみのあるプログラムとし、九州森林管理局監物台樹木園、吉無田高原など交通に便利な場所、安全確保ができる森など、高齢者の参加しやすい場所を選定して実施した。

樹木観察（自然観察）は安全が確保され、登りやすさを考え、特徴のある場所を選び実施した。

参加者には森の楽しさ気持ちよさを体験し、植物の不思議に接し、森を歩きながら森林・林業の大切さを学び、森林浴を楽しみ、参加者の健康増進に資した。

## 2．活動の成果

参加者には高年から熟年も多く、外出が少なくなった人や自宅に引きこもりがちな人も参加され、健康増進に資した。プログラムは９回とも別メニューであったことから、すべて参加した人もいたが、自分のメニューにあうプログラムを選びながら参加された人もいた。趣味の合う人が集まっていることから、例会は和気藹々の雰囲気で進められた。

私たちの継続的な取り組みが評価され、小学校から樹名板作成や、日本森林林業振興会からネイチャースクールの委託を受ける等、活動の成果が上がった。

今後もプログラムの内容を検討しながら、野外と室内のプログラムの調和を保ちつつ市民に親しまれるプログラムを計画し実施したい。

## 3．参加者の声

春植物の観察会では、カタクリの満開の状況が観察され、霧島では杉の大径木、陶芸では自分のコーヒーカップ作成と参加者からは好評であった。陶芸では作ってから、窯で焼くなど後処理が１月かかることから、いつ出来がるかとの問い合わせもあり、４月初めの配布においては、出来上がりに満足し、自分のカップができたと、大変感謝され、大成功であった。

観察会は春植物、高原の植物、紅葉狩りなど多彩で、参加者に喜ばれた。石灰岩の植物では雨の中での観察会、たまには雨の中も楽しいねと、前向きにとらえていただき、参加者に感謝した。

炭焼きは参加者も多く人気のプログラムであったが、７名が集合したものの、大雨のため実施できずやむなく中止とした。残念だ、来年はぜひいい天気恵まれることを祈りつつ散会した。

自然観察は都市近郊林から高山まで植物相が変化に富んだことから、植物の気候による変化や環境による変化に驚きながら、生きている植物の不思議に感嘆されていた。また、観察会においてルーペを利用したことから、植物の繊細な構造や色の多様さに驚かれていた。

ミニ植物図鑑（簡易図鑑）も説明を聞いただけではすぐ忘れてしまうが、観察会が済んだ後も利用ができると好評だった。

実績報告とりまとめ表

| 月日 | 項目 | 場所 | | 参加者（講師含） |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| 4 月 27 日 | 春植物 | 熊本県 | 雁俣山 | 11 名 |
| 5 月 25 日 | 植物観察 | 熊本県 | 吉無田 | 16 名 |
| 6 月 22 日 | 絵手紙 | 熊本県 | 監物台樹木園 | 14 名 |
| 8 月 24 日 | 霧島 | 鹿児島県 | セラピー | 12 名 |
| 9 月 21 日 | 白岩山 | 宮崎県 | 石灰岩の植物 | 12 名 |
| 10 月 26 日 | 高原の草花 | 大分県 | 九重高原 | 13 名 |
| 11 月 16 日 | 紅葉狩り | 熊本県 | 冠嶽 | 8 名 |
| 12 月 7 日 | リースづくり | 熊本県 | 監物台樹木園 | 8 名 |
| 1 月 25 日 | 陶器つくり | 熊本県 | 監物台樹木園 | 21 名 |
| 2 月 22 日 | 炭焼き | 熊本県 | 監物台樹木園 | 7 名 |
| 合計 | | | | 122 名 |

# 森の有難さを知り森林ボランティアを学ぼう

スマイリー
〒892-0847　鹿児島市西千石町 7-22
カーサグランデ 301

## 1．活動の概要

森の各種体験や森林ボランティアの体験など行い、森への興味を深め、森林ボランティアに興味をもってもらうことや森を守ることの大切さなどを子どもたちに知ってもらう為、下記の事業を行う。

①間伐体験・・・竹や木の間伐　②木工細工・・・間伐材を使ったものづくり
③植樹体験・・・櫻・梅などの植樹　④森のアスレテック体験
⑤椎茸収穫＆駒打ち体験

## 2．活動の成果

様々な体験を通じて子ども達は、森がある有難さやその森を守ることの大切さを学ぶことができたと考えている。また、森の不思議さや森の恵を知ることが出来たと考える。子どもたちが森への興味をもつということが 21 世紀の森を守る為には大切なことである。今後も森で遊ぶという活動だけではなく、遊べる森を守っていくというような活動と組み合わせてイベントを行っていきたい。いずれは子ども森林ボランティアを結成していきたいと考えている。

## 3．参加者の声

・森で遊ぶことはあったが森を育てるということは初めての経験であったが大事なことだと気付いた。
・椎茸の駒打ちと収穫を同時に体験できたことは椎茸の不思議な成長の過程を知ることとなった
・今までは街の公園で遊んでいたが自然を利用したアスレテックの方が楽しく面白かった。また、遊びに来たい。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 8 月 24 日 | 9 月 21 日 | 10 月 19 日 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | 間伐体験・・・<br>竹や木の間伐 | 木工細工・・・間伐材を使ったものづくり | 森のアスレテック体験 | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 35 人<br>人<br>31 人 | 32 人<br>人<br>32 人 | 28 人<br>人<br>28 人 | |
| 実　施　場　所 | | 鹿児島県　鹿児島市・旧松元町 | | | |

| 実　施　時　期 | | 1 月 18 日 | 3 月 7 日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | 椎茸収穫＆駒打ち体験 | 植樹体験・・・クヌギの植樹 | | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 30 人<br>人<br>30 人 | 35 人<br>人<br>35 人 | 160 人<br>人<br>160 人 | |
| 実　施　場　所 | | 鹿児島県　鹿児島市・旧松元町 | | | |

# 女性目線の森林体験メニュー事業

特定非営利活動法人　鹿児島ボランティアバンク
〒892-0842　鹿児島市新屋敷町16　公社ビル324

## 1．活動の概要

もともと森に興味のある人だけではなく新たに森に興味をもつ人を掘り起こすことは大事であると考え、女性目線の体験メニューで誰もが参加できる森林体験を実施する。

子どもや女性･障害者･高齢者でも安心して楽しく参加できる体験にする為、観察会やネイチャーゲーム等を取り入れたメニューにし、幅広い層の参加者を募る。同時に活動をサポートできるボランティア等を確保し、安全な体制の基、下記を実施した。

１．野鳥の観察会２．森を散策しながらのネイチャーゲーム３．木を使った物づくり
４．シイタケの収穫

## 2．活動の成果

当日キャンセルを除けばほぼ予定人数に達した為、予定通りの活動を行うことができた。参加者に関しては親子の参加者が多かったが各回、高齢者・障害者も複数名参加していた。女性目線の活動メニューとして誰でも参加できる活動を目指している為、この結果は嬉しく思う。

今後はもっと広報の幅を広げ、より多くの高齢者や障害者が参加して頂けるような告知をしていきたい。また､活動メニューにしてももう少し幅を広げ植樹や川の観察など取り入れていきたい。その為にも安全対策の強化を図ることやボランティアの確保などは今後の課題であると考えている。

## 3．参加者の声

子どもの声

・今まで森で遊ぶことはあっても散策や観察会はやったことがなかったので知らないことをたくさん教えてもらえた。
・木を使った物づくりが楽しかった。作った物を大切にしたい。

高齢者の声

・森の体験は高齢者にとって無縁のものと思っていたが今回参加してみてそうではないことを知った。
・子どもたちと一緒の体験は楽しいものだった。

障害者の声

・このような活動には参加することを躊躇していたが、たくさんのサポートしてくれる人たちがいて安心して参加することができた。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 9月7日 | 10月5日 | 10月27日 | 2月8日 | 計 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業量又は事業内容 | | 野鳥の観察会 | 森を散策しながらのネイチャーゲーム | 木を使った物づくり | シイタケの収穫 | | |
| 参加者数 | 県　内 | 28人 | 31人 | 26人 | 30人 | 115人 | |
| | 県　外 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | |
| | 計 | 28人 | 31人 | 26人 | 30人 | 115人 | |
| 実　施　場　所 | | 鹿児島県鹿児島市・春山町・平川町 | | | | | |

# 森の恵みを実感する体験

特定非営利活動法人　みどりの風かんかん
〒890-0014　鹿児島市草牟田 1-1-2

## 1．活動の概要

森はすべての始まりであり、また森があることでどのような恩恵を受けているのかを体験し、又森の恩恵が私達の生活にどうのように関わっているのかを知る機会として森にある物を使って物作り等を体験してもらう。

## 2．活動の成果

・竹を使った、身近な遊び道具作りが子供達にはとてもお気に入りで楽しそうでした。竹さえあれば工作出来ること、難しくない物だった事、家庭にある物で作れること等も良かったと思います。
・山や森が元気がないと川も影響を受けることを河原清掃と川遊び&生き物観察をとおして、楽しく体験でき、親子ともども満足げでした。
・ミニ門松作りは山にある物と人工のものとのバランスが美しさをより引き立たせていたことが自然と人工物、町との関わりの大切さも体験してもらえたと感じられた。
・椎茸の収穫も少し体験でき、駒うちにも力が入った様子で、収穫できるまでに 2 年もの時間がかかる事にも驚いている様子が興味深いでした。

★今後も自然と山と川や町との関係性を収穫や物作りなどを通して体感し、人も自然の 1 部であることを実感してもらえる活動を続けて行きたいと思っております。そのことで共存共栄を実感して欲しいと思っているからです。

## 3．参加者の声

・水鉄砲やブンブン駒であそんだのが楽しかった。
・初めての川遊びと生き物観察が楽しそうで見ている私も入りたくなりました。来年も是非ご案内ください。
・毎年この時期にかんかんさんのミニ門松作りに参加することで 1 年を無事にすごせたとおもえます。これからも当分参加させてくださいませ。
・初参加でした。子供が難聴で野外の活動は危険と思って参加することをためらいましたが、参加出来て本当に良かったでした。健常者の皆さんとの関わり合いが息子の世界を広げてくれました。来年も是非参加させてください。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 令和元年<br>8 月 11 日 | 令和元年<br>9 月 8 日 | 令和元年<br>12 月 21 日 | 令和 2 年<br>2 月 15 日 | 計 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 参加者数 | 参加者 | 11 人 | 18 人 | 20 人 | 21 人 | 70 人 | |
| | 計 | | | | | 70 人 | |
| 実　施　場　所 | | 鹿児島市郡山町 4215-1　&　常盤の川 | | | | | |

# R元年度　森林ボランティアの日活動　in「蒲生」

鹿児島県森林ボランティア連絡会
〒892-0816　鹿児島市山下町9-15
林業会館4階

## 1．活動の概要

9月第3日曜日の全国一斉「森林ボランティアの日」に因み、森林を守り育てることの大切さを広く周知し、県民一人ひとりがそれぞれの立場で森林づくりに参加する機運を醸成するとともに、森林整備活動に参加することの意義を広く発信するため、県内の森林ボランティア団体が中心となって、一般参加者や地元関係団体と連携して森林整備活動を行い、豊かで多様な森林づくりに取り組んだ。

第17回目の活動となった今回は、姶良市蒲生町住吉池公園にて実施した。当日は、台風の襲来が懸念されたが、運良く天候にも恵まれ予定通り無事開催することができた。森林ボランティア団体ならびに林業関係団体、地元関係者等、総勢260名の協力のもと、また段取り良い作業により、当初予定していた植樹や除伐、下刈作業等の全てを完了することができた。

また、今回は、「令和」の新元号のもと、天皇陛下が御即位された慶事を記念し「令和の森」の造成も行った。記念すべき「令和」の良いスタートとなった。

## 2．活動の成果

現地は姶良市の郊外に位置し、以前から、森林ボランティア団体が森林環境学習や森林整備フィールドとして活用している。今回、手付かずだった場所の除伐のほか、下刈、林内歩道の整備ができ、新たに「令和の森」も誕生した。利便性と安全性が向上し、ボランティア有志による維持管理体制も整っているため、観光面からも今後ますますの利活用が図られるものと期待している。

## 3．参加者の声

・蒲生に「令和の森」が整備され、良かった。今後、大事に見守っていきたい。
・林内の階段を新しく取り換えていただき、安心して散策できるようになり嬉しい。今度、家族も連れてゆっくり訪れたい。
・学生ボランティアとして、初めて森林ボランティア活動に参加したが、森林ボランティアの皆さんのパワーと手際の良さに驚いた。森林を大切に守っていくために、これから自分も少しずつでも関わっていきたいと思った。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 9月21日 | 9月7日～9月20日 | 計 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量又は事業内容 | | 記念植樹（76本），下刈除伐，枝打他（0.67ha）<br>歩道整備：階段116段 | 林内整備や安全対策等準備作業 | | |
| 参加者数 | 県内 | 260人 | 35人 | 295人 | |
| | 県外 | 人 | 人 | 人 | |
| | 計 | 260人 | 35人 | 295人 | |
| 実　施　場　所 | | 鹿児島県 姶良市蒲生町上久徳「住吉池公園」 | | | |

# 母子家庭の親子の森林体験

特定非営利活動法人　ひばり倶楽部
〒892-0833　鹿児島市松原町6-2　松原ハイツ801

## 1．活動の概要

自然体験は、やはり男親が必要である。行きたくても行けない森での楽しい思い出を作ってやることは必要である。今回、子どもたちの森での体験をサポートする。

①森で遊ぼう（３回）　草スキー・ツリーハウス・川遊び
②森で学ぼう（１回）　散策しながら木や植物の名前を覚える。
③森の恵を知ろう（１回）　椎茸の収穫体験

## 2．活動の成果

母子家庭ということもあり危険を伴うような体験（川遊び・ツリーハウスなど）をしたことのない子ども達も多かった。最初は恐る恐る遊んでいた子ども達も時間とともにこちらがハラハラするくらい飛び回っていた。子どもたちが森での楽しい思い出をもつということは親になった時、子どもとともに森に行くという連鎖的な行動にも結び付くと考える。今回のこのような結果や成果を踏まえ、もっと多くのプログラムを準備し、継続的な活動を行っていけるようにしたい。また、母親に対して、森で子どもを遊ばせてやれるようなスキルを身につけるセミナー等も実施していきたいと考えている。

## 3．参加者の声

・今まで危ないものは経験させてもらえなかったが今回は全部参加して楽しかった。
・植物などには興味はなかったが森の散策に参加して興味が生まれた。
・自然体験は、母親だけでは中々経験させてやれないことも多い為、子どもには我慢させることも多かったが今回、色んな体験に参加させてやれてよかった。子どもも喜んでいた。
・自然の中のツリーハウスは公園などの遊具よりとても楽しくまた行きたい。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 8月17日 | 9月7日 | 10月6日 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | 森で遊ぼう<br>草スキー | 森で遊ぼう<br>ツリーハウス | 森で遊ぼう<br>川遊び | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 28人<br>人<br>28人 | 31人<br>人<br>31人 | 29人<br>人<br>29人 | |
| 実　施　場　所 | | 鹿児島県　鹿児島市郡山町 | | | |

| 実　施　時　期 | | 11月3日 | 1月 18日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | 森で学ぼう<br>散策しながら木や植物の名前を覚える | 森の恵を知ろう<br>椎茸の収穫体験 | | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 30人<br>人<br>30人 | 34人<br>人<br>34人 | 152人<br>人<br>152人 | |
| 実　施　場　所 | | 鹿児島県　鹿児島市郡山町 | | | |

# 里山の暮らしから森林を考える体験事業

特定非営利活動法人　もりびと
〒890-0052　鹿児島市上之園町 24-2
川北ビル BOIS 鹿児島 4F

## 1．活動の概要

里山は薪・炭などのエネルギーや建材などの材料や木の実やキノコなどの食料を手に入れると同時に多様な生き物との共生を続けてきた。そんな里山の暮らしを通じて体験する。

## 2．活動の成果

森の大切さを沢山の人に体感していただきました、この取り組みにより森に興味を持っていただき、元気な森の農山村を育てることが出来ればと思っています。今後も森林づくり活動や森林の総合的利用を通じた山村地域の活性化・地域づくりの運動を続けていきたいです。

## 3．参加者の声

森の奥まで入ったことのない子ばっかりだったので、全員が目をキラキラさせて取り組んでくれました。大人たちも、日常生活では体験できないことに感動、感謝していただきました。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 月　日 | 月　日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | ・山野草での物づくり体験<br>・炭焼き体験、窯出し体験<br>・クリスマスリース作り<br>・椎茸づくり体験 | 10 月 12 日<br>10 月 26 日<br>12 月 7 日<br>2 月 8 日 | 11 月 9 日 | 56 人<br>109 人<br>50 人<br>57 人 | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 221 人<br>0 人<br>221 人 | 51 人<br>10 人<br>51 人 | 272 人<br>0 人<br>272 人 | |
| 実　施　場　所 | | 鹿児島県日置市東市来町 | | | |

# 森を身近に感じる体験プログラム

おやゆび姫
〒899-2705　鹿児島市直木町4807-1

## 1．活動の概要

森から受ける恩恵はきれいな空気や水だけではありません。私たちが生活するうえで必要な商品にも竹や木は多く使われています。座学や体験を通じて森の必要性を学びます。

## 2．活動の成果

座学では普段なかなか学校の授業だけは学べないような内容に、興味津々と耳を傾けていたように感じます。体験活動は皆積極的に昔遊びを真剣に楽しんでいたり、各自独創的な作品が出来上がっていたり、森を純粋に感じていたりと、どれだけ森が身近で、自分たちの生活に大きく関わっているのかと改めて考えるきっかけ作りになったと思います。今後も森の必要性を考えるテーマを考え深め続けていきたいかと思います。

## 3．参加者の声

昨年も参加して下さった方が「今年も活動が実施されるかどうか、待ち遠しく楽しみにしていた」とのお声を沢山頂きました。計画する側としては大変有り難いお言葉です。また前回とは違う新しい企画に目を光らせ活動に一生懸命取り組まれる方、家に持ち帰ってもう一度してみようと、メモを取られる方、色々な姿勢・想いで楽しく過ごされる方が多いようでした。「また来年もあったら参加したいな」とのお声掛けも沢山頂いたので、また機会がありましたら新しい企画を作りたいかと思います。

実績報告とりまとめ表

| 実施時期 | | 9月14日 | 10月19日 | 11月23日 |
|---|---|---|---|---|
| 事業量又は事業内容 | | （座学）地球温暖化について<br>（体験）竹ぽっくりづくり | （座学）森林の役割<br>（体験）表札づくり | （座学）カーボンオフセットについて<br>（体験）森の散策 |
| 参加者数 | 県内<br>県外<br>計 | 26人<br>人<br>26人 | 24人<br>人<br>24人 | 21人<br>0人<br>21人 |
| 実施場所 | | 鹿児島県鹿児島市直木町 | | |

| 実施時期 | | 12月28日 | 2月29日 | 計 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量又は事業内容 | | （座学）森・川・海の関係<br>（体験）門松づくり | （座学）森の恵み<br>（体験）シイタケの駒打ち | | |
| 参加者数 | 県内<br>県外<br>計 | 30人<br>人<br>30人 | 29人<br>人<br>29人 | 130人<br>人<br>130人 | |
| 実施場所 | | 鹿児島県鹿児島市直木町 | | | |

# 調　査　研　究

# 幼小連携に役立つ森林体験プログラムに関する調査研究

一般社団法人　全国森林レクリエーション協会
〒112-0004 東京都文京区後楽 1-7-12　林友ビル６階

## １．調査の目的

幼児が小学校の生活に円滑に移行できるように考えられた幼小接続プログラムに、森林での活動を盛り込んだ実践の手法を調査・検討し、森林を活用した幼小連携の手引書を作成する。

具体的には、基本的な生活習慣や集団活動への不適応などから小学校入学当初に集団活動ができない、先生の話が聞けないなどのいわゆる小１プロブレム対策として、接続プログラムが教育委員会等において作成されている。今回は、その接続プログラムの一つとして、幼児と児童が森林において連携して行うプログラムについて、実践を通じてその手法を検討・分析を行い、森林を活用した幼少連携プログラムの手引書を作成する。

## ２．調査の概要

⑴　森林を活用した幼少連携プログラム（異年齢交流）の接続プログラムとしての有効性について検討するとともに、令和２年度から教科書が発行された新しい学習指導要領と森林環境教育との関連性について分析した。

⑵　森林において幼少連携プログラム（異年齢交流）を実践し、幼児と小学校児童のそれぞれの反応、実践手法の検証、課題の抽出を行った。

⑶　森林で活用した幼少連携プログラムに活用できるアクティビティを作成した。

⑷　森林を活用した幼少連携プログラムを実践するときの参考となる手引書として、「森で行う幼児・児童の連携プログラムー森林インストラクターが活動するためにー」を作成し配布した。

## ３．普及教材「森で行う幼児・児童の連携プログラムー森林インストラクターが活動するためにー」の作成

幼児が小学校に入学した際に、落ち着いて席につけない、先生の指示に従えないなどの「小１プロブレム」が問題になっている。教育委員会等においては、円滑な接続に向けたスタートカリキュラムとして接続プログラムを作成している。森での活動は多くの発見や気づきがあることから、森での幼児・児童の異年齢交流を行うことがこれらの問題解決の糸口の一つになるのでないかと調査を行った。森での活動には森林インストラクターを始めとする指導者の活躍が期待され、これらの指導者が教育現場で活動するためには、異年齢交流の基礎知識が必要である。教育現場の視点で分かりやすく手引書として取りまとめた。

教材の内容は次のとおりである。

１　森で行う幼児・児童の連携プログラムとは

２　新学習指導要領と森林環境教育との関連

３　幼少連携プログラム（異年齢交流）の活動事例

⑴　森の宝探し

⑵　森の樹名板設置

４　幼少連携プログラム（異年齢交流）に活用できるアクティビティ

アクティビティとは活動の最小単位で、このアクティビティが集まったものがプログラムと呼ばれるものです。ここでは幼児と児童が異年齢交流する際に効果的なアクティビティを取り上げている。各アクティビティには、幼児と児童の連携活動としての効果、安全対策、準備するもの、進め方がまとめられている。

⑴　森のビンゴゲーム

⑵　森の昆虫採集

(3) この花どーこだ？
(4) 森の探検地
(5) 森の生き物探し
(6) 青竹バームクーヘン
(7) 森の色探し
(8) 自然の絵を鑑賞しよう
(9) どんぐりじゃんけん
(10) 動物の足あと探し

# 林業用苗木の裸苗からコンテナ苗への移行における苗木生産経営の変化と課題の把握
## ―栃木県を事例に―

一般財団法人　林業経済研究所
〒113-0034 東京都文京区湯島 1-12-6
高関ビル 3F

【課題】

わが国の人工林において成熟化が進み、再造林用苗木（以下、苗木）の安定確保が求められ、伐採と造林の一貫作業システムの普及に伴ってコンテナ苗の需要量が高まりを見せている。2018 年度本事業により熊本県では苗木生産のうち出荷工程がボトルネックになっていて、特にコンテナ苗の出荷工程で労働生産性の低いことがわかった。本年度の調査はスギ苗木の全量コンテナ苗移行を目標にする栃木県を事例に、裸苗からの移行における苗木生産経営および造林作業の変化を把握して、コンテナ苗移行に関する課題を抽出する。

【方法】

調査は聞き取り調査、アンケート調査、統計調査、既存文献調査により実施した。聞き取り調査は栃木県庁、栃木県山林種苗緑化樹協同組合（以下、県苗組）、栃木県森林組合連合会（以下、県森連）、粟野森林組合、たかはら森林組合を対象とした。造林作業を担う各森林組合の状況を包括的に把握するためのアンケート調査は県内全森林組合を対象にした。コンテナ苗に関する研究動向を把握するための既存文献調査もあわせて実施した。

【苗木生産、造林に関する先行研究】

2000 年以降の「日本森林学会誌」等を対象に「コンテナ苗」「裸苗」「苗木」をキーワードにして検索したところ 174 編がヒットした。多くが 2010 年代に入ってから公表されており、コンテナ苗の育成試験や活着、成長に関するものが多い。本調査のような労務、流通、政策といった社会科学的視点の知見は 2016 年以降に公表が始まっているなど、自然科学的視点の知見に比べ、蓄積の少ないことが分かった。

【栃木県の森林・林業・苗木生産の概要】

2018 年現在の栃木県の林野面積は 348 千 ha で県土の 54%を占める。所有別内訳は国有林 128 千 ha（37%）、民有林 220 千 ha（63%）である。人工林率は 63%でその 8 割は民有林に存在する。2001 年以降、素材生産量は拡大傾向にある。年間 30 万㎥台であったのが近年では 50 ～ 60 万㎥台となっている。民有林造林面積は 2011 年 216ha から急激に増加して 2018 年は 375ha となるなど、変動幅が大きい。さらに変動幅の大きいのが苗木生産量である。2013 年度 601 千本から 2018 年度 1,203 千本と 5 年間で 2 倍となっている。2 年連続で 1,000 千本を超えた。

【森林組合アンケート調査の結果】

県内の全 11 森林組合に県森連を通じて郵送にて 2020 年 1 月に発送した。2 月～ 5 月に 8 の組合から郵送にて回答を得た（回収率 73%）。質問項目は（1）植栽面積と本数、（2）組合雇用労働者と作業班、（3）作業暦、（4）必要人工、（5）労働力不足感、（6）労働力調達の課題と対策、（7）コンテナ苗への移行に伴う変化の 7 点であり、主な結果は以下の通りである。（1）近年植栽に占めるスギの割合が著しく増加し 2018 年は 7 割であり、スギ植栽の 95%がコンテナ苗であった。（2）森林組合の労働者数・作業班数ともに近年増加傾向にある。植栽に携わった日数とあわせて分析すると、コンテナ苗の方が裸苗よりも効率的に植栽できることが判明した。（3）コンテナ苗移行に伴って作業暦には変化が見られる。新植時期が多様化したため、地拵えと下刈りの時期も多様化している。（4）裸苗とコンテナ苗の植栽現場それぞれ 3 例について面積・必要人工・植栽本数を聞くと、コンテナ苗の植栽密度は裸苗のそれよりも低い傾向にあった。また、必要人工はコンテナ苗の方が低かった。（2）で得られたコンテナ苗の植栽効率の高さがここでも判明した。（5）労働力不足感は高く、特に造林事業でその傾向は顕著である。（6）皆伐の増加によっ

て造林作業が増加していること、機械化が難しいことから労働力調達に多くの課題が見出されている。(7) 森林所有者のために苗木を植栽、育成する立場として森林組合はコンテナ苗の活着率や成長率の悪さなどを指摘する声が、コンテナ苗の移行に伴った意見として多かった。

【森林組合聞き取り調査の結果】

ここでは県庁、県苗組、県森連、各森林組合での聞き取り調査結果をまとめる。(1) コンテナ苗移行の経緯について。2014 年 2 月の大雪による雪害や近年の皆伐推進があって苗木需要が増し、コンテナ苗生産を本格化させた。コンテナ苗は、工程として生産期間が短く、必要となる畑が半分程度というメリットがあり、需要拡大に応えることができると見込まれたのである。県苗組による安定供給が前提にあったため、この時に県外からの移入は選択肢にはなかった。このようにコンテナ苗生産は栃木県と県苗組との連携により推進されてきた。しかし、雪害という気象害を受けて現場の植栽試験をしないままに、植栽技術もよく分からない中で本格的な導入が図られることとなった面がある。(2) 苗木生産業について。1960 年代後半には 140 名ほどあっが、近年は 30 名となっている。このうちスギ・ヒノキの苗木を手がける組合員は 20 名で、うち後継者のある者が 7 名となっている。種苗登録研修会の研修生は増えているものの、組合員の後継者や後継予備軍がほとんどで、実質的新規参入はほぼ見られないため、今後苗木需要が拡大した場合、苗木供給が追いつかない恐れが大きい。労務面では、家族のみもしくは家族とパート従業員数名で回している。労働の季節変動があるため、通年雇用することは難しい。コンテナ苗生産により、残苗を考えなくて済むようになったことがメリットとして挙げられる一方で、デメリットとしては家を空けられなくなったことがある。コンテナ苗生産に伴い労働強度は低下したが、水の管理が毎日必要となっている。

【コンテナ苗への移行の課題】

コンテナ苗への移行により植栽の効率が向上し、必要労働量が減少したが、必要労働量の減少に関する各森林組合からの言及がなく、定量的な数値として現場には浸透していない恐れがある。このような中で課題は 3 つ挙げられる。向上した効率を定量的に把握して、特に不足感の大きい造林事業における今後の労働力調達・配置計画に活かしていくことが第一の課題である。植栽効率の向上が現場に意識されてないのは、作業暦で見たように、地拵え・植栽・下刈りの期間が拡大して、トータルとして造林作業労働量に変化がないためとも考えられる。植栽時期を問わないコンテナ苗の植栽作業は予定変更がなされやすくなって、見通しを立てづらくなっていることも考えられる。効率が向上する一方で、作業量や作業予定の不確実性が増えるという負担に直面していると考えられ、これら負担軽減が第二の課題である。裸苗とコンテナ苗は価格や活着度を含め、完全に代替できるものではなく、お互いの欠点を補完し合うものである。選択肢が複数あることは一般的に望ましいため、移行の、特に負の影響を長期的に検討してくことが第三の課題である。

# 竹材のエネルギーの社会的枠組み構築に関する調査

一般社団法人　協同総合研究所
〒170-0013 東京都豊島区東池袋 1-44-3

## １　背景・目的

エネルギー革命以後の山林放置によって里山の荒廃が叫ばれる中、その重要な問題の一つに竹林の拡大がある。竹林は密生し里山の生態系を成す下層植生の生育を阻むほか、根茎が浅く土壌固定ができないため、特に斜面崩壊などの災害をもたらすことがわかっている。

そのため、竹林の利用を促進する（粉砕しチップ化及びパウダー化、竹炭等）ことで竹林拡大を解決する方法が様々に考えられているが、多くは竹ボイラーの技術開発などのハード面に偏っている。しかしながら地域に分散して存在する竹林を継続的・持続的に利用しつづけるためには、竹の伐採・搬送といった供給と、竹を実際に利用する需要までの一連のチェーンを地域内で構築する必要がある。

そこで、竹バイオマスを熱利用した淡路島の動きと、里山整備と竹の利用を考えた広島県の竹の駅あきたかたを調べ、社会・経済・技術的な様々な分野の知恵を総合的に組み合わせて、地域の竹資源から地域の社会経済を支えるしくみづくりについて追究することを目的とした。

## ２　調査日程

（１）兵庫県洲本市および淡路市の調査

- 2020 年 1 月 22 日　兵庫県洲本市　ウェルネスパーク五色　訪問（付属温浴施設「ゆーゆーファイブ」に大型竹ボイラーが導入）
- 聞き取り調査、設備見学
- 2020 年 1 月 23 日　兵庫県淡路市　杉本林業株式会社　訪問（住民による竹材収集に主導的な役割をもつ団体）
- 聞き取り調査、竹材加工工場見学、重機による竹材採取現場見学

（２）広島県安芸高田市の竹利用活動講習会

- 2020 年 3 月 13 日　兵庫県豊岡市にて、竹の駅あきたかたにおける竹利用と住民活動に関わる講習会と議論

## ３　調査方法

本研究はフィージビリティスタディに類するものであり、個別の要素の技術･社会的評価ではなく、それが組み合わさった全体のシステムとして社会・経済・環境に整合し回転・稼働しうるのかどうか、およびその原因や理由を明らかにすることを目的としている。そのため、手法としてはすでに先駆的に竹エネルギーに対して地域の活動として取り組んでいる事例を調査し、評価することが必要となる。

本研究ではそのような先駆的地域として（１）兵庫県洲本市および淡路市、（２）広島県安芸高田市を調査した。（１）の兵庫県洲本市および淡路市では竹チップボイラーによる地域エネルギー循環を 2015 年から「あわじ竹資源エネルギー化５か年計画」として取り組んだ実績があり、燃焼によるエネルギー化の技術的な知見があるほか、その竹を地域活動と連携して供給するしくみによって試みており、本研究対象地として極めて整合的である。（２）の広島県安芸高田市は、より地域活動における竹利用の部分にフォーカスがあたっており、エネルギーだけでなく様々な竹材の利用用途を模索しつつ、「竹の駅」の実現を目指している地域である。なお、安芸高田市については本研究の結果の利用を想定している兵庫県豊岡市における住民に対する竹利用の学習と啓発活動に絡め、豊岡市における竹利用講習会の開催と、豊岡市における竹材利用に関する議論を行うことをもって調査活動とした。

本報告書では第２章が（１）の兵庫県洲本市および淡路市の調査、第３章が（２）の広島県安芸

高田市の調査から得られた知見を示している。そして第４章において兵庫県豊岡市の竹材の潜在的利用可能量と空間分布を示し、第５章において考察する。

## ４　調査結果

兵庫県洲本市および淡路市における聞き取り調査と現地見分から、少なくとも大規模な洗練されたボイラーの利用においては技術が確立されておらず、その収集についても経済的に持続可能な形がまだ作られていないことがわかった。ただし、多くの既往の文献やメディア報道によって指摘される「クリンカ」の問題は、ボイラーの温度管理などによって、すでに技術的に克服されていることは驚きであり発見であった。

一方で現地で多く指摘されたのは塩素の問題であり、塩素が金属を強く腐食するために様々な故障がおきたり、ボイラー自体へのダメージが顕在化してきていることであった。一番障害となった煙突については資材の検討など試行錯誤の可能性があるものの、ボイラー本体へのダメージが如何ともし難く、実用化までには様々な研究が必要となるだろう。淡路市における竹チップ製作を担う工場では、水につけることで塩素が大きく減少することなどを発見しているが、このような前処理を行うと現状でも厳しいコストの問題が完全にペイしなくなり、経済的には持続的ではないと指摘されていた。

しかしながらクリンカ問題に見られるように竹のバイオマス利用の技術は明らかに進歩してきており、調査中に多く指摘された塩素の問題が広く周知されるようになれば、その技術開発も進むと期待される。ボイラー側・材側の試行錯誤の蓄積とその情報の流通が鍵となるだろう。

竹の駅あきたかたは住民運動・活動を基礎とし、法定通貨ベースの経済を超えた、住民のやりがいや役割感、自然体験や健康づくりといった様々な面を包含した協同的取り組みであった。エネルギーについても、ある程度の経済性は考慮しつつも、どちらかというと「くらし」の側に竹材エネルギー活用を埋め込む取り組みで、現地で取れた竹材をそのまま現地の小型ボイラーに使うなど、小規模ではあるもののバイオマス自体が分散していることをうまく利用した形を模索していた。

そして多様な取り組みの中で多様な試行錯誤が行われた結果「食」への利用が急速に拡大していることは、本研究がエネルギー利用への検討を目指していることがあっても、無視できない。食への利用がある程度経済性があるだけでなく、関わる人たちの関心を集めやすく、作業も行いやすく、そしてそこから楽しさや充実感を得やすいという様々な要因があるからこそ行われているものであり、エネルギー革命以来の自然環境の放棄の根本的課題である「自然への無関心」にアプローチできるからである。

実際、3/13 に豊岡市で行われた学習会では、豊岡市内外からメンマづくりに挑戦しようという方が来ていた。例えば竹野町三原の地元の集落で「三原ワークスさんとぴあ」を結成している方は、どぶろくなどを廃校で作っている方だが、竹野では昔から竹を使った料理があると聞き再現している。その他、竹野コミュニティ（地域運営委員会的なもの）、出石町の中華料理、地域おこし協力隊、移住促進関係の方が参加し、但馬での関心も高いことが伺われた。一方で竹林整備を行っている団体もいることが把握できたため、今後はそこをつなぐような組織作り、すなわち豊岡版竹の駅づくりも大きな効果が期待できるだろう。

このような今後の取り組みが模索される中、地理情報システムを用いた豊岡市における竹材供給は、搬出可能な道路から竹林パッチの最近接点が 5m 以内の材の取得が容易なものだけを取り出しても 17,000 トン（乾燥重量 / 年）あることが推定され、たとえば本調査で実際に見分した洲本市の大規模なバイオマスボイラー（定格出力 250 ～ 300kW）でも、竹チップ年間消費量は 140 ～ 180t と見積もられており、改めて地域に賦存する潜在的なバイオマスエネルギーは膨大であることが確認された。未来の地域で循環するエネルギーと物資のフローを描きつつ、竹材エネルギー技術開発・住民の組織化の両輪を、今できることから回し始めることが必要であると結論する。

# 中学生から大学生まで連携して学校林を活用するための現地予備調査

慶應義塾　普通部 谷口真也
〒223-0062　横浜市港北区日吉本町 1-45-1

学校法人慶應義塾の所有する学校林を中学生から大学生が学年・学校を超えて連携し、森林教育に活用するための事前の現地調査をおこなった。調査は下記の表にまとめた。

調査内容は下記の６点である。

１．９月２日～９月４日　宮城県南三陸町戸倉にある「慶應義塾志津川山林」および南三陸町における野外活動施設等を調査した。

２．10 月７日～ 10 月８日 北海道札幌市にある「札幌南高等学校学校林」の活動を調査。

３．12 月 20 日～ 22 日 三重県尾鷲市にある「慶應義塾学校林尾鷲の森」、「速水林業大田賀山林」、多気郡大台町にある「慶應義塾学校林三重県志木の森深山」、度会郡大紀町にある「慶應義塾学校林三重県志木の森里山」および尾鷲市、大紀町における野外活動施設や松阪市の三重エネウッド松阪木質バイオマス発電所等を調査した。

４．令和２年１月 12 日～１月 13 日 北海道教育大学旭川校にて日本生物教育学会第 104 回全国大会で成果をポスター発表した。

５．令和２年１月下旬 慶應義塾普通部中学３年生に学校林について授業をした。

６．令和２年６月から慶應義塾普通部中学２年生に学校林のある南三陸町産の杉材を使った技術・理科共同のプロジェクトを開始した。

１～５の研究から南三陸・尾鷲・大台町・大紀町における学校林において交通費はかかるが道路からのアクセスもよく、また野外活動施設も多数あるため中学生から大学生まで連携して学校林を活用し、各地域と連携することによって森林教育を深めることができることがわかった。また授業で教員が現地の調査を使い、それをもとに授業をおこなった。さらに学校林付近の材木を使用し授業に活用することによって、遠方にある学校林を身近に感じることができる。これらは日本における義務教育中の科学・歴史を含んだ包括的森林教育のモデルケースとなりうる。

６．は調査途中で新型コロナウイルス感染症流行のため、その他の現地調査が不可能となったため急遽、学校林のある南三陸産の杉材を普段の授業に活用し、現地にいかなくても、遠方の学校林を身近に感じるようなプロジェクトを立ち上げた。また南三陸町は町全体で FSC 認証を受けているため今後、教育で必要とされる SDGs 教育の先駆けとなることも期待できる。

表　慶應義塾学校林（所有林）と札幌南高等学校林の調査結果　普通部 谷口真也 2020年2月17日作成

| | 調査日 協力者 | 面積(ha) | 標高(m) | 平均斜度(°) | 主な樹木 | 宿舎から学校林までの時間 | 生徒・学生の受入れ | 新横浜からの公共交通による所要時間 | 往復交通費 | みどころ | 近隣の観光地 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 志津川山林 | 2019年<br>9月2日（火）～4日（木）<br>南三陸森林組合<br>株式会社佐久 | 64.34 | 210-470 | 15 | 人工林のスギが主<br>標高320mから山頂まで主にコナラでクリがまざる二次林となる | 車で約20分 | 本学大学生や大学教員による活動 | 約5時間40分（乗り換え時間含む） | 25,940円 | 釣瓶山山頂からの志津川湾の景色 | 南三陸さんさん商店街・荒島・震災復興 | |
| 三重尾鷲の森 | 2019年<br>12月20日（金）<br>森林組合おわせ | 4.78 | 70-260 | 40 | 人工林のヒノキが主　ヤマザクラ等 | 車で約20分 | 近隣の速水林業大田賀山林では多くの学生の見学あり | 約4時間20分（乗り換え時間含む） | 29,940円 | 海岸九鬼湾からの急斜面とシダの繁茂 | 三重県立熊野古道センター・熊野古道馬越峠・銚子川 | |
| 志木の森深山 | 2019年<br>12月21日（土）<br>吉田本家山林部 | 0.83 | 170-260 | 20 | 人工林のヒノキ | 車で約15分 | 本学志木高等学校による活動 | 約4時間（乗り換え時間含む） | 26,940円 | 志木高生が植えたヒノキの成長 | ウッドピア松阪・エネウッド松阪木質バイオマス発電所 | |
| 志木の森里山 | 2019年<br>12月21日（土）<br>吉田本家山林部 | 2.96 | 150-180 | 10°未満 | 二次林が中心 クヌギ、カシ、ヤマザクラ、ケヤキ、スギ、ヒノキ 等 | 車で約15分 | 本学志木高等学校による活動 | 約4時間（乗り換え時間含む） | 26,940円 | 志木高生の植物名標等の活動 | 瀧原宮・語らいの里嶺野のキャンプ場・伊勢神宮 | |
| 石川尾口の森 | 2019年<br>7月24日（水） | 0.59 | 未調査 | 未調査 | 未調査 | 未調査 | 未調査 | 約5時間（乗り換え時間含む） | 33,000円 | 手取湖 | 金沢・福井県立恐竜博物館 | |
| 和歌山清水の森 | 2018年<br>8月7日（火）～10日（木）<br>マルカ林業 | 4.68 | 350 - 600 | 40 | 人工林のスギが主・ヒノキ・モミ・ヤマザクラ等 | 車で約20分<br>車道から渡河する必要 | 近隣に<br>京都大学フィールド科学教育研究センター和歌山研究林 | 約6時間40分（乗り換え時間含む） | 33,920円 | 険しい山地における林業見学 | 高野山・竜神温泉 | 昨年度調査 |
| 岡山落合の森 | 2018年<br>9月3日（月）～5日（水）<br>服部興業山林部 | 2.55 | 510 - 530 | 10°未満 | 二次林が主　クヌギ・コナラ・アカマツ・カラマツ等 | 車で約20分 | 服部興業山林部で岡山大学と共同でブリティッシュコロンビア大学学生受入れ | 約5時間30分（乗り換え時間含む） | 34,980円 | バイオマスツアー | 蒜山高原・勝山城下町 | 昨年度調査 |
| 札幌南高等学校林 | 2019年<br>10月8日（火）<br>一般財団法人<br>北海道札幌南高等学校林 | 122.05 | 130-170 | 10°未満 | 人工林のカラマツが主　ウダイカンバ、トチ、クリ、ミズナ、コナラ、トドマツ等 | 札幌駅から車で約30分 | 年一回の高校生の活動やOBによる活動 | 約4時間（乗り換え時間含む） | 45,000円<br>旅客機使用 | 北海道の植生と高校生の森林活動 | 白旗山ノルディックスキーコース・さっぽろ羊ヶ丘展望台 | |

# 阿賀町三川地域における天然スギの樹幹解析を通じた森の成り立ちや森の構造の調査研究

特定非営利活動法人　小山の森の木の学校
〒959-4011　新潟県阿賀町沢字幸地蔵 1344-4

要　約

新潟県阿賀町綱木地区にある台杉状天然スギを樹幹解析し、地域住民から過去の森林の利用に関する聞き取り調査を行った。その結果、主幹の喪失が台の肥大成長に大きな影響を与えていること、立条枝間にも競争があることが示された。台杉状天然スギの台の部分から太い材を採れる可能性があるが、良質の材を取るために、将来枯損する可能性の大きい立条枝は枝打ちされていたかもしれない。

## 1. はじめに

新潟県阿賀町旧三川村北部にある綱木、中ノ沢地区には京都北山の台杉に樹形が似た天然スギの巨木が残存している。この台杉状天然スギは主幹の喪失後の立条更新によって成立する。しかし、これまで台杉状天然スギの成長経過を報告した例は見られない。そこで本調査では、台杉状天然スギを樹幹解析することにより、天然スギが台杉化する際の成長過程を明らかにし、台杉状天然スギと住民による取り扱いとの関係を考えた。

## 2. 対象地と方法

本調査は新潟県阿賀町綱木にあるに天然スギが点在するスギ人工林を対象地とし、この林分内にある比較的小さい台杉状天然スギ１本を樹幹解析した。

対象木を伐倒後、台の部分からは高さ 0.15m と立条枝によるふくらみの影響の少ない高さ 1.13 m の 2 カ所から円板を採取した。これらの円板をそれぞれ D0、D1 と呼ぶ。また、1.13 m より上で立条枝の根元より下の高さ 2.13 m までの台と立条枝の接続部から円板 3 枚を採取した。この天然スギには 4 本の生きている立条枝があり、3 本の枯れた立条枝の根元部分が残っていた。生きている立条枝には山側から時計回に番号 1 から 4 までを振った。立条枝はできるだけ下で曲がりが少ない箇所を基準（0m）とし、基準高を測定後、基準高から 0m と 1m、その上は 2m 間隔で円板を採取した。梢端までの距離が 3m 以下になったところで、1m 間隔で円板を採取した。

円板 D0、D1 および立条枝の円板に関しては、スキャナでスキャンした画像から年輪幅を計測し、成長量を求めた。接続部の円板に関しては、両面をデジカメで撮影し、必要に応じて年輪数を数えた。

## 3. 結果と考察

### 3 － 1. 聞き取り調査

綱木地域では昭和 40（1965）年頃までは炭焼きが主要な現金収入減であった。そのため、炭を生産するのに必要な広葉樹を定期的に伐採していた。天然スギは広葉樹林内に点在する形で生存していた。

樹幹解析木を採取し林分はもともと広葉樹の中にスギが点在する天然林で、昭和 53（1978）年に広葉樹が伐採され、スギが植栽された。その後、雪で折れた立木の伐採以外の伐採は行われていない。スギの植栽以前には 15 ～ 25 年の周期で炭焼き用に広葉樹を皆伐していた。

### 3 － 2. 樹幹解析

(1) 樹齢および主幹喪失年の推定

円板 D0 の年輪数は 152 で、中心の年輪は 1868 年に形成されたものである。実際の樹齢は 152 年に 0.15cm に到達する年数を加えたものであるが、以下対象木の樹齢を 152 年として扱う。台および接続部分の円板の年輪から、主幹は 1909 年、42 年生時、樹高が 5.4m になった際に 2.13m より上で積雪によって折れたと推察された。

(2) 台の肥大成長

主幹が折れた 42 年生頃から円板 D0 の直径が急増した。円板 D1 の直径成長量は最初から大きく、主幹喪失後もほぼ一定で推移し、円板 D0 にかなり遅れて増加した（図 1)。広葉樹が伐採され、スギが植栽された昭和 53（1978）年、樹齢 111 年生の頃、円板 D0 の直径成長量が再び増加に転じ、円板 D1 の断面積成長量もそれに連れて増加した（図 1)。

主幹喪失後、台の肥大成長が促進され、特に根元に近い部分の成長に早く影響が表れることが示された。したがって、主幹を伐採された台杉状天然スギでは台が肥大成長し、台の部分から太い材を採取できる可能性がある。

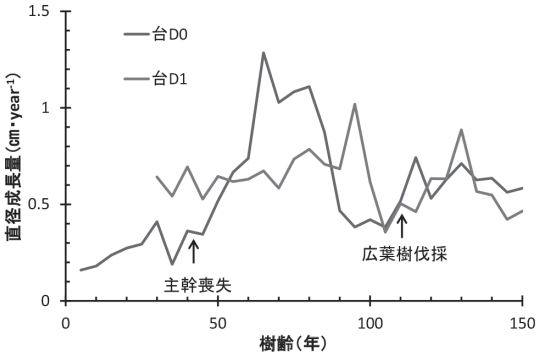


図 1　5 年間ごとの直径定期平均成長量

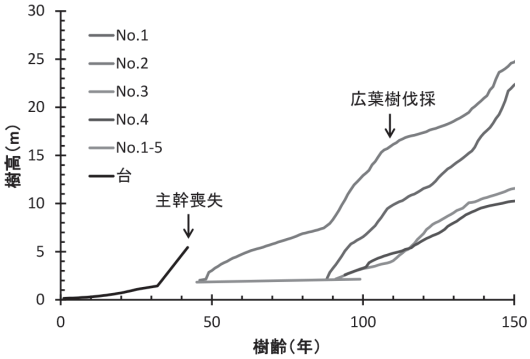


図 2　樹高総成長量

(3) 立条枝の発生と成長

立条枝は外形的には枯損したものを含めて 7 本あったが、樹幹解析の結果、立条枝 1 と融合したもの（図 2 の No.1-5）も 1 本見られ、小さいものを除いて過去 8 本あった。立条枝 1 と 2 は優勢、立条枝 3 と 4 は劣勢であった（図 2)。枯損した立条枝は 1.13 から 1.43m の間から、立条枝 3 と 4 はそれぞれ約 1.43m、約 1.53m から、立条枝 1 と 2 は 1.83 から 2.03m の間から、それぞれ発生しており、優勢なものほど高い位置から発生していた。

枯れた立条枝の跡は腐れを生じていたが、立条枝が枯損することは台の部分の腐れを引き起こす原因となる。台の部分から太い良質の材を取るためには、このような立条枝の枯損は避ける必要がある。そのため、人為的に頭木更新を行っていた台杉状天然スギでは、将来枯損する可能性の大きい立条枝は枝打ちされていたかもしれない。

# 森林環境教育におけるインタープリター（環境教育指導者）トレーニングに関する研究

公益財団法人キープ協会／都留文科大学　増田直広
〒408-0031　山梨県北杜市長坂町小荒間 540

## 1. 研究概要

### 1-1. 研究目的

幼児や青少年を対象とする森林環境教育におけるインタープリター（環境教育指導者）の役割やトレーニングのあり方について、実践者や研究者への調査を通して検証する。

### 1-2. 期待される成果

(1) 幼児を対象とした森林環境教育が促進される
(2) インタープリターの役割やトレーニング方法が明確になる

### 1-3. 調査方法

(1) 文献研究（2019 年７月～ 2020 年８月）
(2) 現地調査（2019 年 11 月）
(3) 研究会（2020 年１月～ 2021 年８月）
(4) 関連学会・フォーラム参加（2019 年８月、12 月、2020 年５月、８月）
(5) まとめ（2020 年８～ 10 月）

## 2. まとめ

### 2-1. インタープリターの役割や望ましい関わり方

(1) インタープリターの役割

インタープリテーションの定義として最も知られているものは、『Interpreting Our Heritage』(1957) の中でフリーマン・ティルデンが述べた「単なる事実や情報の伝達ではなく、直接体験や教材を活用して、事実や事象の背後にある意味や相互の関係を解き明かすことを目的とする教育活動」である。この定義から、インタープリターが一方的に教授する指導者ではないことが見えてくる。

インタープリテーション発祥の地であるアメリカの国立公園では、インタープリテーションを「参加者それぞれが、資源に内在する意味や重要性との間に、知的、感情的なつながりをつくる機会を創出するための触媒」と定義している。その定義に基づいて、「テーマに基づくインタープリテーション」（メッセージを伝えるインタープリテーション）を行ってきたが、今回の研究では「参加者中心のインタープリテーション」（インタープリターと参加者との対話で意味づくりするインタープリテーション）が行われていることを確認した（後者のスタイルは以前から日本で行われている参加者主体型インタープリテーションに近いものと考えられる）。このことから、インタープリターの役割には①メッセージを伝えること、②対話を通して意味づくりをしていくこと、があると言えるだろう。

(2) 体験学習法

インタープリターの参加者への望ましい関わり方やインタープリターとしてのあり方を考える際に示唆を与えてくれるのが体験学習法である。元々は、人間関係トレーニング（ラボラトリートレーニングとも呼ばれる）の分野で「ラボラトリー方式による体験学習」と呼ばれているものが、環境教育やインタープリテーションの分野では、「体験学習法」と紹介されている。体験に基づく学びであることや、「今・ここ」で起こっていることを通して学ぶことに特徴がある。

インタープリターとして学ぶべき視点の１つとして、プロセス（関係的過程）に光を当てることが

挙げられる。２つめが体験学習法の循環過程である。
(3) 持続可能な地域づくりへの貢献
持続可能な社会実現につながる教育であるインタープリテーションは、年齢や障がいの有無を問わず誰もが体験できるものでなくてはならない。そのためには、特別な配慮を必要とする参加者の理解とその支援方法を知る必要がある。
１クラスに２～３人いると想定されている発達障がいの参加者へのインタープリテーションにもより配慮が必要となるだろう。また、視覚障がいや聴覚障がいを持つ人へのインタープリテーションもより推進させていかなければならない。特別な配慮を必要とする参加者へのインタープリテーションは、SDGs の「誰１人取り残さない」という考えにつながることからより拡大していかなくてはならないと言えるが、それ以上にそのような参加者と一緒に過ごすことは、健常者にとっても豊かな時間となることを忘れてはならない。そのためにも技術以上に一緒に過ごそうという気持ちが大切である。

2-2. インタープリター・トレーニングのあり方
(1) アメリカにおけるインタープリテーション
アメリカ国立公園局が作成しているのが、コンピテンシーである。前述のインタープリテーションの定義に基づいてインタープリターとしての能力をコンピテンシーとして整理することで、スタイルが変わってもインタープリター・トレーニングが実施できていると思われる。
アメリカ国立公園局がインタープリター・トレーニングにおいて優れているのは、インタープリターのためのポータルサイトを開設していることである。コモン・ラーニング・ポータルと呼ばれるサイトでは、インタープリテーション実践について盛んに意見交換されている。このようなポータルサイトを日本でも開設できれば、インタープリター・トレーニングにとっても有効と考える。
(2) 対象者別のインタープリター・トレーニング
インタープリター・トレーニングは、対象毎に設定されることが望ましい。
①インタープリテーションを主な業務としている対象者
インタープリテーションを生業としている自然学校や環境教育関連施設においては、インタープリテーションの定義やコンピテンシーを整理ことから始め、インタープリター・トレーニングのためのカリキュラムを作成したい。インタープリテーションに必要な資源の理解などの座学も必要となるが、やはりオン・ザ・ジョブ・トレ ーニングが柱となるだろう。条件が整えば、スーパーバイザーを配置できると良いだろう。施設や団体内に配置できなくても、定期的に指導を受けることができるスーパーバイザーと契約する方法もあるだろう。
②インタープリテーションを主務業務に導入したい対象者
保育の現場や学校教育でもインタープリテーションは活用されているが、日々の業務の中で研修などのトレーニングの機会を設けることは難しい状況である。そのような現場において有効なのは、外部指導者による指導の機会を設けることである。外部指導者によるインタープリテーションを見ることで、必要な知識や技術、教材などを学ぶことできる。また、第三者的に外部指導者と園児との関係を観察することを通して、日々の実践をふりかえる機会ともなる。普段活用している園庭や校庭、近くの公園などをインタープリターなどの外部指導者と下見することも有効である。短い時間であっても、専門家と実際の地域資源を確認できるのは保育者や教員にとっては有益な研修となる。
勿論、条件が整えばインタープリテーションに関する研修を受けることも効果的である。集合型の研修を受けるだけでなく、この１年で普及したオンラインを活用した研修に参加することや動画教材を閲覧することも有効であろう。オンラインにより定期的に情報交換をしていくこともフォローアップとなる。
(3) 社会課題に対応したインタープリター・トレーニング
新型コロナウイルス感染症によって、体験をベースにしているインタープリテーションは大きく影響を受けている。インタープリテーションには、インタープリターが直接指導するパーソナル・インタープリテーションと展示や教材などを通したノンパーソナル・インタープリテーションとがあ

るが、対面が制限される中で前者の機会は減り、ハンズオン展示（触れる展示）をベースにしている環境教育関連施設等も大きな制限を受けている。その中で、インタープリテーションの手法やインタープリター・トレーニングのあり方も見直しをする必要も出ている。

また、地球温暖化も地球が向き合う最も大きな課題と言える。この課題に対して、インタープリテーションがどのように貢献できるか、そのための人材をどのように育成するかも検討することが急がれる。この２つだけでなく、SDGs の 17 目標に対してインタープリテーションは貢献することが求められるだろう。常に社会課題に目を向け、その課題に対応するインタープリターを育てていくことが重要である。

# 森林環境教育プログラムの開発に係る調査研究（第３年度）

公益社団法人　島根県緑化推進委員会
〒690-0886　島根県松江市母衣町 55
島根県林業会館内

## 1　目　的

島根県内の小中学校に「森林環境教育」が授業の一環として取り入れられ、「緑の少年団」の結団に結びつくよう、啓発活動や啓発資料作成を行う。また、幼児期における森林環境教育の推進に向けた検討を行う。

## 2　実施内容

### （1）森林等を活用した体験活動の充実に向けた調査研究

「緑の少年団」未結成校に対し、体験型の森林環境教育である「出前講座」の試行事業を継続実施したが、実施した５校中４校で緑の少年団が結成された。

また、緑の少年団の「出前講座」要望数が 48 団となり、過去最高となった。

既設の「森林等を活用した ESD の推進に向けた検討会」において、その評価検討を行い、今後の取組方向等について調査研究を行った。

ア　検討会の開催状況

①開催回数　１回

②調査研究内容

・「出前講座試行事業」についての評価検討

・「出前講座」の実施による緑の少年団活動の充実に向けた検討

③検討結果

・「出前講座試行事業」については､一定の成果があったことから終了し､今後は「出前講座」の一層の充実に努めることとする。

・緑の少年団校に対し、「出前講座」活用に向けた啓発に取り組む。

・緑の少年団未結成校に対する「出前講座」の PR 等により、新たな結成につなげる取り組みを継続して行う。

イ　出前講座試行事業の実施

・緑の少年団未結成校５校への出前講座の試行を実施し、４校が新規結成となった。

### （2）幼児期における森林環境教育の推進に向けた調査研究

近年、幼児期における森林等の自然環境を活用した教育や保育の実践事例が増加していることから、小中学校における緑の少年団活動につながるような幼児期での森林環境教育の実施に向け、「幼児期における森林環境教育の推進に向けた検討会」を設置し、調査研究を行った。

ア　検討会の開催状況

①開催回数　２回

②調査研究内容

・幼稚園、保育園等の教職員に対する環境教育啓発のための研修会開催の検討

・県内での幼児期における森林環境教育の推進方策

③検討結果

・幼稚園、保育園等の周辺の森林や園庭等の整備による教育環境づくりの検討が必要

・幼稚園、保育園に対するリスクマネージメント研修や出前講座の実施の検討が必要

イ　幼児期における森林や園庭を活用した環境教育研修会の開催

①開催日時　令和２年１月 24 日

②実施内容

・長野県池田町竹内延彦教育長の講演、松江市立雑賀幼稚園山口修司園長及びエピオネイチャーガイドオフィス池田友紀代表の事例発表で構成した。
・森林環境教育に関心の高い園からの参加者が多く、アンケート調査によれば、現在行っている保育教育と同じ方向性であり共感できた等の肯定的な意見が多かった

## 4　今後の取組方向

（1）森林等を活用した焼酎が校での体験活動の充実に向けた検討

平成 30 年度に作成した「出前講座」パンフレットを活用し、体験型の森林環境教育である「出前講座」の活用について緑の少年団校へ働きかけるとともに、未結成校への森林環境教育の必要性についての啓発を進める。

（2）幼児期における森林環境教育の推進に向けた検討

幼稚園、保育園職員向けの研修会開催に向け、県教育委員会、健康福祉部等との連携を進める。

また、幼稚園、保育園での森林環境教育の実施に向け、園内外の環境整備や園教職員や園児向けの出前講座の実施等の検討を進める。

# 活動基盤整備

# 森でコミュニケーションしよう「里山再生プロジェクト」

学校法人　尚絅学院
〒981-1295　宮城県名取市ゆりが丘 4-10-1

## 1．活動の概要

学校法人尚絅学院はキャンパス周囲の山を地域社会全員の公共財とし、約 20 万㎡の森を 5 区画（A ～ E ゾーン）に分け、5 年周期で恒常的に整備し、「尚絅の森」として再生させるプロジェクトを 2016 年 4 月に立ち上げました。里山化し、地域社会の人々が日常的にそこに立ち入ることによって、自然を身体と心で体験しながら、「自然との共生」の素晴らしさを感じ、地域社会が豊かなものになることを目的としています。

現在、「森でコミュニケーションしよう」を活動コンセプトに、NPO や市民ボランティア、地域住民、学生・生徒や教職員など、参加者のみなさまと共にアイデアや意見を話し合い、森づくりを通した参加者同士の交流・コミュニケーションを大事にしながら、毎月第 2 土曜日の定例活動（A ～ E ゾーンの森林整備、広場づくりなど）を行っています。

## 2．活動の成果

今回の助成金では主に安全な整備活動の実施に向けたアドバイザー費用および保険費用、講演会の開催などで活用させていただきました。森林整備事業では、年間計 11 回の活動を開催し合計 148 名の参加者がありましたが、新型コロナウィルスの影響で活動回数が減り、一部作業の積み残しが生じました。調査研究事業では、D ～ E ゾーンにおいて、炭素固定量を計測するための測定機器を設置し、調査を開始しました。今後長期にわたりデータの収集・分析を行い、里山整備が動植物に与える影響や、森林微気象への影響を学術的な視点で調査研究していきます。SDGs ワークショップ事業では、SDGs の目標 15「陸の豊かさも守ろう」の視点から、「里山の恵みを未来につなぐ」をテーマに公開講演会を開催しました。市民や学生など約 100 名が来場し、各現場にて研究・活動されている登壇者による取組紹介やディスカッションを行い、森づくりの可能性を探りました。

＜これからの取り組み＞

2020 年で本プロジェクトの 5 か年計画の最終年度となります。これまでの成果と課題を整理しつつ、これからの「尚絅の森」の将来像をステークホルダーとともに考え、2021 ～ 2025 年までのプロジェクトのビジョンブック・MAP（完成予想図）、ジオラマ等の作成を検討し、次の 5 年につなげていきたいと思います。

## 3．参加者の声

・鳥・虫・植物・獣の案内人、ツアー等で森に一般市民が入る機会を増やしてほしい。
・散策して、管理された森と管理されていない森との比較をしてみて、里山づくりの必要性を感じました。
・森林を整備し、持続的に利用するために必要な基本的スキルに関する実習（例えば、チェーンソーを用いた間伐方法など）を実施してほしい

実績報告とりまとめ表（2019 年 7 月～ 2020 年 6 月）

| 実施時期 | | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業内容 | 整備活動① | 15 | — | 15 | — | 17 | 17 | — | 17 | — | — | — | 19 | 100 人 |
| | 整備活動② | — | — | 10 | 10 | 8 | 8 | — | — | — | — | — | 12 | 48 人 |
| | 勉強会<br>報告会 | — | — | — | — | — | — | — | 102 | 6 | — | — | — | 108 人 |
| | 体験会 | — | 45 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 45 人 |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | 301 人 |
| 実施場所 | | 宮城県名取市ゆりが丘 | | | | | | | | | | | | |

# 大学生と留学生を対象とした森林環境教育プログラム

特定非営利活動法人　Peace Field Japan
〒101-0051　東京都千代田区神田神保町 1-40
豊明ビル 301

## 1．活動の概要

11 月 16-17 日の二日間、山梨県小菅村において、日本人と日本に留学している大学生を対象に、森林保全活動をすることで森林を含む里山地域の文化や課題にふれ、森林の価値を学び、森林や里山地域の環境保護へ向けて行動するきっかけとする体験活動を行なった。

１日目は、ガイドツアーの形で集落を歩き、里山の暮らしが周囲の森林と密接につながっていることや課題に直面している状況を実際に見た後、サツマイモの収穫体験を行なった。また、日本の森林の現状と森林保全のあり方､里山地域の価値や課題についての講義を行った。森林の定義、機能、役割、保全の必要性、また、森林のある里山地域の文化的意義、過疎化への取り組みなど、日本の森林や中山間地についての知識を得た。

２日目は、森林の除伐作業を行い、森林の手入れの大変さと、作業前後の写真を比較することで、作業の成果を実感できた。森には大切な役割があるにも関わらず、維持していくことの難しさとのジレンマを感じた参加者も多かった。また、地域の環境と密接にかかわっている地元の伝統食ほうとう作りを体験した。ほうとうに使われた野菜が、森の落ち葉を利用した堆肥で育てられたものであること、しいたけは森の木を使って栽培され、多種のきのこも森で採ってきたものであることなど、里山の森の恵みのありがたさを感じることができた。さらに、間伐材を使い、箸作りを体験し、間伐材を利用することが森を守ることにつながることを学んだ。

最後に、二日間の体験から学んだことのキーワードを発表し、その学びを今後にどう活かしていきたいか共有した。

## 2．活動の成果

シェアリングにおける参加者からの発表では、ほとんどの参加者から、「森の役割の重要性について理解を深めた」、「維持する作業の大変さを実感した」、「森の状態は、下流域の都市部にも大きく影響することであり、都市に住む自分たちも自分のこととしてとらえなければいけないことに気づいた」、「知ってはいたが、体験したことで実感を伴って理解できた」など、実際に体験したからこそのリアル感を持って、最近の日本の森林の状況と課題について考え、意識を変えるきっかけとなった。

また、留学生たちから、各国での森林や地域社会の現状や課題について共有してもらい、特定の地域だけの問題ではなく、世界共通の問題であると認識した。森林がある中山間地の過疎化と森林の維持管理の課題のつながりに気づき、地域の活性化の取り組みが、逆に自然や受け継いできたコミュニティの破壊につながるのではとの指摘も出され、様々なジレンマを超えて、どのような政策、取り組みが必要なのかについても話しあわれた。体験をベースにしたプログラムではあるが、その体験をもとに、現実を踏まえての議論が、日本のみならず各国の状況、視点からもできたことは有意義であった。

参加者の一部が所属する大学では、フィールドワークのプログラムの一つとして、学生や留学生に本プログラムの案内をしてくれており、評価が高まっている。森林保全活動のボランティアに関心を持った参加者もおり、ボランティアの受け入れ先などを早速探している学生もいる。

**国内外の若い世代が､里山の暮らしや森にふれ､森とのつながりを感じ､持続可能な社会をイメージしながら、次につながる機会を提供することができたのは、大きな成果だったといえる。**

## 3．参加者の声

・自分が実際に森の手入れをする作業を体験することができ、小菅村の森や水源は自分が生活して

いる東京とつながっているから、小菅の水源林の維持、また、東京都民が良い水を確保できることに少しでも貢献できたのではないかと思う。
・この小菅村は東京とは全然違った。実際に森に行って森林の手入れをする作業は大変だったが、楽しみながらできた。
・学校で環境について学んだこともあるが、森林を実際に手入れするという、教科書には載っていないリアルな経験ができたことは、またとない機会だった。これからも忘れないと思う。
・2 日間で様々な経験ができ、森や里山の暮らしについて学ぶことができた。特に都会にはない森や自然のエネルギーを感じた。こういった自然の中でこそ、人は豊かに暮らせるのではないかと思った。
・里山の森の生態系はとても素晴らしいと思った。村の方々が、その森を守ることに労力をかけ、また、森から大量の葉をとってきて堆肥にし、自分たちの食べる野菜を自分たちの手で育てていることに感動した。教科書で教わる「ecology」の大切さに実感を持てなかったが、日本の里山の「ecology」は心から素晴らしいと思えた。
・健全な森が減ってきているからこそ、森や自然がどれだけわたしたちに恩恵をもたらしてくれているかを改めて知ることができてよかった。また、同時に私たちが森を守ることがどれくらい難しいのかを知ることができた。
・小菅村の方々の農業の知識や、森林を管理する知識は素晴らしいと思った。それと同時に、私たちのように、この村を訪れる人が、最新の技術知識を村の方々とシェアすることができれば、将来的にとてもよいものになると思う。
・小菅村の中で自然を感じることができた。小菅村で培われてきた知恵や技を、自分たちが暮らす都市で活かしていくことに興味を持った。
・森の管理作業は大変だったが、その結果、自然と調和し、暮らしていくことができるのは素晴らしいと思った。
・人と自然が協調し、共に暮らしていくことは可能だということを知った。小菅村の人たちは自分の手で森を守り、野菜を育てているのがすごいと思った。それにもかかわらず、この村も人口が減少している。自分の出身の村も同じような問題を抱えているので、自分たちの将来のことを考えるよい機会になった。
・日本に来て、コンビニでのプラスチック容器や包装の多さに、持続可能性が意識されていないことにショックを受けた。しかし、この村には信じられないほど素晴らしい持続可能な暮らしがあり、日本の都会と全く違う暮らしがあることがわかった。
・森の手入れをする作業は初めての体験だったが、森と人とのつながりや、なぜ森の手入れが必要なのかを理解することができたし、将来のために森を守る活動をしていかなければならないと感じた。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 11 月 16 日 | 11 月 17 日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | 集落オリエンテーリング<br>森林・里山講座 | 森林保全活動<br>郷土料理作り体験<br>間伐材を使った箸作り体験 | | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 人<br>34 人<br>人 | 人<br>34 人<br>人 | 人<br>人<br>人 | |
| 実　施　場　所 | | 山梨県小菅村 | | | |

# 「子ども樹木博士」実施団体の拡大・ネットワーク化の推進

子ども樹木博士認定活動推進協議会
〒112-0004　東京都文京区後楽 1-7-12
林友ビル 6 階
（一社）全国森林レクリエーション協会内

## 1　活動の概要

子ども樹木博士認定活動の実施団体の拡大等により「子ども樹木博士」活動の一層の推進を図るため、本活動の実施状況や実施団体のデータの取りまとめ、教材や認定証等の配布・提供、機関誌の発行・配布、インストラクターの紹介、ホームページの更新等を行った。

## 2　活動の状況・成果

(1) 子ども樹木博士認定活動の実施状況

実施団体からの報告から、延べの実施回数・参加者数は30回・約9百人、地域ごとでは12都道府県、20団体による実施となっている。

(2) 認定証等の配布・インストラクターの紹介等

平成12年度以降に実施報告のあった団体等は、累計で45都道府県・337団体となっている。

(3) 認定証等の配布・インストラクターの紹介等

認定証や樹木ガイド、その他の参考資料を配付するとともに、インストラクターの紹介等を行った。（認定証の配布：約1,005枚、樹木ガイドの配布：197冊）

(4) 機関誌の発行・配布、ホームページの充実等

機関誌「子ども樹木博士ニュース」を年４回（9/1・12/1・3/1・6/1）発行（１回当たり約850～900部）し、会員や実施団体、都道府県、森林管理局・署、関係団体等に配布するとともに、ホームページの更新等を行った。

(5) 新たな実施団体の掘り起こし

ホームページや情報誌「子ども樹木博士ニュース」などを通じて照会のあった団体や資料請求のあった団体等に対して、冊子「認定活動の進め方」、パンフレット「子ども樹木博士のすすめ」などを配布し、実施団体の拡大に努めた。

# 「森から学ぶ」森林を活用した環境教育（森林 ESD）の推進

公益財団法人 Save Earth Foundation
〒144-0043　東京都大田区羽田 1-1-3

## 1．活動の概要

当法人（SEF）が長野県東御市と保全協定を結んでいる市有林「東御の森」（渓畔林 / 里山）の自然環境を活用し、市民を対象とする森林 ESD 推進を目的とした森林環境イベントを実施した。森でおこなう自然観察会および東御市中央公民館で実施する講座を開催、森の自然を感じたり、森林の機能について考える機会を提供した。生き物と森の環境とのつながり、生物多様性と森林機能の関係への理解を促すようこころがけ、子ども達もともに楽しめるようにプログラムを工夫した。

## 2．活動の成果

令和元年東日本台風による実施場所（長野県東御市）の被災、新型コロナウイルス感染の影響により、当初計画どおりに活動することが困難だった。しかし、協力団体等との連携や実施形態の工夫により、最後まであきらめずに取り組むことができた。東御市内は台風で大きな被害が発生したが、その後に開催した交流会では、森林の機能に対する市民の関心が高くなっていることが感じられた。また新型コロナウイルス感染に関連して、「新しい生活様式」への対応を工夫した経験を、今後の活動に活かしていきたい。

## 3．参加者の声

・子色々な視点で自然や森の様子がわかり、楽しいです。
・暮らしのすぐそばで自然の営みが繰り広げられていることを、改めて感じた。
・森の生物多様性をベースにして鳥や昆虫の話を聞き、森の必要性について改めて考えさせられた。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 10 月 20 日 | 2 月 20 日 | 3 月 1 日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業内容 | | 観察会 | 講座 | 講座 | | 5 月（または 6 月中）に観察会を準備していたが、新型コロナ感染により、情報提供主体の代替企画を実施した。 |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 15 人<br>0 人<br>15 人 | 27 人<br>0 人<br>27 人 | 16 人<br>0 人<br>16 人 | 58 人<br>0 人<br>58 人 | |
| 実　施　場　所 | | 長野県東御市［東御の森東御市中央公民館］ | | | | |

# 学生と地域住民の両方を対象とした総合的な環境学習・ESD のフィールドとしての「ソフィアの森」の整備及び森林資源の活用の学びの場の創設

上智大学大学院　地球環境研究科
〒102-8554　東京都千代田区紀尾井町 7-1

## 1．活動の概要

2020 年 4 月から区域が 20 ヘクタール余りに拡大されたことから、引き続いて、自然生態系の観察、生物多様性の増進活動、森林体験活動など森と関わる様々な活動や教育研究の基地とするための整備を図った。

## 2．活動の成果

コロナ禍のため、出張や学生の引率が行えない状況が続いたことから、ソーシャルディスタンスなどに留意しつつ、限定的な活動を実施した。具体的には、追加区域の歩道整備、地元の専門家による昆虫調査・植物調査・定点カメラによる動物のモニタリング調査、上智大学学術研究特別費の支援のもとでの一般市民（地元の昆虫クラブのこども達を含む）を招いた散策実験などを実施した。

## 3．参加者の声

散策実験に参加した軽井沢町在住の地域住民から、家の近くにこのような素晴らしい森があったのかという声が聞かれ、地元の昆虫グラブのこども達など多くの参加者から是非また参加したいという声が聞かれた。また、QR コードによる植物の解説版などを設置したことに理解に役立ったという声が聞かれた。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 10 月 25 日 | 11 月 15 日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業内容<br>又は<br>作業内容 | | 地元の昆虫クラブのこども達、地元の一般市民が参加した森の散策実験 | 地元の昆虫クラブのこども達、地元の一般市民、県外からの一般市民が参加した森の散策実験 | | これ以外にもソフィアの森において散策実験の準備や QR コードの設置などの活動を行なった。 |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 24 人<br>2 人<br>26 人 | 20 人<br>20 人<br>40 人 | 40 人<br>22 人<br>62 人 | |
| 実　施　場　所 | | 長野県軽井沢町（浅間山国有林） | | | |

# 能登半島の中山間地域における地域住民と交流住民との連携による活性化

早稲田大学　地域・地域間研究機構
〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15

## 1．活動の概要

過疎化・少子高齢化が進む能登町当目（とうめ）地区を対象に、地域資源である林産物・農産物の生産・販売を通して地域の『安心』獲得を目指し、そのモデル化・横展開を目的とした。モデル化にあたっては、地域の住民組織である「当目夢を語る会」を主体として活動を展開し、早稲田大学森林環境科学研究室は住民会議のファシリテータとして、さらに交流人口として地域に関わる方向性を模索した。

## 2．活動の成果

当目地区の住民組織である「当目夢を語る会」を中核とし、地区内の二次林及び農地（主に水田）の管理システムを強化した。薪ボイラーの導入を検討すると同時に、燃料の安定供給のため、当目夢を語る会の冬期間の作業として薪生産を組み込み、高齢者から若年層までが連携する二次林管理・薪生産のシステムを強化した。また、地区出身者や交流人口を交えての「当目ネットワーク」の構築を進めた。ソーシャルメディアを介して地区活動に参加する交流人口が約 200 人に達し、社会関係資本のうち人的ネットワークが強化されたことから、地域生活におけるレジリエンスの向上につながった。その他、一連の成果はエコプロ展 2019 で発表を行った。

## 3．参加者の声

交流人口との関わりは、地区に新たな人的資源を導入することとなり、地域の伝統的生態学的知見の復活・伝承・活性化にもつながった。以上から、とくに高齢者からモデル構築と面的展開への期待が高まった。

実績報告とりまとめ表

| 実施時期 | | 7月20日<br>及び21日 | 8月29日～9月6日 | 12月5日～7日 | 計 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業量又は<br>事業内容 | | 森林保全の主体組織の強化 | 当目ネットワークの強化 | エコプロ 2019 に出展・発表 | | |
| 参加者数 | 県内 | 10 人 | 57 人 | 12 人 | 79 人 | なし |
| | 県外 | 9 人 | 35 人 | 25 人 | 69 人 | |
| | 計 | 19 人 | 92 人 | 37 人 | 148 人 | |
| 実施場所 | | 新潟県小千谷市・十日町市 | 石川県能登町 | 東京都江東区 | | |

# 安全で楽しい森林づくり活動を指導できるリーダー養成事業

モリダス
〒194-0211 東京都町田市相原町 930-2

## 1．活動の概要

安全で楽しい森林づくり活動を推進するため、現場リーダーの人材養成を図った。特に本事業では、森づくり安全技術・技能全国推進協議会（FLC）のランク２（手道具）相当の研修・審査会を実施しながら、汎用性のある人材養成プログラムの開発に努めた。つまり、(1)「安全管理のためのコミュニケーション」を基礎にして、(2)「手道具の使い方」については、step1 の「手道具の安全な使い方」の審査を通過した人が、step2 として「折れ曲がり線とツル作り」の講習へと進む流れを作った。

新型コロナウィルス感染拡大の影響を受け、3 月下旬以降の事業については、予定していた内容を変更するとともに一部の事業を中止した。手道具の使い方（FLC ランク 2step2）の審査会、動力機械（刈払機、チェーンソー）の講習会、横浜 ・多摩地域の団体情報交換会を中止した。代わりに 3/23 に、(安全衛生教育に対応する動力機械の講習会の運営に関する情報交換会を開催した。なお、(3)「安全に木を伐倒するための知識と技術（FLC ランク３ ：動力機械)」については、FLC が全額負担することになったので、当団体から助成金を支出していない。

## 2．活動の成果

本事業の各講習会には、ほぼ当初計画通りの参加者数を集めることができた。また、全体的に参加者からは高い評価を得ることができた。安全で楽しい森林づくりを進めようとする現場リーダーの動機付けが高まり､受講者が活動しているフィールドに良い影響を与えたと思われる。一方、新型コロナウィルス感染拡大の影響から、横浜・多庫地域の団体のネットワーク化は計画通りには進められなかった。

## 3．参加者の声

(1) のアンケート結果では「とても良かった」(5 段階で最高)が 11/11 と非常に評価が高かった。(2) では「手道具の扱いには慣れているつもりだったが、悪い癖が付いていたので見直すことできた」､(3) では｢安全を確保するための方法をよく考え､熱く指導してくださった｣などの声があった。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 9月22日-23日 | 10月20日,27日<br>3月20日-21日 | 1月9日-11日<br>20日-21日 | 3月23日 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | (I) 安全管理のためのコミュニケーション | (2) 手工具の使い方＝FLC ランク 2<br>step1 ：手工具の安全な使い方<br>step2 ：折れ曲がり線とツル作り | (3) 安全に木を伐倒するための知識と技術=FLC ランク 3<br>学科・目立て | 動力機械を扱う講習会運営の情報交換会 | ※ (2) の参加者数は、左が step1、右が step2 の人数である。 |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 8 人<br>8 人<br>16 人 | 5 人/ 8 人<br>4 人/ 2 人<br>9 人/ 10 人 | 2 人/ 1 人<br>7 人/ 6 人<br>9 人/ 7 人 | 2 人<br>6 人<br>8 人 | 25 人<br>27 人<br>52 人 |
| 実　施　場　所 | | 神奈川県横浜市 | | | | |

# 森のようちえんボランティアリーダー養成講座

のいちご会
〒391-0211 茅野市湖東3675

## 1．活動の概要

・目的　幼児を対象にした自然体験を支える担い手の養成講座を行うことで地域に森のようちえん活動が根づいていってほしい。幼児のうちから自然体験をたくさんし、心身ともに健康な子どもたちが育つことにつながるようにしたい。

・内容　自然環境への意識は、体験し実感を伴ってこそ育まれる。そのための手法のひとつが森のようちえんであると私たちは考えている。
森林へのお散歩、野外での食の体験、季節の変化を五感で感じること、またそれらの活動の土台となるリスクマネジメントを全６回の講座で学び、森のようちえんボランティアリーダーの養成を行う。

## 2．活動の成果

・「森のようちえんに興味がある、関わりたい」「森林を生かしたい」「育児に生かしたい」「自然環境や野生動物に興味がある」などさまざまな視点を持つ方々に養成講座に参加いただいた。大人が実際に自然の中で遊び、五感を働かせて過ごすことで楽しさや驚き、気づきなど得る機会になった。自然の中では思いがけないところに危険があるので、リスクマネジメントを洗い出し、対策を講ずることを当たり前にしていきたい。

## 3．参加者の声

・子どもたちと自然をつなぐ役をしたいと考えていたので今回講座に参加してよかった。

・ボランティアリーダーとなり今後、子どもたちの活動を見守るときに講座で学んだ仲間と学び続けながら子どもも自然環境も守りながら未来に向かっていきたい。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 10月12日 | 11月6日 | 12月7日 | 2月8日 | 2月22日 | 3月20日 | 計 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | 講座１ | 講座２ | 講座３ | 講座４ | 講座５ | 講座６ | 6 | |
| 参加者数 | 県内<br>県外<br>計 | 13人<br>0人<br>人 | 13人<br>0人 | 13人<br>0人 | 13人<br>0人 | 13人<br>0人 | 13人<br>0人 | のべ<br>78人 | |
| 実　施　場　所 | | 茅野市公民館 | 茅野市青少年自然の森 | ゆいわーく茅野 | 八ヶ岳自然文化園 | ゆいわーく茅野 | フィールド | 県<br>市・町 | |

# 「緑と水の森林ファンド」

TNG繋
〒403-0003　富士吉田市大明見 4-3-10

## 1．活動の概要

植樹イベントに付きましては、感染症予防の為一般からの公募は取り止めました、コロナには十分配慮して、作業の前後には手の消毒を行いました、植樹作業は杓子山愛好会と有志の皆さんの御協力を頂き実施しました。植樹場所は杓子山山系の一角にあります、平山グランド周辺に桜を５０本、山側の傾斜地に、モミジを５０本植樹しました。管理者の富士吉田市の許可を得て、実行することが出来ました。グラウンドですので、土が固く穴を掘るのに、手間と労力を要しましたが、無事植樹を済ませました。現在ほとんどの苗が元気にそだっております。

## 2．活動の成果

少子化でグラウンドの使用が激減しており、近い将来グラウンドの利用が無くなるのではと危惧しておりました、高台で眺望も素晴らしい事もあり、数年後には桜を楽しみに住民が訪れる事を期待して、この企画を立てました、桜の種類も早咲きを選び、地元で最も早く咲き、話題になることを期待しております。また里山に隣接しており、森林の魅力を体験し感動して下さればと思います。当地、富士吉田の杓子山は、富士山の眺望が素晴らしく、森林との組み合わせで、登山者が年々増加しており、海外からの観光客にも好評を頂いております、今後も植林や林道整備で魅力アップを図り、地域の活性化を図って行く所存です。今回助成を頂き、誠に有り難うございます、なお一層有意義に使わせて頂きます。

## 3．参加者の声

・助成で地域の活性化と住民同士のコミュニケーションが図られて素晴らしい事業です。
・数年後の桜を思い浮かべると楽しみです、来年も参加させて頂きます。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 月　日 | 月　日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | 植樹<br><br>植樹、追肥 | 5 月 10 日<br><br>5 月 17 日 | | 1 日<br><br>1 日 | ２日にわたり実施 |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 15 人<br>人<br>人 | 6 人<br>人<br>人 | 21 人<br>人<br>人 | ２日間 |
| 実　施　場　所 | | 山梨県富士吉田市・大明見地区杓子山山系平山グラウンド周辺 | | | |

# 妙法寺の宝“自教園”リニューアルプロジェクト

妙法寺ふれあいのまちづくり協議会
〒654-0121　神戸市須磨区妙法寺字桜ノ界地 106-11

## 1．活動の概要

＜目的＞

学校と地域の宝である「自然教育園」（学校林）を新しい時代に応じた形で整備し、子供たちや地域の方々がさらに愛着を持ち、活用できるようにする。

＜概要＞

①樹木のはたらきについて学び、自然教育園の木々（学校林）に興味を持つ。
②主となる樹木を年間を通して定期的に観察を続ける。
③枝や切り株、木の実や落ち葉などについては、各学年における学習の中で活用する。

## 2．活動の成果

①森林環境教育の効果

自然教育園の活用プログラムについて、昨年度の見直しをもとに、積極的に活用することができた。年間を通して樹木の観察を続け、記録等をまとめた取組、デーキャンプを実施して森林の中で活動した取組等も深めることができ、今まで気付いていなかった学校林の魅力を再発見するきっかけとなった。

上級生が下級生のために裏山を案内する活動も、本校が築いてきた自然教育を継承していく上で、効果的であったと思われる。また、それぞれの活動において、保護者や地域の方々の協力及び外部講師の方による助言を得ることができ、学校林（自然教育園）を守り続けていく気概が高まった。費用面においても、学校林の整備や児童の体験活動等に有意義に活用することができた。

学校林の活用や維持管理についての道筋は、本事業の推進により、明らかになってきた。次年度は、今年度の取組をさらに充実させ、より魅力のある自然教育園にしていきたい。

②児童・生徒の反応など

各学年における活動を充実させたことで、自然教育園へ足を運ぶ機会も増え、年間を通して樹木等を観察したり、学習に積極的に活用したりすることができた。また、他校との実践交流を行ったことにより、自然教育園の魅力を再発見し、自分たちの手で大切にしていこうとする活動も多く見られるようになった。学校の中で「子供たちが一番行きたい場所」として、人気が復活してきたことも取組の効果である。

## 3．参加者の声

○季節ごとの樹木や生き物の様子がよく分かった。
○飯盒炊爨を通して、火起こしや米を炊くことの難しさを知ることができ、また次年度の自然学校につなげることができるので良かった。
○自然教育園を散策する中で、新たな自然の発見ができた

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 7 月 11 日 | 9 月 10 日 | 7 月 1 日<br>10 月 24 日<br>1 月 15 日 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | 自然教育園のパンフレット作り | 自然教育園の虫や植物の観察 | 樹木の経過観察 | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 153 人<br>人<br>153 人 | 74 人<br>人<br>74 人 | 85 人<br>人<br>85 人 | |
| 実　施　場　所 | | 兵庫県　　神戸市 | | | |

| 実　施　時　期 | | 10 月 17 日<br>10 月 18 日 | 12 月 13 日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | デーキャンプの実施 | 自然教育園を活用した商品作り | | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 177 人<br>人<br>177 人 | 125 人<br>人<br>125 人 | 614 人<br>人<br>614 人 | |
| 実　施　場　所 | | 兵庫県　　神戸市 | | | |

# 世界遺産の吉野山で森林環境整備活動

奈良県森林ボランティア連絡協議会
〒634-0033　橿原市城殿町459
（公財）奈良県緑化推進協会内

## 1．活動の概要

人工林で枝打ち、間伐、搬出作業を林業者の指導を受けて森林整備作業を学ぶ。また、間伐材利活用として間伐材を利用したベンチ作りを行う。

また、吉野林業について山守さんから、吉野の山桜について山桜の管理・保存活動をされている団体代表から講演を聴く等、森林ボランティアリーダーの養成を図る。

## 2．活動の成果

・桧人工林にて、プロ林業作業者の指導を受けて間伐（選木、伐倒、枝払い、造材、搬出）作業を安全に行う技術を習得した。
・チェーンソーのメンテナンス方法、特に大事な目立ての要領を習得した。
・桧人工林において良質な木材生産に大事な枝払いを学習した。
・有名な吉野の山桜の歴史、それを長年管理、保存されてきた努力、特に捕植用の原種苗を種取りから育苗する仕方を学んだ。
・吉野林業の歴史や、特徴である生産方法、山守制度等について学んだ。
・間伐材の利活用方法の１つとしてベンチ作りを体験した。

## 3．参加者の声

・チェーンソーによる伐倒をプロの指導で教えていただいて、今後の活動の役に立つ。(60台男)
・チェーンソーの目立ての要領が解かり研修に参加して良かった。(60台男性)
・ベンチ作りではコーススレッド打ちには手こずったが、完成品には満足。(70台男性)
・プロの素早い木登りによる枝打ちには感心した。(20台男性)
・吉野の山桜の管理、保存の苦労が解かり、機会があれば施肥作業等に協力したい。(70台男性)
・ボランティア活動の森林作業における安全性確保の大切さを学んだ。(40台男性)
・新型コロナウイルス影響で交流会が中止になったのは残念。(60台女性)

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 3月7日 | 3月8日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 作業内容又は事業内容 | 間伐本数<br>間伐面積<br>搬出量 | 120本<br>10 a<br>≒3㎥<br><br>・講演会 | <br><br><br>・桜植樹地及び苗畑視察<br>・講演会<br>・ベンチ作り体験 | 120本<br>10 a<br>≒3㎥ | 桧20～40年生 |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 24人<br>1人<br>25人 | 18人<br>1人<br>21人 | 42人<br>2人<br>44人 | |
| 実　施　場　所 | | 奈良県吉野郡吉野町中千本周辺 | | | |

# 徳島県森林づくりリーダー養成講座

とくしま森林づくり県民会議
〒770-8570　徳島市万代町 1-1

## 1．活動の概要

県民、企業・団体等の森林づくり活動に対して関心が高まり、活動の支援を行うため、県内に公募し、新たに森林づくりの指導者（森林づくりリーダー）を養成（認定）する講座を実施した。

さらに、これまでに森林づくりリーダーの認定者に対して、スキルアップ及び森林づくり活動の幅を広げるためのステップアップ講座も実施した。

## 2．活動の成果

○森林づくりリーダー養成講座

９月 14 日から２月２日にかけて、基本講座 10 回を実施した。

受講生 16 名のうち、８名が認定基準（講座受講の７割受講）を満たし、令和元年度「徳島県森林づくりリーダー」として認定された。

今後は、養成した森林づくりリーダー資格者名簿を作成し、県内の学校関係や野外活動施設等に送付し、森林づくりリーダーとして活動を行う。

○森林づくりリーダー・ステップアップ講座

９月 21 日、10 月 26 日、12 月８日、１月 26 日、２月 12 日、２月 23 日の６日間、より専門性の高い講座を実施し、リーダー既認定者の 23 名がスキルアップを図った。

## 3．参加者の声

・日常ではなかなか体験できない活動が出来てとても良かった。
・期待していた以上に充実した講座内容だった。
・実際に森林づくりボランティアとして活動している人と出会えたのが良かった。
・森林の中で過ごすことの楽しさを改めて感じることができた。
・今後は、多くの人に森林に興味をもってもらえるよう活動して行きたい。

実績報告とりまとめ表

| | | |
|---|---|---|
| 実施時期 | ： | 令和元年９月 14 日　～　令和２年２月２日　　計 10 日（基本講座） |
| | ： | 令和元年９月 21 日　～　令和２年２月 23 日　　計６日（ステップアップ講座） |
| 事業量 | ： | 基本講座 10 回　ステップアップ講座６回 |
| 参加者 | ： | 県内 15 名　県外０名　計 15 名（リーダー養成講座：認定者数８名） |
| | | 県内 23 名　県外０名　計 23 名（ステップアップ講座） |
| 実施場所 | ： | 徳島県　名西郡神山町、勝浦郡上勝町、徳島市入田町、美馬市美馬町 |

# 2019 年度　森林ボランティアリーダー養成講座

情報交流館ネットワーク
〒 782-0078　高知県香美市土佐山田町大平 80

## 1．活動の概要

森林環境学習や自然体験活動の指導者の養成及び、森林ボランティアとして森林整備の第一線で活躍するリーダーを養成するとともに、木育や木使いなど木材利用を通して、森に親しみを持ち、森林環境の重要性を普及啓発することの出来る人材を育成する。そしてこの事業で生まれた森林ボランティアリーダーのネットワークを活かし国民参加の森づくり運動を推進することを目的としています。

## 2．活動の成果

同じ内容の講座を繰り返し行うことで、講座の質を向上させ、参加者の満足度と理解度を高めることに注力できるのも、この事業を活用させていただいているからこそできる大きな成果です。昨年の受講生が今回は講師として活躍するなど、指導者養成という成果もあった。竹細工講座では人と人の交流から新たに団体が誕生し、活発に活動しながら、子どもたちへの環境教育の現場ですでに活躍しています。また講座によっては県外からの参加者もおり、ボランティアのネットワークの構築も含めて、幅広い波及効果がありました。これらの人材とこれからも連携し、国民参加の森づくり運動、次代を担う子どもたちへの森林環境教育、自然体験活動を推進していきます。

## 3．参加者の声

・林業体験ができて、難しさが分かって良かった。
・チェーンソーのメンテナンスはやっとスムーズにできるようになった。反復が大事。
・竹を切った。しなりがあって木の枝にからむと外すことが大変だった。竹林の整備の大変さがよく分かった。
・期待した以上に素晴らしい体験をさせてもらってよかった。昔の暮らしのこと、知らなかったことも知れてもっといろんな人に知ってほしいし、自分にできそうなことは今の暮らしに取り入れていきたいと思った。自然とともに暮らして循環していく暮らしがしたい。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 令和元年 7 月 14 日から令和 2 年 2 月 24 日まで | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業内容 | 回数 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 合計 |
| 森づくり | 7 回 | 8 名 | | 5 名 | 5 名 | 8 名 | 2 名 | 3 名 | 2 名 | 33 人 |
| 夏休み親子木工サポーター講座 | 3 回 | 19 名 | 20 名<br>延べ 37 | | | | | | | 56 人 |
| 竹細工講座 | 4 回 | | | 8 名<br>延べ 32 | | | | | | 32 人 |
| 里山体験講座 | 3 回 | | | | | | 9 名 | 9 名 | 6 名 | 24 人 |
| グリーンウッドワーク講座 | 4 回 | | | | | | 8 名<br>延べ 32 | | | 32 人 |
| 草笛教室 | 0 回 | | | | | | | | 8 名 | 12 人 |
| 計 | | 27 名 | 37 名 | 37 名 | 5 名 | 8 名 | 43 名 | 12 名 | 16 名 | 185 人 |
| 実施場所 | | 高知県香美市土佐山田町大平 80 番地　高知県立森林研修センター情報交流館、森林総合センター内自然体験ゾーン、協定林 | | | | | | | | |

# 宮崎県みどりの少年団総合研究大会

宮崎県みどりの少年団連盟
〒880-0804　宮崎市宮田町10-28

## 1．活動の概要

みどりの少年団活動の発表や野外活動等を通じて相互交流を図ることを目的として、「みどりの少年団総合研修大会」を開催することとしていたが、実施直前に会場付近で新型コロナウイルス感染者が発生したため、やむを得ず中止とし、少年団の活動発表は書面審査により賞を決定した。「みどりの少年団総合研修大会」に代わり、今後の少年団活動の際に森の恵みや森との関わり方を学び、自然を愛する情操豊かな青少年を育成することを目的として、県内のみどりの少年団員に「みどりの手帳」を配付した。

## 2．活動の成果

県内の全てのみどりの少年団員に「みどりの手帳」を配付したことにより、少年団活動の際に、森の中で手帳を開くことで身近な自然をより深く学ぶことができた。

## 3．参加者の声

・児童生徒に内容の充実した手帳をいただきありがとうございました。
・みどりの手帳送付ありがとうございます。興味深い内容で子ども達も喜びます。
など、少年団育成会長から同様の意見が多数寄せられた。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 7月31日（金） | 12月7日（月） | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | 活動発表書面審査<br>最優秀賞<br>東大宮小みどりの少年団 | みどりの手帳配付<br>県内みどりの少年団41団 | 2回 | |
| 参加者数 | 県内のみ | 少年団員　7人 | 少年団員　1,374人 | 1.381人 | |
| 実　施　場　所 | | 宮崎市 | 県内全域 | | |

# 座学と体験を通じた子どもリーダー養成事業パートⅡ

特定非営利活動法人　たんぽぽ
〒892-0842　鹿児島市新屋敷町16　公社ビル324

## 1．活動の概要

多くの子ども達に森の大切さ･楽しさを伝えていくためには、同じ目線で見れる･伝えられるリーダーの養成が必要である。座学や実践・体験などにより森を深く知る事業とする。

座学・実践を通じて森林ボランティアの活動を知るとともに森での遊びを体験する中で危機管理を学び、森への理解と愛着を育む。

〇座学（2回）
・森林ボランティアの活動
・森と川の関係について

〇実践・体験（4回）
・間伐体験（竹・木など）
・森の観察会
・川の観察会
・森のあるものを使った物づくり
※各体験の中で危機管理を学ぶ。

## 2．活動の成果

座学と体験を組み合わせて実施したことにより、座学により森の機能や森の大切さを学びや体験活動で森の楽しさを学ぶことができた。また、体験活動のあらゆる場面で危機管理を学ぶ機会を設けたことにより森での危機管理の知識を得ることが出来たと思う。

子どもたちの中から今後リーダーとなる人材が生まれてくれることを期待する。今後も様々な要素を組み合わせた活動を企画し、実施していきたい。

## 3．参加者の声

・川の観察会で色んな魚を見つけることができた。川遊びをすることはあっても観察することはない為、新しい発見も多かった。
・ドングリや木の実でアクセサリーをつくったのが楽しかった。誰ひとり同じものはなく、どれも素敵に見えた。
・森の観察で色んな昆虫の名前、木・花の名前を覚えた。森はどこも一緒だと思っていたが地域によって生き物や植物が違うことを知った。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 8月24日 | 9月7日 | 9月21日 | 10月5日 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | 森林ボランティアの活動<br>座学 | 間伐体験<br>体験 | 森と川の関係<br>座学 | 川の観察会<br>体験 |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 32人<br>人<br>32人 | 28人<br>人<br>28人 | 28人<br>人<br>28人 | 32人<br>人<br>32人 |
| 実施場所 | | 鹿児島県鹿児島市春山町 | | | |

| 実　施　時　期 | | 11月2日 | 1月25日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | 森の観察会<br>体験 | 森のあるものを使った物づくり<br>体験 | | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | 30人<br>人<br>30人 | 28人<br>人<br>28人 | 178人<br>人<br>178人 | |
| 実施場所 | | 鹿児島県鹿児島市春山町 | | | |

# 憩いの森づくり in 南城

あかゆらぬ花会
〒901-0603　沖縄県南城市玉城字百名 470

## 1．活動の概要

厳しい台風や直射日光に耐えて比較的に生育しやすい沖縄在来樹木を育てて、その木陰に花木を植え、樹高を低く抑えて養生し、台風に耐え年中花を咲かせる憩いの森を作る。地域の老人クラブと連携・協力して、チラシやポスターなどによりボランティアを募集して、花植えイベントを実施して、市民や地域住民に広く知らしめた。ワークショップを開催して、活動を説明するとともに PR した。

## 2．活動の成果

地域の老人クラブと連携協力し、チラシ等の募集により親子のボランティア参加を得て花植えを実施することができ、地域の絆を深めることができた。活動を広く市民などに知らせることができた。

## 3．参加者の声

花や植物の名前を知ることができた。草むらにシリケンイモリを見つけた。お父さんと一緒に花を植えることができて楽しかった。おじいさんやおばあさんとお話をしながら一緒にお花を植えた。土いじり、花植えは楽しい。次も花植えがしたい。もらった花を育てて観察したい。

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 2019 年 11 月 16 日 | 2020 年 1 月 26 日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | 植樹祭<br>（玉城字親慶原）<br>花木　290 本<br>草花　550 本 | 花植え<br>（市役所前通り）<br>花木　10 本<br>草花　350 本 | 300 本<br>900 本 | |
| 参加者数 | 県　内<br>計 | 55 人 | 8 人 | 63 人 | （子供 11 人） |
| 実　施　場　所 | | 沖縄県南城市玉城字親慶原、佐敷新里 | | | |

# 国　際　交　流

# 気候変動対策と生物多様性保全と貧困対策に貢献する熱帯林での先住土地権尊重支援による森林保全の意義を伝えるセミナー実施

熱帯林行動ネットワーク
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-13-11
THE FORUM 千駄ヶ谷 4F

## 1．活動の概要

本事業の目的は、熱帯地域での先住民族や地域住民の土地権尊重や同意を得る権限強化で、大規模開発での森林減少にともなう環境・社会的な負の影響に対処する意義を伝え支援を広げることである。マレーシア・サラワクおよびオーストラリア・タスマニアから活動家を招聘し、東京・大阪にて計三回にわたり「2020 東京五輪で使われた合板はどこからーサラワクとタスマニアからの現場報告」「隠蔽された住宅建材ー建材用合板製品が由来するレインフォレストの現場から」と題するセミナーを実施した。

## 2．活動の成果

セミナーには企業やメディアから計 39 名の参加があったが、現地での森林破壊の現状や日本が果たすべき役割と責任について伝えることができた。日本も木材消費を通じてこれらの問題と繋がりを持っているため、企業からの参加者に対して問題解決に向けた直接的な提言ができたことは大きな成果である。しかしながら、当初、想定していた参加者数を集めることができなかった。今後は、森林問題に取り組む他の団体とも幅広い関係を築きながら連携していく必要があると考えている。その一方で、現場に影響を与えうる企業と情報交換を通じて対話ができる体制を築くことができたため、この関係を維持しつつ改善に向けた取り組みを継続的に行っていきたい。

## 3．参加者の声

セミナーを通じて現場での最新の動向を知ることができてよかったが、登壇者の数が多かったため、一人一人の話が浅くなってしまったことが残念であるとのお声をいただいた（企業関係者）

実績報告とりまとめ表

| 実　施　時　期 | | 2 月 18 日 | 2 月 18 日 | 2 月 20 日 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業量<br>又は<br>事業内容 | | セミナー開催 | 一般向けセミナー開催 | セミナー開催 | | |
| 参加者数 | 県　内<br>県　外<br>計 | ー人<br>ー人<br>15 人 | ー人<br>ー人<br>16 人 | ー人<br>ー人<br>8 人 | ー人<br>ー人<br>39 人 | |
| 実　施　場　所 | | 東京都千代田区（日比谷） | 東京都中央区（京橋） | 大阪府大阪市中央区 | — | |

# 令和元年度「緑と水の森林ファンド」公募事業　実行簿

**普及啓発事業　81 件**

| 番号 | 申 請 者 | 事　業　名 | 都道府県 | 採択額（千円） | 実行額（千円） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| A1 | 苫東・和みの森運営協議会 | 全国育樹祭に向けた、「森のようちえん」を生かした森林整備手法の確立と発信 | 北海道<br>新規 | 500 | 500 | |
| A2 | くしろ「木づな」フェスティバル実行委員会 | 釧路森林資源活用円卓会議 10 周年記念くしろ「木づな」フェスティバル | 北海道<br>新規 | 750 | 750 | |
| A3 | 青森県緑の少幼年団連盟 | 少年・少女グループへの緑を通じた環境教育推進事業 | 青森 | 500 | 500 | |
| A4 | 沖館地域緑の募金推進協力会 | 眺望山自然休養林を活用した健康増進活動 | 青森 | 200 | 200 | |
| A5 | 岩手県立大野高等学校 | 里山整備に若い力を～きのこプロジェクト～ | 岩手 | 350 | 112 | |
| A6 | 大野木工生産グループ | ～森のめぐみ･子どもたちへのメッセージ～「どんぐりからうつわまで」出前講座開設事業 | 岩手 | 650 | 555 | |
| A7 | 特定非営利活動法人 水守の郷・七ヶ宿 | 体感しよう「SDGs」！～森づくりは未来づくり～ | 宮城 | 200 | 200 | |
| A8 | 特定非営利活動法人 SCR | 自然にふれよう（山のがっこう） | 宮城 | 300 | 300 | |
| A9 | 特定非営利活動法人　Akita コドモの森 | 森のようちえん・野外教育までの流れをつくる！木に触れる感じからはじまる！森の子たちの根っこ育み事業 | 秋田<br>新規 | 450 | 450 | |
| A10 | 秋田杉桶樽サミット実行委員会 | 秋田杉桶樽サミット～生活の中の秋田杉の桶と樽～ | 秋田<br>新規 | 550 | 550 | |
| A11 | ガールスカウト山形県連盟 | フォレストサポート・2019 | 山形 | 200 | 200 | |
| A12 | 一般社団法人 子育てネットワーク ままもり | 木のおもちゃ広場の開催 | 茨城 | 800 | 0 | 未提出 |
| A13 | 特定非営利活動法人 やみぞの森 | 地域材による木工技術の普及と木材利用の拡大事業 | 茨城 | 800 | 800 | |
| A14 | NPO 環～ WA | 1500 年の歴史ある埴輪の里で SDGS | 茨城<br>新規 | 700 | 700 | |
| A15 | なか自然の会 | 静・古徳古道をめぐる散策路に付随した「冒険の森」整備事業 | 茨城<br>新規 | 300 | 300 | |
| A16 | 特定非営利活動法人 オオタカ保護基金 | サシバの里の「野遊びようちえん」 | 栃木 | 250 | 119 | |
| A17 | ぐんま山と森林推進協議会 | 森に親しむ啓発活動 | 群馬 | 350 | 350 | |
| A18 | ぐんま森林インストラクター会 | 森はともだち 楽しくまなぼう 森友 楽校 | 群馬 | 400 | 344 | |
| A19 | 倉渕ヤマアジサイの会 | 森の勉強と清掃とお楽しみ会 | 群馬<br>新規 | 200 | 200 | |
| A20 | 特定非営利活動法人 ジョイライフさやま | 環境の未来と夢を子供たちとともに | 埼玉 | 400 | 400 | |
| A21 | 木の家ネット・埼玉 | 木組みのジャングルジム「くむんだー」による「ちびっ子大工認定」事業 | 埼玉 | 400 | 0 | 未提出 |
| A22 | 特定非営利活動法人 観照ボランティア協会 | 第 4 回子どもと森をつなぐためのリーダー養成講座 | 千葉 | 400 | 400 | |
| A23 | 一般社団法人 全国林業改良普及協会 | 森林整備の推進に向けた効果的な普及啓発促進事業 | 東京 | 500 | 495 | |
| A24 | 一般社団法人 緑の循環認証会議 | 森林認証材の普及・拡大と持続可能な森林経営の実現 | 東京 | 1,000 | 1,000 | |
| A25 | 一般社団法人 産業環境管理協会 | 気候変動による自然資本への影響と対策に関する普及啓発活動 | 東京 | 600 | 600 | |
| A26 | International Society of Nature and Forest Medicine | 「医師と歩く森林セラピーロード」 | 東京 | 1000 | — | 期間延長 |
| A27 | 特定非営利活動法人 森づくりフォーラム | 初心者へ向けた森づくり体験会と指導者層の育成事業・意見交換会 | 東京 | 900 | — | 〃 |
| A28 | 「森づくり政策」市民研究会 | 森林社会学会創設のための連続講座 | 東京 | 800 | 800 | |
| A29 | 一般社団法人 TOBUSA | 「つくる」行為を通して、木の魅力発見プログラム | 東京 | 500 | 500 | |
| A30 | JUON NETWORK（樹恩ネットワーク） | 森づくり体験プログラム「森林の楽校（もりのがっこう）」2019・2020 | 東京 | 550 | 550 | |
| A31 | 特定非営利活動法人　こがねい環境ネットワーク | 都市部における若者による森林環境教育の実践 | 東京 | 500 | 260 | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| A32 | 一般社団法人 木のいえ一番振興協会 | 木・健康・木造建築シンポジュウム（仮称）の開催 | 東京 | 1000 | — | 期間延長 |
| A33 | 一般社団法人 もりのめぐみ | 森林空間を活用した保健活動 | 東京<br>新規 | 300 | 0 | 未提出 |
| A34 | 特定非営利活動法人　くにたち農園の会 | 小さな森で食べて遊んで森づくり | 東京<br>新規 | 300 | 300 | |
| A35 | NPO 法人 森のようちえん全国ネットワーク連盟 | 乳幼児親子のための森でいっぱいあそぼう | 東京<br>新規 | 400 | — | 期間延長 |
| A36 | 「森林・林業・山村問題を考える」シンポジウム実行委員会 | 都市と森林 新時代―木の都市を考える― | 東京<br>新規 | 650 | 587 | |
| A37 | 特定非営利活動法人　自然文化誌研究会 | 身近にあるエネルギーとしてみる森林資源の活用と森林環境教育 | 東京<br>新規 | 400 | 400 | |
| A38 | 一般社団法人 全国森の循環推進協議会 | 「水が繋ぐ地域と世代」促進事業 | 神奈川 | 1000 | 563 | 計画変更 |
| A39 | 一般社団法人　文化遺産を未来につなぐ森づくり会議 | 木造文化遺産補修用材の持続的な確保について | 神奈川 | 650 | 650 | |
| A40 | 特定非営利活動法人　こどもりクラブ | まちの中の森づくり活動 | 神奈川<br>新規 | 200 | 121 | 計画変更 |
| A41 | 木育全国生産者協議会 | 野外活動教育者のための『木と森のものづくり研修プログラム』の検討と試行実践 | 長野<br>新規 | 550 | 491 | 〃 |
| A42 | NPO 法人 調和の響き<br>エコツーリズムネットワーク | 地域資源の森林と堰の利活用－世界かんがい施設遺産大河原堰、滝乃湯堰から学ぶ－ | 長野<br>新規 | 400 | 362 | 〃 |
| A43 | 森のようちえん全国交流フォーラム in ぎふ実行委員会 | 森のようちえん全国交流フォーラム in ぎふ | 岐阜<br>新規 | 1,000 | 1,000 | |
| A44 | 梨の木里山づくりの会 | 梨の木の森を楽しみ学ぶ森林環境教育 | 愛知 | 200 | 200 | |
| A45 | 特定非営利活動法人 水とみどりを愛する会 | 小学校授業での森林体験学習 | 愛知 | 500 | 369 | 計画変更 |
| A46 | 公益社団法人 日本山岳会東海支部 | 猿投の森音楽祭 2019「猿投の森を体験しよう」 | 愛知<br>新規 | 550 | 550 | |
| A47 | チェンソーアートクラブ　マスターズ・オブ・ザ・チェンソー東栄 | 地域材の有効活用による循環型社会の形成 | 愛知<br>新規 | 400 | 400 | |
| A48 | 一般社団法人 日本木工機械工業会 | 日本の森林・木材利用セミナー | 愛知<br>新規 | 700 | 700 | |
| A49 | 一般社団法人 森の風 | 「子ども達と森を育て、そして遊ぼう」 | 三重 | 400 | 400 | |
| A50 | 一般社団法人 三重県森林協会 | ユネスコエコパークの森、森林ウォーキング | 三重 | 150 | 150 | |
| A51 | NPO 法人 大杉谷自然学校 | みんなで作ろう！森のアニメーション | 三重<br>新規 | 550 | 242 | 計画変更 |
| A52 | 三重の木の椅子展実行委員会 | 「三重の木の椅子展」開催事業 | 三重<br>新規 | 450 | 399 | 〃 |
| A53 | 特定非営利活動法人 京都森林・木材塾 | 地域産木材利用促進啓発事業 | 京都<br>新規 | 250 | 250 | |
| A54 | 一般社団法人 森のようちえん どろんこ園 | 森を楽しもう！森で学ぼう！ | 京都<br>新規 | 400 | 261 | |
| A55 | 大阪森林インストラクター会 | 箕面国有林勝尾寺園地「箕面ふれあいの森」における森林 ESD の促進～ガイドマップ作成と環境教育プログラムの実施～ | 大阪<br>新規 | 250 | — | 期間延長 |
| A56 | bioa（ビオア） | 教師向け森林 ESD 研修とワークショップの実施 | 大阪<br>新規 | 250 | 0 | 未提出 |
| A57 | 一般社団法人 ガールスカウト大阪府連盟 | いい音みつけよう！リュールシロフォン選手権！ | 大阪<br>新規 | 150 | 150 | |
| A58 | NPO 法人 サウンドウッズ | 地域の森と地域産木材の魅力を伝える「木材コーディネーター」養成事業 | 兵庫 | 800 | 800 | |
| A59 | 森林インストラクター兵庫 | 森林研修ツアー「兵庫の森づくり & 地形・地質と森林の成り立ち」 | 兵庫<br>新規 | 250 | 154 | 計画変更 |
| A60 | 一般社団法人　紀の国森社中（橋本ひだまり倶楽部） | 森でつながる！地域に広げる！森のようちえん ESD ナビ | 和歌山<br>新規 | 450 | — | 期間延長 |
| A61 | 日本伐木チヤンピオンシップ in 鳥取実行委員会 | 日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取 | 鳥取<br>新規 | 650 | 650 | |
| A62 | 特定非営利活動法人 隠岐しぜんむら | 森林を活用したプレーパーク活動 | 島根<br>新規 | 300 | 223 | 計画変更 |
| A63 | 特定非営利活動法人 コアラッチ | 森とともに SDGs | 島根<br>新規 | 500 | 0 | 未提出 |
| A64 | NPO 法人 倭文（しとり）の郷 | 里山保全の普及啓発事業 | 岡山 | 350 | 350 | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| A65 | NPO 法人 百華倶楽部 | 薪作り・炭焼きを通じての五感教育事業 | 広島<br>新規 | 300 | 300 | |
| A66 | 特定非営利活動法人 徳島県森の案内人ネットワーク | 少年少女里山マイスター養成講座 | 徳島 | 600 | 600 | |
| A67 | とくしま木づかい県民会議 | 「とくしま木づかいフェア 2019」の開催 | 徳島 | 700 | 700 | |
| A68 | 緑の少年団愛媛県連盟 | 地域で育てる緑の少年団～森の学校の開催～ | 愛媛 | 300 | 300 | |
| A69 | 特定非営利活動法人 ふくつ子どもステーション すてっぷ | 五感で森に親しみ森に学ぶ乳幼児期からの体験型森林環境教育事業 | 福岡 | 650 | 0 | 未提出 |
| A70 | 特定非営利活動法人 森の育ち場 | 森の育ち場 幼児の部 いっぽいっぽ | 福岡<br>新規 | 600 | 600 | |
| A71 | 特定非営利活動法人 森林をつくろう | 森林と都市を繋ぐ「新・木造の家」設計コンペ | 佐賀 | 750 | 750 | |
| A72 | 九州森林インストラクター会 | 森と水を学ぶ面白塾 | 熊本 | 300 | 300 | |
| A73 | NPO 法人 九州森林ネットワーク | 第 24 回九州森林フォーラム in 福岡市「大型建築物の木造木質化と地域材活用の可能性」 | 熊本 | 600 | 600 | (未提出) |
| A74 | スマイリー | 森の有難さを知り森林ボランティアを学ぼう | 鹿児島 | 450 | 450 | |
| A75 | 特定非営利活動法人 鹿児島ボランティアバンク | 女性目線の森林体験メニュー事業 | 鹿児島 | 450 | 450 | |
| A76 | 特定非営利活動法人 みどりの風かんかん | 森の恵みを実感する体験 | 鹿児島 | 400 | 400 | |
| A77 | 鹿児島県森林ボランティア連絡会 | R 元年度森林ボランティアの日活動 in「蒲生」 | 鹿児島 | 800 | 800 | |
| A78 | 特定非営利活動法人 ひばり倶楽部 | 母子家庭の親子の森林体験 | 鹿児島<br>新規 | 350 | 350 | |
| A79 | 特定非営利活動法人 もりびと | 里山の暮らしから森林を考える体験事業 | 鹿児島<br>新規 | 400 | 400 | |
| A80 | 学校法人 光の子ども自然学園 あゆみの森こども園 | 屋久島における幼児を中心にした森の活動事業の推進 | 鹿児島 | 600 | 600 | (未提出) |
| A81 | おやゆび姫 | 森を身近に感じる体験プログラム | 鹿児島 | 450 | 450 | |
| | | 小計　　69 件 | | 40,050 | | |

**調査研究事業　14 件**

| 番号 | 事　業　名 | 申 請 者 | 都道府県 | 採択額<br>(千円) | 実行額<br>(千円) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| B1 | 筑波大学生命環境系 | 民有林における森林管理のリスクマネジメントに関する調査研究 | 茨城<br>新規 | 400 | — | 期間延長 |
| B2 | 国立大学法人 埼玉大学教育学部 | 木育の地域教材、プログラムの開発とその実践効果に関する調査研究 | 埼玉<br>新規 | 600 | — | 〃 |
| B3 | 一般社団法人 全国森林レクリエーション協会 | 幼小連携に役立つ森林体験プログラムに関する調査研究 | 東京 | 900 | 244 | 計画変更 |
| B4 | 一般財団法人 林業経済研究所 | 林業用苗木の裸苗からコンテナ苗への移行における苗木生産経営の変化と課題の把握ー栃木県を事例にー | 東京 | 800 | 800 | |
| B5 | Momo 統合医療研究所 | 「働き方改革実行計画」に合わせた、森林空間を活用したメンタルヘルス対策推進の仕組みづくり・プログラム開発・効果検証 | 東京 | 650 | — | 期間延長 |
| B6 | 一般社団法人 協同総合研究所 | 竹材のエネルギーの社会的枠組み構築に関する調査 | 東京<br>新規 | 500 | 244 | 計画変更 |
| B7 | 慶応義塾 普通部　谷口真也 | 中学生から大学生まで連携して学校林を活用するための現地予備調査 | 神奈川<br>新規 | 400 | 384 | 〃 |
| B8 | 特定非営利活動法人　小山の森の木の学校 | 阿賀町三川地域における天然スギの樹幹解析を通じた森の成り立ちや森の構造の調査研究 | 新潟<br>新規 | 400 | 395 | |
| B9 | 富山福祉短期大学 幼児教育学科 | 森の幼稚園が持つ森林環境教育・自然保育の教育効果の質的検証 | 富山<br>新規 | 350 | — | 期間延長 |
| B10 | 公益財団法人 キープ協会 / 都留文科大学　増田直広 | 森林環境教育におけるインタープリター（環境教育指導者）トレーニングに関する研究 | 山梨 | 250 | 250 | |
| B11 | 公益社団法人 島根県緑化推進委員会 | 森林環境教育プログラムの開発に係る調査研究事業（第 3 年度） | 島根 | 800 | 800 | |
| B12 | 銀林の恵み森活プロジェクト実行委員会 | 「島根の未来の森林の担い手ネットワーク」構築事業 | 島根<br>新規 | 700 | — | 期間延長 |
| B13 | 奥山 洋一郎（鹿児島大学農学部） | 市町村が主導する森林・林業教育の推進体制に関する調査研究 | 鹿児島 | 650 | — | 〃 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| B14 | 鹿児島大学 農学部 森林計画学研究室 | スマート林業実現のための要素技術開発に関する調査・研究 | 鹿児島<br>新規 | 400 | — | 期間延長 |

小計　12 件　7,800

**活動基盤整備事業　21 件**

| 番号 | 事　業　名 | 申 請 者 | 都道府県 | 採択額<br>(千円) | 実行額<br>(千円) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| C1 | 学校法人 尚絅学院 | 森でコミュニケーションしよう「里山再生プロジェクト」 | 宮城 | 400 | 400 | |
| C2 | 特定非営利活動法人 Peace Field Japan | 大学生と留学生を対象とした森林環境教育プログラム | 東京 | 250 | 250 | |
| C3 | 子ども樹木博士認定活動推進協議会 | 「子ども樹木博士」実施団体の拡大・ネットワーク化の推進 | 東京 | 900 | 900 | |
| C4 | 公益財団法人 Save Earth Foundation | 「森から学ぶ」森林を活用した環境教育（森林ESD）の推進 | 東京 | 600 | 520 | 計画変更 |
| C5 | 上智大学大学院 地球環境研究科 | 学生と地域住民の両方を対象とした総合的な環境学習・ＥＳＤのフィールドとしての「ソフィアの森」の整備及び森林資源の活用の学びの場の創設 | 東京 | 400 | 400 | |
| C6 | NPO 法人 木づかい子育てネットワーク | 木と森の子育て実践とその支援を担うボランティアの養成 | 東京 | 800 | — | 期間延長 |
| C7 | 特定非営利活動法人 ワーカーズコープ | 豊かな森林の恵みを生かした山村生活体験 | 東京<br>新規 | 500 | 0 | 未提出 |
| C8 | 地域・地域間研究機構 | 能登半島の中山間地域における地域住民と交流住民との連携による活性化 | 東京<br>新規 | 500 | 500 | |
| C9 | モリダス | 安全で楽しい森林づくり活動を指導できるリーダー養成事業 | 東京<br>新規 | 850 | 275 | 計画変更 |
| C10 | のいちご会 | 森のようちえんボランティアリーダー養成事業 | 長野<br>新規 | 400 | 400 | |
| C11 | ぎふ森 遊びと育ち ネットワーク | ぎふ森 遊びと育ち 交流会 | 岐阜<br>新規 | 200 | — | 期間延長 |
| C12 | TNG 繋 | 「緑と水の森林ファンド」 | 山梨<br>新規 | 300 | 300 | |
| C13 | びわ湖の森のようちえん　滋賀森のようちえんネットワーク | 「びわ湖の森と自然を活用した保育・幼児教育」基盤整備事業 | 滋賀<br>新規 | 500 | — | 期間延長 |
| C14 | 一般社団法人 芦生もりびと協会 | 芦生をフィールドとした森林環境教育の実施・定着に向けた学社融合型推進体制の構築～由良川流域の小学校での活用をめざして～ | 京都<br>新規 | 600 | — | 〃 |
| C15 | 妙法寺ふれあいのまちづくり協議会 | 妙法寺の宝“自教園”リニューアルプロジェクト | 兵庫<br>新規 | 300 | 300 | |
| C16 | 奈良県森林ボランティア連絡協議会 | 世界遺産の吉野山で森林環境整備活動 | 奈良 | 350 | 263 | 計画変更 |
| C17 | とくしま森林づくり県民会議 | 徳島県森林づくりリーダー養成講座 | 徳島 | 600 | 600 | |
| C18 | 情報交流館ネットワーク | 2019 年度　森林ボランティアリーダー養成講座 | 高知 | 550 | 550 | |
| C19 | 宮崎県みどりの少年団連盟 | 宮崎県みどりの少年団総合研究大会 | 宮崎 | 700 | 527 | 計画変更 |
| C20 | 特定非営利活動法人 たんぽぽ | 座学と体験を通じた子どもリーダー養成事業パートⅡ | 鹿児島 | 450 | 450 | |
| C21 | あかゆらぬ花会 | 憩いの森づくり in 南城 | 鹿児島<br>新規 | 550 | 550 | |

小計　15 件　10,700

**国際交流事業　2 件**

| 番号 | 事　業　名 | 申 請 者 | 都道府県 | 採択額<br>(千円) | 実行額<br>(千円) | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| D1 | 一般財団法人 地球・人間環境フォーラム | 国際セミナー「森林減少と地球温暖化・生物多様性（仮）」の開催及び温暖化防止に資する森林保全の在り方に関する情報収集 | 東京 | 850 | — | 期間延長 |
| D2 | 熱帯林行動ネットワーク | 気候変動対応と生物多様性保全と貧困対策に貢献する熱帯林での住民土地権尊重支援による森林保全の意義を伝えるセミナー実施 | 東京 | 600 | 600 | |

小計　2 件　1,450

令　和　元　年　度

# 「 緑と水の森林ファンド 」

## 公 募 事 業 募 集 要 領

公益社団法人　国土緑化推進機構

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-４ 砂防会館別館（Ｂ棟５Ｆ）

TEL 03-3262-8457　FAX 03-3264-3974

# 令和元年度「緑と水の森林ファンド」公募事業募集要領

はじめに

社会環境の変化に伴い、国民の森林・みどりに対する関心はますます高まっており、具体的な「国民参加の森林づくり運動」を一層推進することが課題となっています。

平成２４年１２月「国際森林デー」の制定、平成２５年１１月「国連持続可能な開発のための教育１０年（ＥＳＤ）」世界会議等の意義、平成２７年９月の国連サミットで採択された１７の国際目標（SDGs：持続可能な開発目標）を念頭に、森林の重要性に対する理解の推進を図るとともに、森の幼稚園など新たな森林の利用や森林環境教育の推進を具体的に図っていくことが重要となっています。さらに、東日本大震災では海岸林が多大な被害を受け森林復興への支援が引き続き求められています。

このような中、公益社団法人国土緑化推進機構では、「緑と水の森林ファンド」の基本課題である森林資源の整備及びこれらを通じた水資源のかん養や森林の利用等に関する総合的な調査研究、普及啓発、基盤整備等の推進を図るため、幅広い民間団体の参加による国民運動として展開することを目的に、「緑と水の森林ファンド」公募事業を実施します。

以下に定める事項に基づき申請して下さい。

**〔　重点項目の設定　〕**

「緑と水の森林ファンド」公募事業による助成は、以下の重点項目に沿った４分野（普及啓発、調査研究、活動基盤の整備、国際交流）の事業に対し、重点的に助成を行うこととします。

**≪重点項目≫**

1　「森林環境教育（森のようちえんを含む)」、「震災復興支援」、「地域材の利用」、「地球温暖化防止と森林」、「森林と水」、「森林の利用」等の課題にポイントを置いた総合的・効率的な普及啓発

2　地域材の利用促進等山村資源の有効活用等による山村地域の活性化

3　リーダーの養成等の森林ボランティア活動支援

4　学校林活動の推進など森林環境教育（森のようちえんを含む）等による次世代の育成

5　森林の公益的機能、木質バイオマス、森林環境教育等に関する普及啓発・調査研究

**［１］助成対象者**

(1)民間の非営利団体（次の①又は②のいずれかに該当する団体や地域の自主的な活動組織）

①「特定非営利活動促進法」（平成１０年法律第７号）に基づく特定非営利活動法人

②以下の要件を満たす団体等

ア　規約等により適正な運営が行われることが確実であると認められること。規約等には、名称、事務所、会員、役員の構成、事業運営、会計年度等について規定されていること。

イ　営利を目的としないこと。

(2)非営利の法人

(3)個人（調査研究に限る。）

**［２］助成対象事業**

１　普及啓発

(1) 森林・緑・水に対する国民の認識を深めるための普及啓発

(2) 青少年を対象とする森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）など森林環境教育の促進

(3) 森林づくり活動や森林の総合的利用を通じた山村地域の活性化・地域づくり運動の推進
(4) 地域材の利用・木材需要の拡大、古紙利用推進に関する普及啓発

**2　調査研究**

(1) 森林の保全・公益的機能の増進等に関する調査研究
(2) 青少年を対象とする森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）など森林環境教育に関する調査研究
(3) 学校林や学校周辺林の教育的活用のための調査研究
(4) 地域材・山村資源の有効活用等山村地域活性化に関する調査研究

**3　活動基盤の整備**

(1) 森林 ESD（森のようちえんを含む）など森林を活用した環境教育等の青少年の育成に関するもの
(2) 森林ボランティアリーダーの養成・ネットワーク構築等
(3) 森林づくり活動を通した農山村と都市住民等との交流促進

**4　国際交流**

(1) 国内で開催される森林に関する国際会議への支援
(2) 森林・林業に関する海外との情報交換

ただし、上記［１］、［２］に該当するものであっても次の各号に該当する場合は、助成の対象となりません。

①　専ら特定の事業者の利益のために行われるもの
②　他の団体等への資金の助成等を内容とするもの
③　事業が申請者の負担において行うべきものと認められるもの
④　事業内容が一般に広く波及効果があると認められないもの
⑤　事業が自主的・組織的な活動と認められず、適切に完遂できると認められないもの

**［３］事業期間**

**令和元年７月１日から令和２年６月３０日まで**

**［４］助成対象経費**

（１）助成の対象となる経費は、次のとおりです。

| 項目 | 区分 | 摘要 |
|---|---|---|
| 講師・指導者・学識経験者への謝金等 | 謝金等 | 外部からの招請者に限る。<br>（旅費：実費、宿泊費：ビジネスホテル程度。） |
| 調査研究費 | 労賃等 | 外部の技術者等（旅費実費・宿泊費ビジネス） |
| 会場費 | 借上料 | 設営費を含む。 |
| 事務費 | 用品費 | |
| | 印刷費 | 報告書・パンフ・チラシの作成 |
| | 通信費 | |
| | その他 | |
| 資材費 | 器具・用具代 | 購入（事業実施に必要な簡易なもの）、借上げ |
| 森林づくり活動等のボランティア活動 | 受入れ施設費 | 公共施設等を宿舎として一括借上げる場合の宿泊費 |
| | 交通費 | 事業場所最寄り（公共交通の最終地点）の集合・解散場所から事業場所までの交通実費（チャーター料等） |
| | 保険料 | ボランティア等傷害保険料 |

（２）助成の対象とならないもの
①食糧等飲食費。
②汎用性があり資産の形成につながる資材の購入。
③森林ボランティア活動の　ア　労賃
イ　ホテル、旅館、厚生施設等の宿泊費
ウ 居住地から事業場所最寄り（公共交通の最終地点）の集合・解散場所までの交通費

**［５］助成金の限度**
団体１００万円、個人７０万円

**［６］応募方法**（助成申請書の提出）
申請者は、［様式１］「緑と水の森林ファンド」公募事業助成申請書を（公社）国土緑化推進機構へ郵送して下さい。
［送付先］公益社団法人　国土緑化推進機構　基金業務部あて
〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-4 砂防会館別館（Ｂ棟 5Ｆ）
TEL 03-3262-8457　FAX 03-3264-3974

**［７］募集期間**
**平成３１年２月１５日から平成３１年３月３１日**まで（消印有効）とします。

**［８］助成申請書に対する採択・不採択の決定及び通知**
助成申請書に対する採択・不採択については、森林ファンド業務検討会及び森林ファンド運営審議会の審議並びに当機構の理事会を経て決定します。
また、助成金額は、その適正な交付を行うため、当機構理事長が当該助成申請書を審査して決定し、７月上旬申請者に［様式２］により通知します。

**［９］実績報告書等の提出**
**事業採択を受けた申請者は、**事業の開始前に「別紙１」のスケジュール表を提出して下さい。
また、事業完了後２ヶ月以内に［様式３］の「緑と水の森林ファンド」公募事業実績報告書と「別紙２：報告要旨」を当機構に提出して下さい。なお、[別紙２：報告要旨]は、報告集として取りまとめ公表致しますので、電子データでの提出もお願いする予定です。

**［１０］領収書の添付**
実績報告書の提出に当たっては、同報告書の２決算報告(2)の支出欄の森林ファンド助成金支出内訳の決算額に対する領収書（明細書を含む。）を添付して下さい。

**［１１］助成金の交付**
(1) 助成金の交付は、事業実績報告書を助成申請書の事業計画等に即して審査を行い、適当と認めた経費を確定し、その旨を通知した後、指定の口座に送金します。
(2) 事業着手後に助成金の一部が必要な場合は、助成交付決定額の１／２以内の額を［様式４］により、概算請求をすることができます。

「緑と水の森林ファンド」公募事業　報告集　Vol.11

令和 3 年 2 月発行

発行　公益社団法人　国土緑化推進機構

〒102-0093　東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館
TEL.03-6362-8457　FAX.03-3264-3974
電子メールアドレス：info@green.or.jp
URL：http://www.green.or.jp

緑と水の森林ファンド

「地域材による木工技術の普及と木材利用の拡大事業」（東京都：エコプロ 2019）
特定非営利活動法人　やみぞの森（茨城県水戸市）

公益社団法人　国土緑化推進機構

VEGETABLE OIL INK

古紙パルプ配合率70％再生紙を使用